

目次

083201 国際広報メディア・観光学研究[Research in International Media, Communication, and Tourism Studies]	4
083202 社会調査法[Social Research Methods]	5
083203 地域研究[Area Studies]	7
083204 研究倫理と手法[Research Ethics and Methods]	9
083205 メディアリテラシー[Media Literacy]	11
083206 Modern Japanese Studies[Modern Japanese Studies]	13
083207 北海道観光研究[Tourism Studies in Hokkaido]	14
083208 メディア文化と観光[Special Lecture on Media Culture and Tourism]	16
083209 広報とマーケティング[Topics of Public Relations and Marketing]	18
083210 公共性とコミュニケーション[Public Communication]	20
083211 言語とコミュニケーション[Language and Communication]	21
083212 国際交流と地域文化[International Exchange and Regional Cultures]	23
083213 メディア文化と表象[Media Culture and Representation]	25
083214 基礎経営学[Introduction to Management]	27
083215 実践演習 I (インターンシップ)[Internship Program I]	29
083216 実践演習 II (インターンシップ)[Internship Program II]	31
083217 キャリア開発演習[Career Development]	33
083218 特別演習(言語研究実践)[Practical Method of Linguistics and Language Education Studies]	34
083219 特別演習(タンデム言語学習)[Tandem Language Learning Project]	36
083220 高度実践英語演習 I [Advanced Practical English I]	37
083221 高度実践英語演習 II [Advanced Practical English II]	38
083222 情報戦略論演習[Information Strategy]	39
083223 サービス産業広報論演習[Public relations in the Service Industry]	41
083224 デジタル・コミュニケーション論演習[Strategic Digital Communication]	43
083225 広報・広告産業論演習[PR Service Industry Studies]	45
083226 マルチメディア表現論演習[Multimedia Studies]	47
083227 メディア観光論演習[Media and Tourism Studies]	49
083229 観光マーケティング論演習[Tourism Destination Marketing]	50
083230 観光地域ビジネス論演習[Tourism Destination Business and Marketing]	52
083231 文化越境論演習[Transcultural Studies]	54
083232 ポピュラー文化論演習[Popular Culture Studies]	56
083233 公共社会論演習[Public Society]	58
083234 国際交流論演習[International Exchange Studies]	60
083235 言語社会論演習[Language in society: An introduction to sociolinguistics]	62
083236 言語コミュニケーション論演習[Communication Studies]	63
083237 言語研究方法論演習[Methodology of Linguistics Research]	65
083239 言説分析論演習[Discourse Analysis]	67

083240	言語応用論演習[Applied Linguistics] □	69
083242	国際経営論演習 I (経営戦略)[International Business Management (Development Strategies)] □	71
083244	国際経営戦略広報論演習[International Management and Corporate Communication] □	73
083245	広報企画論演習[Public Relations Planning Studies] □	75
083246	組織コミュニケーション論演習[Organizational Communication Studies] □	77
083247	公共文化論演習[Cultural Diversity and Communication] □	79
083249	市民社会論演習[Civil Society Studies] □	81
083250	メディア社会論演習[Media and Society] □	83
083251	政治参加論演習[Political Participation] □	85
083252	華語メディア論演習[Sinophone Media Studies] □	87
083253	政治コミュニケーション論演習[Political Communication] □	90
083254	ジャーナリズム事例演習[Case studies:Journalism] □	92
083255	調査報道事例演習[Case studies:Investigative Journalism] □	94
083256	中国メディア論演習[Chinese Media Studies] □	95
083257	言語習得論演習 I [Language Acquisition I] □	97
083258	言語習得論演習 II [Language Acquisition II] □	99
083259	多言語相関論演習[Cross-linguistic Studies] □	101
083260	言語情報処理論演習[Language Processing] □	103
083262	比較日本語論演習[Contrastive Studies of Japanese and Other Languages] □	104
083263	日本語伝達論演習[Instructional Design] □	106
083264	日本語教育論演習[Japanese Language Pedagogy] □	108
083266	ジェンダー社会文化論演習[Gender, Society and Culture] □	110
083267	芸術社会論演習[Art and Society] □	112
083268	イメージ論演習[Image Studies] □	114
083269	The Body and Gender[The Body and Gender] □	115
083270	文化実践論演習[Cultural Practice Studies] □	117
083271	表象文化論演習[Representation and Cultural Studies] □	119
083272	観光文化論演習[Tourism and Culture] □	121
083273	観光社会学演習[Sociology of Tourism] □	123
083274	観光人類学演習[Anthropology of Tourism] □	124
083275	北海道文化資源論演習[Cultural Resource Management in Hokkaido] □	125
083276	音楽ツーリズム論演習[Music and Tourism] □	127
083277	Tourism and Public History[Tourism and Public History] □	129
083279	観光創造論演習[Tourism and Innovation] □	130
083290	観光地理学演習[Seminar on Tourism Geography] □	132
083291	多文化共生論演習[Multicultural Coexistence] □	134
083292	コンテンツツーリズム論演習[Contents Tourism Planning & Management] □	136
083294	森林美学演習[Forest Aesthetics] □	138
083295	コミュニティ・ベースド・ツーリズム論演習[Community Based Tourism] □	140
083297	アドベンチャーツーリズム論演習[Adventure Tourism Studies] □	142

083298 観光地域マネジメント論演習[Destination Management Studies] □	144
083299 ランドスケープ・デザイン論演習[Landscape Design] □	146
083300 Tourism and Regional Revitalization[Tourism and Regional Revitalization] □	148
083301 地域経済論演習[Seminar on endogenous rural Development] □	149
083302 インバウンド・ツーリズム論演習[Inbound Tourism to Japan] □	150
083304 文化遺産国際協力論演習[International Cooperation for Cultural Heritage] □	152
083305 ヘリテージ論演習[Heritage Studies] □	154
083307 文化資源マネジメント論演習[Cultural Resource Management] □	156
083308 社会調査法 I (定性・フィールドワーク)[Social Research Methods : Qualitative, Fieldwork] □	158
083309 社会調査法 II (定量・データマイニング)[Social Research Methods : Quantative, Data Mining] □	160
083310 情報メディアと観光[Information Media and Tourism] □	162
083311 メディア観光表象論演習[Media and Tourism Studies] □	164
083313 観光デザイン論演習[Creative Tourism Design] □	165
083314 エコツーリズム論演習[Ecotourism Studies] □	167
083315 ソーシャルメディア論演習[Social Media] □	169
083401 観光地域マネジメント論演習【履修証明プログラム】[Destination Management Studies] □	171
083402 観光マーケティング論演習【履修証明プログラム】□ □	173
083403 DMO 運営実践講習【履修証明プログラム】□ □	175
083404 観光ファンリテリマネジメント実践講習【履修証明プログラム】□ □	177
083405 MICE・イベントマネジメント実践講習【履修証明プログラム】□ □	179
083406 北海道観光研究【履修証明プログラム】□ □	181
083407 メディア文化と観光【履修証明プログラム】[Special Lecture on Media Culture and Tourism] □	183
083408 広報とマーケティング【履修証明プログラム】[Topics of Public Relations and Marketing] □	185
083409 アドベンチャーツーリズム論演習【履修証明プログラム】□ □	187
083410 インバウンド・ツーリズム論演習【履修証明プログラム】□ □	189
083411 観光創造論演習【履修証明プログラム】□ □	191
083412 コミュニティ・ベースド・ツーリズム論演習【履修証明プログラム】[Community Based Tourism] □	193
083413 観光地域ビジネス論演習【履修証明プログラム】[Tourism Destination Business and Marketing] □	195
083414 コンテンツツーリズム論演習【履修証明プログラム】□ □	197
083415 世界遺産マネジメント論演習【履修証明プログラム】□ □	199
083416 観光地理学演習【履修証明プログラム】□ □	201
083417 森林美学演習【履修証明プログラム】□ □	203
083418 広報・広告産業論演習【履修証明プログラム】[PR Service Industry Studies] □	205
083419 デジタル・コミュニケーション論演習【履修証明プログラム】[Strategic Digital Communication] □	207

科目名 Course Title	国際広報メディア・観光学研究[Research in International Media, Communication, and Tourism Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	各指導教員（国際広報メディア・観光学院）		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083201
期間 Semester	通年	単位数 Number of Credits	6
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6000		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	0 必修科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 必修科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	国際広報メディア観光学、修士論文		
授業の目標 Course Objectives	週1回の通常の授業枠組みとは別に、特に、修士論文及び特定課題研究報告書の作成に重点をおいて、指導教員が個別授業を行い、修士論文及び特定課題研究報告書の執筆を効果的に進めることを目的とする。		
到達目標 Course Goals	1. 修士論文及び特定課題研究報告書の執筆の基礎となる能力を獲得する。 2. 各テーマに応じて必要とされる作業の構成員・方法論等を獲得する。		
授業計画 Course Schedule	修士論文、特定課題研究報告書の全体構成、文献・データの収集と利用、引用・注のつけ方等、学術論文の技法について、各自の修士論文・特定課題研究報告書執筆の進展に配慮しながら、具体的に指導する。 到達目標に達するために、指導教員が個別に授業を行うことで、執筆者の能力に即した指導を行う。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	各指導教員が指示する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	各自の修士論文・特定課題研究報告書への作成の取組み方、理解度などを基に、指導教員が「秀・優・良・可」の4段階で評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	社会調査法[Social Research Methods]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	張 ジュヒョク [JANG Juhyeok] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	于 海春[YU Haichun](メディア・コミュニケーション), 上田 裕文[UEDA Hirofumi](メディア・コミュニケーション), 田邊 鉄[TANABE Tetsu](情報基盤センター), 天田 顕徳[AMADA Akinori](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083202
期間 Semester	1学期(春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5100		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 基礎共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	社会調査、インタビュー、参与観察、フィールドワーク、エスノグラフ、まちづくり、地域づくり、公共人類学、企業、インターネット技術、マルチメディア技術、社会学、人類学、観光学、宗教学、生活文化、環境問題、地域社会、理論と仮説、研究類型、データの記述、データからの推測、検定、相関、単回帰、重回帰		
授業の目標 Course Objectives	この授業では、「人間とその行動」を対象とする観光、広報メディア、コミュニケーション、言語教育などの学問領域で必要とされる定性的および定量的研究の基礎を習得することを目指す。まず、質的社会調査の基本概念を理解し、フィールドワークを含む定性的データの収集・分析・活用プロセスを学ぶことで、具体的な研究対象に対して社会調査を実施するために必要な知識と技術を身につける。また、研究論文を理解するための方法論を学びながら、定量的なデータ分析の基礎を実践的に身につける。		
到達目標 Course Goals	この授業では、以下の目標を達成することを到達目標とする。 ①社会調査法の基本概念を理解し、社会調査のプロセスを把握して、適切な先行研究の調査を通じて自らの研究計画を立案し、実践できるようになる。 ②質的データの収集・分析・利用・保存に関する技法を理解し、修士論文研究において社会調査を有効に実施し活用できるようになる。 ③平均の差や変数間の関連性を分析し、母集団における関連や影響を検討できるようになる。		
授業計画 Course Schedule	この授業は、前半4回分は定性調査、後半4回分は定量調査に関する内容を取り扱う。 ① 観光まちづくりにおける質的研究(上田裕文、4/9) 観光まちづくりにおける質的研究のデザインとプロセスについて学ぶ。 ②観光地における地域イメージの分析(上田裕文、4/16) 地域における空間認識や、場所のイメージ形成について、その調査手法と分析手法を学ぶ。 ③フィールドワークと民族誌(天田顕徳、4/23) 民族学および民俗学の歴史を概観しながら、研究方法としての「フィールドワーク」や「民族誌」の特性や課題について学ぶ ④マルチメディア技術を用いた社会調査(田邊鉄、5/7) 質的データの収集・利用・保存について、生成 AI を含む情報技術の進歩を視野に入れながら検討する。		

<p>⑤統計基礎と記述統計(于海春、5/14) 帰無仮説、対立仮説、記述統計量、有意確率など、定量研究の基礎概念について学ぶ。また、量的データの特徴をまとめる記述統計の標準的方法と、母集団の特徴を標本の観測データから推論する推測統計の基本的仕組みを学ぶ。具体的には、代表値、散布度、正規分布、母集団とサンプリング、統計的検定の手続き等が講義される。</p>
<p>⑥検定(于海春、5/21) 2 群間の平均の差の検討方法(t 検定)を学習し、母集団における関連や影響を検討する方法を学ぶ。</p>
<p>⑦分散分析と相関分析(張ジュヒョク、5/28) 3 群間以上の平均の差の検討方法(分散分析)を学習し、母集団における関連や影響を検討する方法を学ぶ。なお、変数間の線形関係を確認する方法である相関分析について学ぶ。</p>
<p>⑧回帰分析(張ジュヒョク、6/4) 独立変数が従属変数へ及ぼす影響を確認する回帰分析について学ぶ。具体的には、単回帰分析、重回帰分析等が講義される。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 各回の講義テーマに応じて、各担当者教員が受講者に読むべき参考文献・資料をアナウンスするので、必要に応じて予習・復習を行うこと。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System ※ 全 8 回の授業で各担当教員が課す小課題によって評価を行う(12.5 点×8 回=100 点)。 ※ 小課題の内容および提出方法については、各回の担当教員が指示する。 ※ 授業を欠席した場合は、各担当教員の指示に従うこと。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 各担当教員が、資料や PDF を事前に Moodle で配布する予定 Each instructor plans to distribute materials and PDFs in advance via Moodle.</p>
<p>講義指定図書 Reading List 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方／脇田貴文・浦上昌則：東京図書，2011</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	地域研究[Area Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	玄 武岩 [HYUN Mooam] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	田代 亜紀子[TASHIRO Akiko](メディア・コミュニケーション), 原田 真見[HARADA Mami](メディア・コミュニケーション), 石黒 侑介[ISHIGURO Yusuke](メディア・コミュニケーション), PAICHADZE SVETLANA[PAICHADZE SVETLANA](メディア・コミュニケーション), 許 仁碩[HSU Jen-Shuo](メディア・コミュニケーション), 吉沢 直[YOSHIZAWA Nao](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083203
期間 Semester	1 学期 (春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5100		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 基礎共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	地域研究、方法論、東南アジア、ニュージーランド、ロシア、フランス、インド、台湾、東北アジア		
授業の目標 Course Objectives	世界の各地域をフィールドとする教員による地域研究の事例を通して、地域研究の多様なアプローチの仕方についての理解を深める。		
到達目標 Course Goals	地域研究の方法論を学ぶとともに、特定の地域や国の固有性の理解から出発して複数の地域や国の関係性や関連性、共通性を見出す視点を養うことを目標とする。		
授業計画 Course Schedule	<p>セクションの順番は入れ替わる可能性がある。</p> <p>第1セクション:地域研究入門(田代亜紀子) 地域研究は、ある特定の地域を自分の専門分野だけではなく、様々な視野から総合的に捉えようとする。講義では、これまでの地域研究のあり方と方法論を検討する。</p> <p>第2セクション:東南アジア(田代亜紀子) 東南アジアを対象とした地域研究のこれまでの研究蓄積を概観することで、初回授業の「地域研究」とは何か、を再考する。</p> <p>第3セクション:ニュージーランド(原田真見) 二文化/多文化主義の狭間にあるニュージーランド社会を例に、社会の分断や融合のメカニズムを考察する。</p> <p>第4セクション:ロシア(パイチャゼ・スヴェトラナ) ロシア極東における中国人、朝鮮人、日本人移民が築いてきた生活・文化的空間について考察し、また日本におけるロシアからの移住者・亡命者によって残された文化的遺産について学習する。</p> <p>第5セクション:フランス(吉沢直) フランスアルプスのスキーリゾートについて、観光地理学的な視点からその発展プロセスと気候変動への対応について学んでいく。</p> <p>第6セクション:インド(石黒 侑介) インドのヒマラヤ山地域での調査訓練を通じ、農村問題を解決するメタファシリテーション調査方法と人口地理学の基礎を学んでいく。</p>		

<p>第7 セクション: 台湾(許仁碩) 移民社会である台湾を対象とした地域研究の概要を紹介し、地域研究の社会還元の実践を考える。</p>
<p>第8 セクション: 東北アジア(玄武岩) 戦後の東アジアにおける「記憶と和解」のポリティクスを、「過去の克服」に向けた〈ポスト帝国〉の連帯として位置づけ、その実践的意味を問いなおす。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 参考文献は、講義開始時や、各教員がそれぞれの担当セクションで紹介する。 各回で指示された参考文献に目を通すことが望ましい。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 以下の基準により評価する。 ①毎回の講義への参加・貢献度、ミニレポート(40%) ②期末レポート(60%)</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	研究倫理と手法[Research Ethics and Methods]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	宮内 拓也 [MIYAUCHI Takuya] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	金 ソンミン[KIM Sungmin](メディア・コミュニケーション), 野澤 俊介[NOZAWA Shunsuke](高等教育推進機構), 田中 英資[TANAKA Eisuke](メディア・コミュニケーション), 阿部 真[ABE Makoto](メディア・コミュニケーション), 小西 隆之[KONISHI Takayuki](メディア・コミュニケーション), 葛西 周[KASAI Amane](メディア・コミュニケーション), 中山 千尋[NAKAYAMA Chihiro](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083204
期間 Semester	1 学期 (春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5100		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 基礎共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	研究倫理、研究手法、引用、研究協力者、質的研究		
授業の目標 Course Objectives	<p>現在、学術研究における研究倫理は、常に社会からの厳しい目に問われている。また本学院におけるような学際的な研究領域においては、研究手法もまた多様でありその選択や組み合わせに迷いが生じる場合もある。この授業では、研究倫理に関する一般的な知識を身に付けたうえで、様々な研究手法について理解し、かつそうした研究手法と関連して生じる研究倫理上の諸問題を正しく理解することを目標とする。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>個々の研究テーマに応じて適切な研究の手法を選択でき、かつそうした研究を研究倫理を守って遂行できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回: ガイダンス/経験科学の手法と倫理(宮内拓也) この授業では科目全体のガイダンスを行った後、文部科学省のガイドラインが示す研究活動の基本的考え方を確認する。続いて、経験科学の手法を踏まえ、研究の進め方に関わる諸判断が研究倫理と不可分であることを考察する。研究不正にとどまらず、信頼性ある知識生産を支える方法と倫理の関係を理解することを目的とする。</p> <p>第2回: データ収集・分析手法と倫理的手続き(阿部真) この授業では、研究参加の依頼の仕方や得られたデータの取り扱いが、データ収集・分析方法によってどのように異なるかを検討する。また、所属機関への研究倫理申請や、ジャーナル投稿時の注意点についても学ぶ。</p> <p>第3回: 利益相反と研究者の社会的責任(小西隆之) ケーススタディーやディスカッション、ロールプレイ等を通して、特に大学院生が経験しうる利益相反の事例に関する理解を深め、その対策と、責任ある研究活動のための素地を形成することを目的とする。</p> <p>第4回: 質的研究のパラダイムと倫理(金ソンミン) 本授業では、質的研究を支える理論的パラダイムを整理し、研究の問い・方法・解釈が、いかなる認識論的前提のもとで成立しているのかを検討する。あわせて、研究の設計と分析方法、ならびに質的研究に伴う倫理的問題について考察する。</p> <p>第5回: エスノグラフィック・フィールドワーク(田中英資) 本授業では、参与観察や研究対象となる人々との対話などを通して、現場で起こっていることを内側から捉えるエスノグラフィーの手法について概説する。そのうえで、その手法のもつ倫理的な問題点についても考察する。</p> <p>第6回: 引用の手法と理論(野澤俊介)</p>		

<p>本授業では 1) 学術論文における引用の具体的な手法や典型表現について学び、2) 対話、声といった分析概念を援用しつつ、引用の実践に関わる理論的意義について考察する。</p> <p>第7回:他者を研究対象とする際の倫理と手法(葛西周) 他者を記述・分析する上で生じやすい個別事例の一般化や代表性の付与、言語的・文化的翻訳の非対称性、調査する側の権力性といった問題を前提として、研究者としての立場の自覚と研究手法の適切な運用について考える。</p> <p>第8回:論文の構成と先行研究の位置づけ(中山千尋) 本授業では、学術論文の基本的な構成を確認し、論文の中で先行研究がどのように扱われているかを学び、先行研究を参照することの意義を研究倫理の観点から考察する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 毎回、Moodle 上にアップされた資料等を予習し、予想される授業のポイントや疑問点をメモし、授業中に質問等でそれらを理解できるようにする。授業後は小テスト等の課題で不明だった点を復習する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 授業への参加度:60% 研究倫理を遵守し研究手法を選択する能力をみる小テスト、レポート等:40%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 授業開始前に Moodle 上で指示する。Information on texts/textbooks will be given on Moodle before the lecture.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	メディアリテラシー[Media Literacy]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	城山 英巳 [SHIROYAMA Hidemi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	鄭 惠先[JUNG Hyeseon](高等教育推進機構), 田邊 鉄[TANABE Tetsu](情報基盤センター), 齋藤 拓也[SAITO Takuya](メディア・コミュニケーション), 許 仁碩[HSU Jen-Shuo](メディア・コミュニケーション), 富成 絢子[TOMINARI Ayako](メディア・コミュニケーション), 志柿 浩一郎[SHIGAKI Koichiro](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083205
期間 Semester	1 学期 (春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5100		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 基礎共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ジャーナリズム、民主主義、偽情報、フェイクニュース、集合的記憶、メディアと権力、メディアテキスト分析、アイデンティティ、情報と利用者、映像メディア、デジタル化社会、Explanatory Journalism		
授業の目標 Course Objectives	メディアシステムが複雑化した現代で、メディアをいかに理解し、利用するのは非常に重要である。この授業では、いわゆるメディアリテラシーを構成する言語などの諸要素や発揮される場面での特殊性など、当該現象の多層性、多面性を提示し、その本質と重要性を理解させることを狙いとする。		
到達目標 Course Goals	(1)メディアリテラシー概念の多面性を理解し、説明できる。 (2)具体的なメディア現象に対する理解の基盤や背景を提示し、議論できる。 (3)メディアリテラシー概念と自分の研究テーマとを関連付け、それを説明できる。		
授業計画 Course Schedule	<p>解析の視点や手法も習得させるため、具体的な個別リテラシーが発揮される状況や例に即して考察させる方法をとる。(オムニバス方式全8回)</p> <p>第1回(4月7日)城山英巳 SNS 民意が民主主義や共生社会を揺るがす中でジャーナリズムの存在意義を考えることで、メディアリテラシーの基本的知識を得る。</p> <p>第2回(4月14日)許仁碩 フェイクニュースを知る:どう作られる、なぜ読まれる、どう防げる。具体的な事例から、フェイクニュースが生まれる社会的な背景を考察する。</p> <p>第3回(4月21日)齋藤拓也 集合的記憶の制度化、記憶を巡る抗争の可能性を中心に、メディアの権力作用について講義し、考察する。</p> <p>第4回(4月28日)富成絢子 メディアテキストを分析し、言語表現から見えてくる社会的現象やアイデンティティを考察する。</p> <p>第5回(5月12日)田邊鉄 情報と利用者をとを媒介する機器やサービスの重要性和問題を再検討し、その理想形を考察する。</p> <p>第6回(5月19日)鄭惠先 映像メディアの言語的特徴を、ジャンルや翻訳などの意図的な変形事例を通じて、役割語研究として再考する。</p> <p>第7回(5月26日)志柿浩一郎 デジタル時代、複雑な世界を「わかる」に変える:Explanatory Journalism を手がかりに。</p> <p>第8回(6月2日)城山英巳 SNS で偽情報があふれる社会にとつての「信頼できる情報」とは何かを考える。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			

授業開始時に説明する。各回の詳細は Moodle 参照。
成績評価の基準と方法 Grading System 各担当教員が授業時にミニレポートの課題を提示するので、締め切りを守って提出すること。8 回の講義のうち、6 回以上のミニレポート提出が成績評価の前提であることに十分注意すること。提出されたミニレポートの合計点で評価する。
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	Modern Japanese Studies[Modern Japanese Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	クック エマ [Emma Cook] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors	シルツ ミヒヤエル [SCHILTZ MICHAEL](高等教育推進機構), BULL JONATHAN EDWARD[BULL JONATHAN EDWARD](高等教育推進機構), Susanne Klien[SUSANNE Klien](高等教育推進機構)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083206
期間 Semester	1学期(春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5101		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 基礎共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives			
到達目標 Course Goals			
授業計画 Course Schedule			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
成績評価の基準と方法 Grading System			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	英語版シラバスをご参照ください。		

科目名 Course Title	北海道観光研究[Tourism Studies in Hokkaido]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小泉 大輔 [KOIZUMI Daisuke] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors	石黒 侑介[ISHIGURO Yusuke](メディア・コミュニケーション), 岡田 真弓[OKADA Mayumi], 田代 亜紀子[TASHIRO Akiko](メディア・コミュニケーション), PAICHADZE SVETLANA[PAICHADZE SVETLANA](メディア・コミュニケーション), 今井 太志[IMAI Futoshi](公共政策学研究センター), 中島 尚子[NAKAJIMA Naoko](公共政策学研究センター)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083207
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5110		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 専門共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	北海道 北海道遺産 観光創造 観光デザイン CBT=community based tourism 官民協働=PPP 地域資源マネジメント 観光施設運営 地域協働 ロングトレイル DMO=Destination Management Organization 観光戦略 明日の日本を支える観光ビジョン DMO 政策 インバウンド政策 国立公園 野生生物 サステイナブル・ツーリズム アイヌ民族 UGC(ユーザー生成コンテンツ) 感情的デスティネーション・イメージ プラットフォーム・ガバナンス		
授業の目標 Course Objectives	北海道の観光は、亜寒帯の気象条件によって形成される自然環境や、農業景観、冷涼な気候ならではの食文化や先住民族アイヌが育んできた文化や景観など、北海道独自の観光資源が支え、第一次産業に並ぶ主要な産業としての成長を遂げてきた。本講義はその北海道観光を多角的に分析し、少子高齢化が進み地方の衰退が危ぶまれる状況下、観光の力を再認識し、北海道経済への貢献と新たな観光地創造を模索することを目的とする。		
到達目標 Course Goals	北海道観光を「価値共創」「地域協働」「インバウンド政策」の3つの視点でその重要性やプロセスについて理解し、説明することができる。		
授業計画 Course Schedule	(オムニバス方式/全8回)※講義の順番は変更の場合がある		
	6/8 北海道観光概観(小泉大輔) 戦後の国土復興と高度成長域以降の北海道観光に焦点を当て、その変遷と特徴を解説、北海道の基幹産業に成長した観光の姿を概観し今後の展望について学ぶ。		
	6/15 北海道の観光を地域で支える観光協会とDMO(石黒侑介) 北海道に所在する170を超える観光協会に対する悉皆調査の結果を見ながら、北海道観光を地域で支える観光協会の現状、DMOとしての特徴について解説する。		
	6/22 北海道の地域を支える官民の中間団体(今井太志) 行政政策としての観光政策の位置づけの変遷を確認するとともに、前週で行った北海道観光を地域で支える観光協会・DMOに関する考察を踏まえ、より広い観点から地域活性化の文脈における官民の中間団体の意義や課題について考える。		
	6/29 環境・観光政策の北海道における展開(中島尚子) 国立公園、世界遺産、野生生物等の自然観光資源に関する制度や施策の北海道における展開について学ぶ。		
	7/6 北海道遺産と観光(田代亜紀子)		

<p>北海道遺産は、2001年の第1回選定から始まり2022年の第4回選定までで全74件が登録されている。本講義では、北海道遺産を通して「遺産」と「観光」の関係性を考える。</p> <p>7/13 感情とUGCがつくる北海道の観光イメージ: 価値共創・地域協働・インバウンド(張慶在) 観光地イメージは制度的なPRだけでなく、レビューやSNSなどのUGCによって「感情」を伴いながら生成・拡散される。本講義では、北海道を事例に、UGCが地域の価値共創と協働実践、そしてインバウンド需要形成にどう関与するのかを、簡単なデータ読解演習とともに考察する。</p> <p>7/27 ボーダー地域としての北海道(パイチャゼ スヴェトラナ) 国境地域である北海道では時代によって人の移動がさまざまな形式で行われた。本講義では北海道を事例にして、国際危機とその解消がボーダー地域在住者にどのような影響を与えてきたのかを考える。</p> <p>8/3 アイヌ民族と北海道観光の過去・現在・未来(岡田真弓) 北海道観光とアイヌ民族とのかかわりを歴史的にひもときながら、現在のアイヌ文化観光の現状を理解し、その課題や展望について先住民族観光の概念に基づきながら議論する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 指示する図書、関連HP、事前配布プリントの精読。 内容は第1回の講義で全て指示するのでそれ以前は不要。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 毎回の授業で行う小レポートにより評価する。 期末レポートは課さない。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	メディア文化と観光[Special Lecture on Media Culture and Tourism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	山村 高淑 [YAMAMURA Takayoshi] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors	田中 英資[TANAKA Eisuke](メディア・コミュニケーション), 金 ソンミン[KIM Sungmin](メディア・コミュニケーション), 岡本 亮輔[OKAMOTO Ryosuke](メディア・コミュニケーション), 天田 顕徳[AMADA Akinori](メディア・コミュニケーション), ONG YI XUAN[ONG YI XUAN](メディア・コミュニケーション), 石野 隆美[ISHINO Takayoshi](メディア・コミュニケーション), 山崎 幸治[YAMASAKI Koji](アイヌ・先住民)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083208
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5110		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 専門共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	メディア文化、観光、観光のまなざし、語り、自己と他者、ヘリテージ、音楽、観光空間、メディア表象、場所性、展示とインタープリテーション、ツーリストアート、メディアコンテンツ、場所と体験のメディア化、モビリティ、空港		
授業の目標 Course Objectives	本科目では、人や情報のモビリティがますます高まる現代社会における、メディア文化と観光との関係性を多角的に捉える基本的視座を修得することを目的として、分野横断的研究を行なっている 8 名の教員によるオムニバス形式の講義を行なう。具体的には、観光現象を、メディアをとりまく文化現象、すなわちメディア文化の文脈から捉えなおすことで、ボーダレスなコミュニケーションや文化越境の進展が具体的場所に結びつきながら展開している現代の状況を読み解く力を身に付けることを目標とする。		
到達目標 Course Goals	講義を通して、受講者が以下の 3 項目を身に付けることを到達目標とする。 1) 多様な観光現象を、メディアをとりまく文化現象(メディア文化)の文脈から理解し、言語化して説明できること。 2) メディアと観光の関連性について、実生活の中にあるボーダレスなコミュニケーションや文化越境の具体例を通して、わかりやすく説明できること。 3) 授業で紹介した様々な概念を用いて、メディア文化と観光の接合領域における諸現象について、その将来展望と課題について、論じることができること。		
授業計画 Course Schedule	授業はオムニバスによる講義、及び、質疑応答、ディスカッションにより双方向的に進めます。 講義の順序は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。 第 1 回 インTRODクシヨン(山村)……6 月 9 日(火) ・本講義の目的、内容を受講者に説明するとともに、メディア文化と観光との関係性に注目することの意義を社会文化史的に概説する。 第 2 回 メディア表象と場所性(岡本)……6 月 16 日(火) ・メディアによる表象やその背後にある社会政治的な文脈が場所性にいかなる影響を与えるのかについて、宗教観光論の観点から概説する。 第 3 回 音楽とツーリズム(金)……6 月 23 日(火) ・音(楽)とツーリズムの相互作用が、いかなるモノと実践、風景と場所性、世界観と感覚、移動と関係性を生み出すのかについて、音楽ツーリズム論の観点から考える。 第 4 回 展示とインタープリテーション、ツーリストアート(山崎)……6 月 30 日(火)		

<p>・観光における重要なコンテンツのひとつである博物館等における展示やインタープリテーションについて、メディアと観光との関わりから考察する。また、観光地におけるお土産品（ツーリストアート）に着目し、メディアとしての視点から、モノおよび、それを媒介にして生み出される現象について考察する。</p>
<p>第5回 メディアとしてのヘリテージ(田中)……7月7日(火)</p> <p>・本講義では、保護・保全の対象としてというよりも社会的過程としてヘリテージ(遺産)を捉える近年の研究動向をふまえ、観光の文脈においてヘリテージが過去、現在、未来をつなぐメディアとしていかに機能しているかについて検討する。</p>
<p>第6回 情報メディアと歴史(天田)……7月14日(火)</p> <p>・歴史を題材とした観光と新しい情報メディアの関係に光を当て、現状と課題を整理する。</p>
<p>第7回 観光の「経路」とメディア(石野)……7月21日(火)</p> <p>・空港ターミナル内にて近年展開している商業広告、アート作品、案内表示板やサインシステムなどの「空港メディア」に着目し、移動／観光の「経路」におけるメディアと文化表象、まなざし、旅行者の経験について批判的モビリティ・スタディーズの観点から検討する。</p>
<p>第8回 ソーシャルメディアとデスティネーション・マーケティング(ONG)……7月28日(火)</p> <p>・ソーシャルメディアにおけるデスティネーションマーケティングの情報の影響を説得的コミュニケーションモデルに基づいて検討する。また、ソーシャルメディアにおけるデスティネーションの情報の影響について、消費者の感知や態度と意図に注目して検討する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>各回の講義テーマに応じて、適宜、受講者が読むべき参考文献・資料を通知するので、必要に応じて予習・復習を行なうこと。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>各担当教員ごとに提出するレスポンスペーパー(講義内容へのコメント等)80%、授業に取り組む姿勢(発言の積極性等)20%を基準として評価する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p> <p>他学部履修を希望するものは担当教員の内諾が必要。</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p> <p>北海道大学観光学高等研究センター: https://www.cats.hokudai.ac.jp/</p> <p>北海道大学メディア・コミュニケーション研究院: https://www.imc.hokudai.ac.jp/rfmc/</p> <p>北海道大学アイヌ・先住民研究センター: https://www.cais.hokudai.ac.jp/</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	広報とマーケティング[Topics of Public Relations and Marketing]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	辻本 篤 [TSUJIMOTO Atsushi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	中川 理[NAKAGAWA Satoru](メディア・コミュニケーション), 神山 裕之[KAMIYAMA Hiroyuki](メディア・コミュニケーション), 平本 健太[HIRAMOTO Kenta](経済学研究院)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083209
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5110		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 専門共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	広報、マーケティング、広告		
授業の目標 Course Objectives	広報とマーケティングに関する基本知識を事例を通じて獲得する。		
到達目標 Course Goals	生産する商品やサービスをいかに市場にひろめていくのか(マーケティング)、そのために情報という領域においていかに消費者を含めたステークホルダーとの関係構築をはかっていくのか(広報)は、組織運営にとって死活問題だ。現代においては、営利を目的とする組織のみならず、非営利組織にとっても、マーケティングと広報は必須の課題である。本演習では 3 人の教員により、マーケティングと広報、そして広告の基礎を学び、組織の市場戦略の基本知識を獲得する。この演習を受講することにより、広報とマーケティングの実際についての知識を得、現実のビジネスに応用することが可能となる。		
授業計画 Course Schedule	<p>(授業は1学期(夏学期)の木曜・6 講時(18:15-19:45)、教室は メディア棟・105)</p> <p>第一セッション:(6/11(木)、6/18(木)) 中川理 企業の様々な活動の中で、広報とマーケティングがどのような位置づけなのか?を理解する上で、まずは企業の存在意義に関連する「企業理念」の重要性を学ぶ。</p> <p>第二セッション:(6/25(木)、7/2(木)) 神山裕之 パブリックセクターとはどのような概念かということをも明らかにした上で、その広報の特性と課題ならびにその解決の方向性について、事例も参照しつつ学ぶ。</p> <p>第三セッション:(7/9(木)、7/16(木)) 平本健太 観光やメディア関係の事例も用いつつ、マーケティングの基本的フレームワークおよびマーケティング戦略について学ぶ。</p> <p>第四セッション:(7/23(木)、7/30(木)) 辻本篤 広報活動には「社内広報」(組織構成員に向けた広報)と「社外広報」(株主や顧客などのステークホルダーに向けた広報)がある。これらの概念を理解し、それぞれがどのような目的で実践されるのかを学ぶ。さらに当科目の講義内容全体を振り返る。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	各セッションでレポートを課すので、関連する資料、書籍の閲読が必要となる。		
成績評価の基準と方法 Grading System	各セッションのレポートが全体の 80%、授業での討論を 20%として評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			

講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information <ol style="list-style-type: none">1. 当科目全 8 回の授業のうち、3 回以上欠席した者は成績評価の対象としない2. 30 分を超える遅刻は欠席扱いとする3. 一度も出席していないセッションに対してレポートを提出することはできない4. レポート作成において、その大部分において AI を使用したと判断された場合、そのレポートは評価の対象としない(ただしレポート作成に際して、事前の情報収集等に AI を使用するのは問題視しない)5. 提出されたレポートに深刻な剽窃が認められた場合、そのレポートは評価の対象としない

科目名 Course Title	公共性とコミュニケーション[Public Communication]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	金山 準 [KANEYAMA Jun] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	齋藤 拓也[SAITO Takuya](メディア・コミュニケーション), 志柿 浩一郎[SHIGAKI Koichiro](メディア・コミュニケーション), 大友 瑠璃子[OTOMO Ruriko](メディア・コミュニケーション), 松本 彩花[MATSUMOTO Ayaka](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083210
期間 Semester	1学期(夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5110		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 専門共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	公共性とコミュニケーション、民主主義、国家、社会理論、公共圏、熟議民主主義、メディア、選挙運動、ジャーナリズム、文化的多様性		
授業の目標 Course Objectives	現代の公共性は、多様な背景を持つ不特定多数の人々のコミュニケーションから成立している。その的確な理解には、民主政治と社会思想、メディアとジャーナリズム、市民のネットワーク、グローバルな情報環境、科学技術、多文化多言語社会等、複合的な考察が必要である。この授業では、講義やディスカッションを通して、上記のような多角的な観点からの立体的な把握を試みる。		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共性やメディアに関して、基本的な理論を把握する ● 同時に、さまざまな社会思想についての知識を持ち、議論することができる ● 加えて、今日の具体的事象について、その背景を含めて考察することができる 		
授業計画 Course Schedule	<p>第1～2回:社会科学において公共性というテーマがなぜ問題になるのか、理論的及び思想的に検討する。(金山準)</p> <p>第3～4回:現代の議会制民主主義のもとでの政治的意志の形成プロセスにおいて、公共の討論とコミュニケーションが担う役割およびその意義について考察する。(松本彩花)</p> <p>第5回:コミュニケーションを通じて公共性を再帰的に問い直す熟議民主主義論の歴史的展開と課題を考察する。(齋藤拓也)</p> <p>第6～7回:ジャック・アタリが予想するような分断化・コミュニティの細分化が避けられない今後の社会において、知識・情報共有を担う公教育とジャーナリズムはどうあるべきかを考える。(志柿浩一郎)</p> <p>第8回:「言語政策」の学問分野とそこで発展してきた概念や理論、また近年の学術的な動向に焦点を当て、言語(教育)の社会・政治的な地位について考察する。(大友瑠璃子)</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	各回、担当教員が指示する準備学習用の文献・資料に目を通すとともに、授業後には指示されたテーマのレポート課題を提出する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	評価は、各回の授業のテーマに沿って提出されたレポートの平均点によって行われる。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	言語とコミュニケーション[Language and Communication]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	奥 聡 [OKU Satoshi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	阿部 真[ABE Makoto](メディア・コミュニケーション), 小西 隆之[KONISHI Takayuki](メディア・コミュニケーション), 原 由理枝[HARA Yurie](メディア・コミュニケーション), 平田 未季[HIRATA Miki](高等教育推進機構), 近藤 弘[KONDO Hiromu](高等教育推進機構), 杜 長俊[DU Changjun](高等教育推進機構)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083211
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5110		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 専門共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	言語能力、生物学的基盤、音声・音韻、第二言語習得、日本語文法、言語学習、意味論・語用論		
授業の目標 Course Objectives	この授業は、言語とコミュニケーションの研究の前提となる基本概念と方法論の概要を説明することを目的とする。ただし、8回の講義で言語とコミュニケーションに関わる全ての研究領域をカバーすることはできないので、学院での研究にかかわりの深いいくつかの分野を取り上げて説明する。		
到達目標 Course Goals	受講者がこの概論で興味を持った分野について、3・4学期に開講される発展的内容の授業を受講することにより、個別のテーマについてさらに知識を深めることができるように研究の基礎概念を得ることができる。		
授業計画 Course Schedule	<p>まず初回の授業の冒頭で授業全体の構成と流れを説明する。その後、各講師がそれぞれ1回の講義を担当し、それぞれの分野の概論的内容を紹介する。各講師担当部分の内容に即した課題やレポートを課し、それにより評価を行う。</p> <p>木曜日6講目 第1回 ガイダンス(奥聡) 第1回 言語能力の生得的資質と言語コミュニケーション(奥聡) 第2回 言語の意味と言外の意味(原由理枝) 第3回 会話分析の基礎(杜長俊) 第4回 母語獲得研究:理論に基づく実験手法(奥聡) 第5回 言語アンケートのデザイン(小西隆之) 第6回 ナラティブと言語教育(近藤弘) 第7回 地域と言語学習(平田未季) 第8回 第二言語習得と言語教育(阿部真)</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	積極的かつ主体的に授業に取り組む姿勢が求められる。学期始めに責任教員より準備学習への取り組み全般についての説明があるほか、各回の担当者が課題等の説明を行う。各担当者の指示に従うこと。		
成績評価の基準と方法 Grading System	各担当者が課題/レポートの評価と出席などを総合して10点満点で成績をつけ、その合計を100点満点に換算し、それに基づいて全担当者合議の上、最終的な成績評価を決定する。 剽窃等の不正行為が発見された場合は、この科目の単位を認定しないことを含む処理を行う。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information 参考文献その他の資料は, 各講師が担当する回に紹介・配布する。

科目名 Course Title	国際交流と地域文化[International Exchange and Regional Cultures]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	渡部 聡子 [WATANABE Satoko] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	増田 哲子[MASUDA Noriko](メディア・コミュニケーション), 吉沢 直[YOSHIZAWA Nao](メディア・コミュニケーション), 大友 瑠璃子[OTOMO Ruriko](メディア・コミュニケーション), ONG YI XUAN[ONG YI XUAN](メディア・コミュニケーション), 石野 隆美[ISHINO Takayoshi](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083212
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5110		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 専門共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	国際交流、地域文化、グローバル化、人の移動、ボランティア、ソーシャルメディアコミュニケーション、自治州国家、美術、観光人類学、オリンピック、スポーツ、言語政策		
授業の目標 Course Objectives	国際交流はグローバル社会における地域文化の探求に必要な考察対象であり、制度、文化、言語等、様々な視点でのアプローチが可能である。事例を通して各専門領域での論点を理解し、地域文化を複眼的に考察できるようになることを目標とする。講義にもとづくディスカッションを通して、主体的かつ科学的な態度で現象の分析に取り組むことを目指す。		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> 講義で取り上げるテーマについて、自らの意見を述べるとともに議論に貢献することができる。 国際交流をめぐる特定の現象あるいは論点について、調べ、考察した内容を、論理的かつ明快に説明することができる。 		
授業計画 Course Schedule	<p>本授業は、全体ガイダンスののち、各担当教員が各地域や各局面での国際交流をめぐる学術的トピックについて講義を行う。</p> <p>第1回(6月10日)、 第2回(6月17日) 授業全体のガイダンスのあと、ボランティアを主な題材とし、政治に参加し、地域・国際社会と関わることについて考察する。「ボランティア」をめぐるさまざまな議論を紹介したうえで(6/10)、政策支援のあり方と課題についてドイツを中心に解説する(6/17)。(渡部聡子)</p> <p>第3回(6月24日) ホフステッドの文化的次元理論に基づき、ソーシャルメディアコミュニケーションの社会における役割および影響について批判的に分析を行う。また、現代の時間・空間的文脈における理論の限界についても考察する。(オン・イーシュエン)</p> <p>第4回(7月1日) スペインを事例として、中央政府(国家)と地域の関係や、そのなかでの美術や文化の問題について考察する。(増田哲子)</p> <p>第5回(7月8日) 観光人類学における観光文化論の展開について整理することで、観光と地域文化との関係を記述・考察していくための基本的な視座を養う。(石野隆美)</p> <p>第6回(7月15日) 国際交流イベントとしてのオリンピックが地域文化に与える影響について学び、今後の札幌オリンピックの招致について議論する。(吉沢直)</p>		

<p>第7回(7月22日) 未定(開講時に周知する)</p>
<p>第8回(7月29日) 人的交流・モビリティを切り口に「言語」にまつわる様々な現象—具体的には言語変化、言語(教育)政策—を批判的に考察する。(大友瑠璃子)</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 各担当教員が授業時にレポート課題を提示する。出された課題に対するレポートを執筆する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 各テーマに関する講義の下で指示したレポートの内容および授業への積極的な参加・貢献度を、各回の担当教員が総合的に評価(100点満点)し、そのうち6つの評価の平均点を最終評価とする。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks なし</p>
<p>講義指定図書 Reading List 授業中に適宜提示する。</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	メディア文化と表象[Media Culture and Representation]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	増田 哲子 [MASUDA Noriko] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	原田 真見[HARADA Mami](メディア・コミュニケーション), 玄 武岩[HYUN Mooam](メディア・コミュニケーション), 富成 絢子[TOMINARI Ayako](メディア・コミュニケーション), 丁 乙[DING Yi](メディア・コミュニケーション), 徐 玉[JO Gyoku](メディア・コミュニケーション), 葛西 周[KASAI Amane](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083213
期間 Semester	1学期(夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5110		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 専門共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	メディア、表象、文化、AI 生成アート、美学、サイバネティクス、物語論、ジェンダー、音楽、聴取		
授業の目標 Course Objectives	メディア文化の諸相を表象との関わりから概観し、その着眼点や基礎概念についての理解を深める。		
到達目標 Course Goals	メディア文化研究のアプローチの多面性を理解し、研究を進めるための基礎的な視点に関する知識を身に付け、今後の研究に活かすことができる。		
授業計画 Course Schedule	<p>授業はオムニバス方式による8回の講義から構成される。 初回以外は順序が入れ替わる可能性がある。 また、講義日程に変更が生じることもあるので、必ず各自で確認すること。</p> <p>第1回:6/8 インタロダクション&「メディアと視覚文化」(増田哲子) 絵画や写真といった視覚的な表象が、社会の中でどのように生産・流通・消費され、どのような作用や効果を生み出すのかについて、いくつかの事例とともに考察する。</p> <p>第2回:6/15 「メディアと聴取の文化」(葛西周) 身近なメディアにおいて音や音楽がいかに聴取・解釈され意味づけられるのかを検討し、同じ鳴り響きが多様な文脈と結びつく文化的背景を考察する。</p> <p>第3回:6/22「メディアとセクシュアリティ」(徐玉) フェミニズム映画理論を手がかりに、映画におけるジェンダー・セクシュアリティ表象のあり方を捉えつつ、歴史的・社会的文脈の中でメディア文化を批判的読み解く力を養う。</p> <p>第4回:6/29「物語とメディア」(玄武岩) さまざまなメディアをとらえて表現される物語が受け手と語り手によって構成されることについて、物語論を参照にしながら考察する。</p> <p>第5回:7/6「メディアとジェンダー」(原田真見) ジェンダーと表象に関わる基礎概念を踏まえた上で、ジェンダーの視点でメディアを読み解く方法を考察する。</p> <p>第6回:7/13「美学からみたメディア」(丁乙) 今日のアカデミズムにおいて、メディア論はあらゆる現象と関わるような、輪郭の定まらない学問分野と言える。この分野を捉える</p>		

<p>ために、18 世紀に成立した「美学」に一旦立ち返り手がかりを探る</p> <p>第 7 回:7/27「近代中国美学」(丁乙) 西洋に発端する学問が東洋へ伝来する過程で、西洋的概念や理論をいかに東洋の文脈で再構築するかは、今日なお重要な課題である。近代という古今東西の交差点に着目し、中国美学の成立過程を考察する。</p> <p>第 8 回:8/3「メディアと言葉」(富成絢子) メディアで使われている言葉から見えてくる人物や事象のイメージについて考察し、どのような方法で分析できるのかを考える。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 参考文献は、講義開始時や各教員がそれぞれの担当回で紹介する。各回で指示された参考文献やハンドアウトに目を通した上で出席すること。また授業終了後に教員の指示に従ってミニレポートを提出すること。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 以下の基準により評価する。 ①毎回の講義への参加度・貢献度、ミニレポート(40%)②期末レポート(60%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は、全回出席を原則とします。 ・期末レポートのテーマや提出形式は、各授業の担当教員が授業時にお知らせします。レポート提出は、出席した授業に限ります。
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	基礎経営学[Introduction to Management]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	山口 久瑠実 [YAMAGUCHI Kurumi] (大学院経済学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083214
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5110		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 専門共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	経営組織論, 組織行動論		
授業の目標 Course Objectives	経営組織論および組織行動論に関して, キャリアステージにおける個人と組織の観点から理解を深める.		
到達目標 Course Goals	(1)経営組織論および組織行動論に関する基本的な概念および理論を理解する. (2)上記の概念および理論を用いて, 身の回りの現象を分析・説明することができる.		
授業計画 Course Schedule	以下のように授業を進める予定であるが, 参加者の理解度などに応じて進度は変わる可能性がある. 第1週: ガイダンス 第2週: 第1章 キャリアを考える: 個人の欲求と会社の目的 第3週: 第2章 入社する: 社会化と組織文化 第4週: 第3章 会社と仕事に慣れる: モチベーションと規則の関係 第5週: 第4章 人事異動: 会社のなかでキャリア開発? 第6週: 第5章 部下を持つ: リーダーシップ 第7週: 第6章 部内をまとめる: 集団のダイナミズム 第8週: 小括 第9週: 第7章 内と外で学ぶ: 個人と組織の学習メカニズム 第10週: 第8章 トラブル発生: コンフリクト・マネジメント 第11週: 第9章 いざ組織の再編成へ: 組織のデザイン 第12週: 第10章 部長たちの奮闘: 環境のマネジメント 第13週: 第11章 組織の変革を任される: 一点突破と全面展開 第14週: 第12章 ついに社長就任: 経営理念とビジネスシステム 第15週: 総括 計15回(2単位)		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	報告担当者 (1)テキストを熟読し, 報告資料を作成する. (2)章の内容に関連する論点を準備する. 報告担当者以外 (1)テキストを熟読し, レジューメを作成する. (2)テキストの内容に関し, 理解できない点などを整理する.		
成績評価の基準と方法 Grading System			

講義への貢献度(40%), 課題報告(60%)により評価する.
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks キャリアで語る経営組織：個人の論理と組織の論理／稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝:有斐閣, 2022
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容の説明をするため, 履修希望者は初回授業に必ず出席してください. ・授業に関する連絡は, ELMS を通じて行います. 定期的に ELMS を確認してください.

科目名 Course Title	実践演習 I (インターンシップ)[Internship Program I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中川 理 [NAKAGAWA Satoru] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083215
期間 Semester	通年不定期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5120		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 実践共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	インターンシップ、実務体験、キャリア開発、キャリア計画、進路選択、職業選択、就職活動、社会経験、コミュニケーション力、プレゼンテーション力		
授業の目標 Course Objectives	本演習の第一の目標は、企業・官公庁・国際機関・非政府組織・市民団体等におけるインターンシップ(実務体験)を通して、課題の発見、分析、解決策提言等のための基礎能力を養成することである。また、第二の目標は、信頼される社会人になるために必要な一般常識、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、責任感等を身につけることである。		
到達目標 Course Goals	本演習における、学生の到達目標は以下の通りとする。 ①学生は、企業・官公庁・機関・団体等において与えられた実務(インターンシップ)を行うことができる。 ②学生は、実務体験を通して、課題の発見、分析、解決策提言等を行うことができる。 ③学生は、信頼される社会人になるために必要な一般常識、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、責任感を高めることができる。		
授業計画 Course Schedule	学生は、次のステップでインターンシップに参加し、成果を報告する。 ①本学院キャリア支援委員会の担当教員に事前相談のうえ、キャリアセンター等の活用を通して、自主的にインターンシップ先の情報収集を行い受入れ先を探す。 ②インターンシップを希望する企業・団体等に受入れを申請し、交渉・調整する。希望受入れ先から内諾を得たら、キャリア支援委員会の担当教員に報告し、インターンシップ開始日の原則3週間前までに教務係で履修登録手続きを取る。 ③登録手続きの際には、「インターンシップ履修届」及び「インターンシップ計画書」を作成・提出する。派遣支援経費を希望する場合には、申請書等の必要書類を合わせて提出する。 ④インターンシップ受入れ先において、実務を行なう。実働日数5日で1単位、同10日で2単位が認定される。 ⑤実習終了後2週間以内に、インターンシップ報告書を担当教員と教務担当へ提出する。また、その後に開催されるインターンシップ報告会に参加して体験発表を行う。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	演習受講生は、精神的な準備として「自ら積極的に行動する」との自覚を持つこと。また、キャリアセンターの就職支援システムへの登録を行なうこと。以上のほか、本学院キャリア支援委員会の担当教員の指示に従うこと。		
成績評価の基準と方法 Grading System	成績評価は、次の方法により行う。 ①実働5日間以上10日未満のインターンシップ(実務研修)への参加を義務条件とする。 ②本学院からインターンシップ実施先(担当者)に対して依頼する「インターンシップ実践研修評価表」の結果を考慮する。 ③インターンシップ終了後2週間以内に提出するインターンシップ報告書の「目標、課題の達成度等」、「インターンシップに参加した感想」について、達成度の高さ、参加により得たものなどを考慮する。 ④インターンシップ修了後2か月以内に開催される「報告会」でのプレゼンテーション力、コミュニケーション力の高さを考慮する。 以上の考慮事項を勘案し、担当教員が「秀・優・良・可」の4段階で評価する(参加日数条件を満たしていれば不可は無し)。		

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information <ul style="list-style-type: none"> ・通常の履修登録は必要ありませんが、別途手続きが必要となります。 ・講義でレクチャーが必要な場合は、オンラインもしくは対面で実施。インターンシップ中は、インターンシップ先の指示に従う（通常勤務かテレワークか、など）。

科目名 Course Title	実践演習Ⅱ(インターンシップ)[Internship Program Ⅱ]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中川 理 [NAKAGAWA Satoru] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083216
期間 Semester	通年不定期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5120		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 実践共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	インターンシップ、実務体験、キャリア開発、キャリア計画、進路選択、職業選択、就職活動、社会経験、コミュニケーション力、プレゼンテーション力		
授業の目標 Course Objectives	本演習の第一の目標は、企業・官公庁・国際機関・非政府組織・市民団体等におけるインターンシップ(実務体験)を通して、課題の発見、分析、解決策提言等のための基礎能力を養成することである。また、第二の目標は、信頼される社会人になるために必要な一般常識、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、責任感等を身につけることである。		
到達目標 Course Goals	本演習における、学生の到達目標は以下の通りとする。 ①学生は、企業・官公庁・機関・団体等において与えられた実務(インターンシップ)を行うことができる。 ②学生は、実務体験を通して、課題の発見、分析、解決策提言等を行うことができる。 ③学生は、信頼される社会人になるために必要な一般常識、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、責任感を高めることができる。		
授業計画 Course Schedule	学生は、次のステップでインターンシップに参加し、成果を報告する。 ①本学院キャリア支援委員会の担当教員に事前相談のうえ、キャリアセンター等の活用を通して、自主的にインターンシップ先の情報収集を行い受入れ先を探す。 ②インターンシップを希望する企業・団体等に受入れを申請し、交渉・調整する。希望受入れ先から内諾を得たら、キャリア支援委員会の担当教員に報告し、インターンシップ開始日の原則3週間前までに教務係で履修登録手続きを取る。 ③登録手続きの際には、「インターンシップ履修届」及び「インターンシップ計画書」を作成・提出する。派遣支援経費を希望する場合には、申請書等の必要書類を合わせて提出する。 ④インターンシップ受入れ先において、実務を行なう。実働日数5日で1単位、同10日で2単位が認定される。 ⑤実習終了後2週間以内に、インターンシップ報告書を担当教員と教務担当へ提出する。また、その後に開催されるインターンシップ報告会に参加して体験発表を行う。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	演習受講生は、精神的な準備として「自ら積極的に行動する」との自覚を持つこと。また、キャリアセンターの就職支援システムへの登録を行なうこと。以上のほか、本学院キャリア支援委員会の担当教員の指示に従うこと。		
成績評価の基準と方法 Grading System	成績評価は、次の方法により行う。 ①実働10日以上インターンシップ(実務研修)への参加を義務条件とする。 ②本学院からインターンシップ実施先(担当者)に対して依頼する「インターンシップ実践研修評価表」の結果を考慮する。 ③インターンシップ終了後2週間以内に提出するインターンシップ報告書の「目標、課題の達成度等」、「インターンシップに参加した感想」について、達成度の高さ、参加により得たものなどを考慮する。 ④インターンシップ終了後2か月以内に開催される「報告会」でのプレゼンテーション力、コミュニケーション力の高さを考慮する。 以上の考慮事項を勘案し、担当教員が「秀・優・良・可」の4段階で評価する(参加日数条件を満たしていれば不可は無し)。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information <ul style="list-style-type: none">・通常の履修登録は必要ありませんが、別途手続きが必要となります。・講義でレクチャーが必要な場合は、オンラインもしくは対面で実施。インターンシップ中は、インターンシップ先の指示に従う(通常勤務かテレワークか、など)。

科目名 Course Title	キャリア開発演習[Career Development]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中川 理 [NAKAGAWA Satoru] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	神山 裕之[KAMIYAMA Hiroyuki](メディア・コミュニケーション), 上田 裕文[UEDA Hirofumi](メディア・コミュニケーション), 石黒 侑介[ISHIGURO Yusuke](メディア・コミュニケーション), 葛西 周[KASAI Amane](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083217
期間 Semester	通年不定期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5120		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 実践共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	キャリア開発、キャリア計画、進路選択、職業選択		
授業の目標 Course Objectives	本演習の目標は、受講生(大学院生)一人ひとりの社会的・職業的自立に向けて必要になる基礎的能力や態度を育てることを通してキャリアの発達を促すために、進路選択、職業・職種選択、キャリア自己開発等のプロセスから成る「キャリアプランニング」の実践を支援することである。		
到達目標 Course Goals	本演習における、受講学生の到達目標は以下の通りとする。 ①学生は、進路選択に不可欠な(職業的)自己概念を認識することができる。 ②学生は、キャリアプランに関する基礎的な知識とスキルを習得し、自身のキャリアプランが作成できる。		
授業計画 Course Schedule	本演習では、以下のプログラムを提供することで、学院生の就職活動を含む、今後のキャリア形成を支援するものである。 1. キャリア支援関連説明会 4月上旬 2. 適職診断 事前説明会 3. 適職診断 実施 4. 適職診断 結果説明会 5. 第1回就活セミナー(留学生ガイダンス) 6. 第2回就活セミナー(ES作成演習) 7. 第3回就活セミナー(模擬面接演習) 8. キャリア開発ワークショップ(キャリアプランの作成)		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	学生は、適職診断の実施、「振り返りレポート」の提出(3回)、キャリアプランの提出(事前版と最終版)が求められる。		
成績評価の基準と方法 Grading System	学生は、以下の項目に基づき評価される。 1. 授業の内容理解(20%) 2. 振り返りレポート(60%) 3. キャリアプラン(20%)		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	テキスト、参考資料等は、必要に応じて、演習の中で適宜配布または指示する。		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	特別演習(言語研究実践)[Practical Method of Linguistics and Language Education Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	鄭 惠先 [JUNG Hyeseon] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors	奥 聡[OKU Satoshi](メディア・コミュニケーション), 小西 隆之[KONISHI Takayuki](メディア・コミュニケーション), 平田 未季[HIRATA Miki](高等教育推進機構), 大友 瑠璃子[OTOMO Ruriko](メディア・コミュニケーション), 原 由理枝[HARA Yurie](メディア・コミュニケーション), 阿部 真[ABE Makoto](メディア・コミュニケーション), 野澤 俊介[NOZAWA Shunsuke](高等教育推進機構), 近藤 弘[KONDO Hiromu](高等教育推進機構), 杜 長俊[DU Changjiun](高等教育推進機構), 宮内 拓也[MIYAUCHI Takuya](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083218
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5120		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 実践共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	言語学、言語教育学、英語教育、日本語教育		
授業の目標 Course Objectives	この実践授業では、自分の「個人的興味」をしっかりとした研究テーマへと具体的に昇華させてゆくプロセスを学ぶことを目的とする。先行研究を見つけ、それらを丁寧にレビューしながら、自分の研究の立ち位置を明確にしてゆく過程を学ぶと同時に、それを人前で発表する方法の基礎を学ぶ。言語学・言語教育学分野における研究トピックについて、題目の設定、データの扱い方、考察の方法、発表の方法、レポートのまとめ方といった、研究の方法論を実践を通して学ぶ。授業カリキュラムで学んだ考え方や研究方法を出発点とし、各自が自分の研究トピックを発展させる機会となる。		
到達目標 Course Goals	学生は、実際の発表やディスカッションを通して、言語学・言語教育学分野の研究方法を実践的に身に付け、研究テーマを設定することができる。他の発表に対して、適切に批評ができるようになる。リサーチペーパー作成を適切に行うことができる。		
授業計画 Course Schedule	<p>自分の研究トピックについて教員と相談しながら、事前準備を行う。発表を行い、それについて、全員でディスカッションする。また、お互いの発表に対して、コメント(critical review)を書く。発表・ディスカッション・他の参加者からのコメントで得られたフィードバックに基づき、レポートをまとめる。</p> <p>(1) 4月3日(金)13:00-14:30:説明会(メディア棟105教室) 入学式終了後、午後の新入生交流会 Part.2(分野別分科会)の中で、説明会を行います。 ※ 参加希望者は必ず説明会(分科会)に出席すること。 ※ 説明会(分科会)に出席できない参加希望者は、4月3日(金)までに、鄭惠先(jung@oia.hokudai.ac.jp)宛に連絡すること。</p> <p>(2) 4月6日(月)～6月1日(月):教員と相談しながら事前準備レジュメの作成 (3) 6月1日(月):レジュメの提出(詳細は後日) (4) 6月5日(金)～6日(土):発表・全員討論 メディア棟にて開催予定:詳細は、4月3日(金)の説明会で別途通知します。 (5) 6月19日(金)までに:他の発表者へのコメント・critical review の提出 (6) 7月中旬:レポート作成-1 (4)のディスカッションの内容や、得られたコメントを取りいれてレポートにまとめる。担当教員からのフィードバックを受ける (7) 7月下旬:レポート作成-2 (5)(6)のコメントに基づき最終レポートをまとめる</p> <p>*M2の中間発表会は7月7日(火)～9日(木)</p>		

<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>自分の研究トピックについて準備担当教員と相談しながら、レジюме(1ページ)の準備、発表用スライド・資料など事前準備を行う。発表後、他の全発表に対してコメント(600字程度)を、指定された発表に対して critical review (2ページ)を書く。発表・ディスカッション・他の参加者からのコメントで得られたフィードバックに基づき、レポート(3ページ)をまとめる。</p> <p>自分の研究トピックについて準備担当教員と相談しながら、「レジюме」(1ページ)の準備、発表用スライド・資料など事前準備を行う。発表後、他の全発表に対して「一言フィードバック」(500字まで)を、指定された発表に対して「critical review」(2ページ)を書く。発表・ディスカッション・他の参加者からのフィードバックにもとづき、「レポート」(3ページ)をまとめる。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>合宿研修会での発表・ディスカッションへの参加貢献度(25%)、critical review (25%)、及び最終レポートの内容(50%)に基づき、判断する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	特別演習(タンデム言語学習)[Tandem Language Learning Project]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	田代 亜紀子 [TASHIRO Akiko] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors	GAYMAN JEFFRY JOSEPH[Jeffry Joseph GAYMAN](メディア・コミュニケーション), プンティロフ ゲオルギー[GEORGY BUNTILOV](メディア・コミュニケーション), ONG YI XUAN[ONG YI XUAN](メディア・コミュニケーション), 松本 彩花[MATSUMOTO Ayaka](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083219
期間 Semester	通年	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5121		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 実践共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives			
到達目標 Course Goals			
授業計画 Course Schedule			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
成績評価の基準と方法 Grading System			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	No textbook required.		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	英語版シラバスをご参照ください。		

科目名 Course Title	高度実践英語演習 I [Advanced Practical English I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	KLASSEN MARSHALL DROLET [KLASSEN MARSHALL DROLET] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083220
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5121		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 実践共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives			
到達目標 Course Goals			
授業計画 Course Schedule			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	積極的かつ主体的な準備学習(予習・復習)が求められる。準備学習への取り組み方全般については、学期はじめに担当教員から説明があるほか、各回の授業で求められる準備学習の具体的内容については、学期中随時教員から指示がある。また履修者が自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組むことも強く期待される。準備学習を十分に行わなければ、身につけるべき内容を消化できず、単位も取得できなくなる可能性があるため、真剣かつ計画的に取り組んでほしい。		
成績評価の基準と方法 Grading System			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	Course materials will be provided in class.		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	高度実践英語演習 II [Advanced Practical English II]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	Letson James Dewi [Letson James Dewi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083221
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5121		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 実践共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives			
到達目標 Course Goals			
授業計画 Course Schedule			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
成績評価の基準と方法 Grading System			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	All materials will be distributed in class.		
講義指定図書 Reading List	There is no set text for this class.		
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	情報戦略論演習[Information Strategy]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	ONG YI XUAN [ONG YI XUAN] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083222
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6202		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	2 日本語及び英語のバイリンガル授業、受講者決定後に使用言語(日本語又は英語)を決定する授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	情報メディア、観光情報、ロコミ、消費行動、態度変化、信頼構造、ソーシャルメディア、説得的コミュニケーション、コミュニケーションの効果・影響分析		
授業の目標 Course Objectives	本授業の履修により、説得的コミュニケーションの理論やモデルに基づき、現代情報化社会において、ネットワーク上の情報やロコミが、信頼概念を介在しながら、観光消費者や一般消費者に与えている影響を分析し、情報がもたらす態度変容や消費行動のプロセスを実証的に解明する能力を身に着ける。		
到達目標 Course Goals	講義を通して、受講者は以下の3項目を目標とする。 (1) 情報受容に関する理論と仮説の関係を理解し、自らの課題を研究計画に盛り込み、研究を実践することができる。 (2) 多様なネット上の情報や情報受容者からの情報を収集分析し・実証的考察を通して、消費者の認知プロセスを理解することができる。 (3) 消費者の認知的プロセスに関する知見を活用しながら、効果的な情報戦略を立案・運営することができる。		
授業計画 Course Schedule	<p>ICT の深化による、日々激変する現代社会において最も劇的に変化しているのは情報受容者である一般消費者である。観光やサービスに始まり、イメージやプロダクトを消費する消費者は、マスメディアの時代とは異なる概念に影響を受け、態度変容をもたらしている。また、様々な参考文献を通して、クリティカルシンキングや評価能力を養い、実社会での応用に適したコミュニケーション情報、キャンペーン、広告を設計・評価できるようになることを目指している。本授業は、このような問題意識に立ち、以下の三段階で授業が展開する。</p> <p>第一段階 理論とモデル 1.理論 I～V 説得的コミュニケーションの理論の由来、基礎と研究現状や展開を理解する。説得的コミュニケーションとは、どのような学問なのかについて考える。どこで、どのような状況で、どうやって説得的コミュニケーションを使える。 [合理的行動理論 (TRA), 計画行動理論 (TPB), 二重過程 (Two-step Flow), 精緻化見込みモデル (ELM), 説得知識モデル (PKM), 物語の輸送理論 (Narrative Transportation Theory), アジェンダ設定 (Agenda Setting), フレーミング (Framing), 信頼性理論 (Source Credibility Model), 広告への態度 (Attitude-towards-Ad Model)]</p> <p>第二段階 説得的コミュニケーション理論の応用 I: 2.さまざまな研究分野(観光、健康コミュニケーション、持続可能な環境コミュニケーションなど)における、説得的コミュニケーション理論がどのように応用され、先行研究で紹介し、研究を計画する力を身につける。</p> <p>第三段階 理論応用 II 3.習得した理論と先行研究に基づき、説得的コミュニケーション・プロジェクトを作成し、評価することで、研究・実践のスキルを身につける。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			

<p>各回の講義テーマに応じて、予め受講者が読むべき参考文献や資料が通知されるので、必要に応じて予習復習を行うことが求められる。1回の講義が論文1本程度の分量が授業中で進められる。それに伴い、応分の準備学修が求められる。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 講義ごとに提出するレスポンスペーパー(授業内紹介した理論を1つ選び、その理論の先行文献の整理レポート(500~1000字)30%、授業に取り組む姿勢(発言の積極性等)20%、学期末に行われる課題発表 50%として評価する。課題発表に関しては、授業内紹介した理論を使い、3-5ページの研究計画書を作成し、14回目の授業内に発表する。</p> <p>①情報社会の特質を理解した問題設定を行い、②適切な理論と方法の選択を行い、③その実践的活用が検討されているかどうかの三点が評価基準となる。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks ※特になし。講義ごとに資料やPDFが指示もしくは配布される。</p>
<p>講義指定図書 Reading List 授業中に随時紹介される。</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory ※特になし</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	サービス産業広報論演習[Public relations in the Service Industry]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	張 ジュヒョク [JANG Juhyeok] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083223
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	サービスマーケティング、定量研究アプローチ		
授業の目標 Course Objectives	<p>サービス品質は、経験品質の属性が強く現れるため、直接経験してみる前にその品質を評価することができない。そのため、サービス利用前の段階で情報を収集する際、顧客は主に同サービスを直接経験したことのある既存顧客からのクチコミに依存する傾向が強い。これは企業からの宣伝広告よりも信頼されるとも言われる。このように、クチコミはとりわけサービス産業において大きな影響力を持っており、それゆえこのクチコミをマネジメントすることはサービス企業にとって大変重要な課題である。</p> <p>この授業の前半では、先行研究を正しく理解するため、必要な手法(因子分析、構造方程式モデリング)を SmartPLS を通じて学習する。後半では、自ら研究モデルを作成し、データを収集、分析をした結果を報告する。</p>		
	※社会調査法を事前に受講されていることが望ましい。		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの特質、品質について理解し、それを研究に反映することができる。 ・定量調査に必要な手法を学び、研究で活用することができる。 		
授業計画 Course Schedule	前半部は定量分析の手法とサービス理論を学習し、後半部はこれら学習内容をもとに各自定量調査を設計し、実施する。		
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相関分析・回帰分析 2. 構造方程式モデリング: 測定モデル 3. 構造方程式モデリング: 構造モデル 4. 調査設計 5. サービス概論① 6. サービス概論② 7. サービス概論③ 8. 調査設計報告① 9. 調査設計報告② 10. 調査設計報告③ 11. 調査実施① 12. 調査実施② 13. 調査実施③ 14. 分析結果報告① 15. 分析結果報告② 		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<ul style="list-style-type: none"> ・1 学期に社会調査法を受講しているか、それに準ずる知識を学習していること。1 学期に社会調査法を受講していない場合は、履修申請の前に必ず担当教員へ連絡すること。 ・英語で書かれた先行研究を読みこなせる読解力を身につけていること。 		
成績評価の基準と方法 Grading System			

<p>(1)毎回の授業における議論への貢献度(積極性・発言内容など)</p> <p>(2)調査設計及び分析結果報告</p> <p>それぞれの評価の比率は(1)=30%、(2)=70%とする。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>授業資料は、教員が用意し、事前に配付する。</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>この授業には、各自 PC を必ず持参すること。</p>

科目名 Course Title	デジタル・コミュニケーション論演習[Strategic Digital Communication]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	田口 孝紀 [TAGUCHI Takanori] ((株)野村総合研究所)		
担当教員 Other Instructors	中川 理 [NAKAGAWA Satoru](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083224
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	戦略的コミュニケーション、コーポレートガバナンス(企業統治)、経営戦略、意思決定メカニズム(株主総会・取締役会)、スマートシティ、地域創生、観光 DX、コンテンツツーリズム(メディア・ツーリズム)、価値共創、DX 推進(業務変革)、生成 AI 活用、AI ガバナンス(ハルシネーション対策・著作権リスク)、レピュテーション管理、ロジカル・コミュニケーション(論理的思考)		
授業の目標 Course Objectives	<p>本演習は、野村総合研究所(NRI)にて国内外での経営コンサルティング、海外拠点でのマネジメント、全社のコーポレートガバナンス、そしてコンサル業務における AI 活用・DX 推進を歴任した実務家教員による、経営とメディアを統合する実践講座です。組織がミッションを遂行するためには、対外的な広報活動だけではなく、「会社の仕組み」を深く理解した上での意思決定と、株主を始めとしたステークホルダーとの戦略的な対話が不可欠です。本講義では、以下の 4 つの視点からデジタル・コミュニケーションについて再定義します。</p> <p>第一に「会社の仕組みの視点」です。会社がどのように計画を立て、意思決定しているかについてメカニズムを分かりやすく解説し、社内でのコミュニケーションのあり方を学びます。第二に「グローバルの視点」です。日本国内の地域創生や海外のスマートシティ等の事例を通じ、都市機能のデジタル化が観光体験や地域経営に与える影響を考察します。第三に「AI 活用の攻めと守りの視点」です。DX 推進による業務変革(攻め)と、ハルシネーション等のリスクに対するレピュテーションリスクへの対応(守り)について、実務経験を基に議論します。第四に「観光・文化の視点」です。アニメ等のコンテンツツーリズム(メディア・ツーリズム)を題材に、デジタル空間におけるファンとの価値共創について考えます。</p> <p>また、これらを支える基礎能力として、コンサルタントの実務に裏打ちされた「ロジカル・コミュニケーション」のトレーニングを毎回実施し、論理的かつ創造的なリーダーを育成します。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営メカニズムの理解: 会社の基本的な成り立ちと意思決定のメカニズムを理解し、会社経営の視点からステークホルダーに対する戦略的なコミュニケーションのあり方を説明できる。 2. デジタル・地域戦略の立案: スマートシティやコンテンツツーリズムの国内外の事例を参照しながら、地域の価値を高めるための構想やアイデアを構想できる。 3. AI リスクと推進のバランス: 業務効率化に向けた AI 活用(攻め)と、ハルシネーションや著作権侵害といった AI リスクへの対応(守り)について、社会人として求められるマターを理解し、正しく AI を活用できる。 4. 実践的スキルの習得: 複雑な課題に対し、論理的な構成(ロジカルシンキング)を用いて解決策を提示し、プレゼンテーションによって相手を納得させる能力を身につける。 		
授業計画 Course Schedule	<p><授業の方法></p> <p>本演習は 5 回の集中講義形式で行います。</p> <p>演習は、基礎知識を得るための講義と、具体的な事例やテーマをもとにしたグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションによって構成されます。講義の中ではグループワークでのアウトプットに対する講評に加え、スキルアップのためのフィードバックを一人ずつに丁寧に行います。</p> <p><授業計画></p> <p>◇第一講: 日本の会社はどう動いているのか?</p> <p>(1) 会社の仕組みと意思決定(一般的な会社組織の構造や内部でのコミュニケーションのあり方)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習①(構造化と論理のピラミッド)</p> <p>◇第二講: グローバル経営と地域創生(都市と観光の DX)</p>		

<p>(1) 海外のスマートシティと日本の地域創生(都市 OS・データ活用と観光への影響)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習②(文脈設計と異文化理解)</p> <p>◇第三講:AI 活用の攻めと守り(DX 推進とリスク管理)</p> <p>(1) DX 推進と AI ガバナンスの実務(コンサルタントの働き方・AI 活用とリスク)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習③(日常生活における AI 活用策とリスク対策)</p> <p>◇第四講:コンテンツツーリズムと価値共創(観光・文化の視点)</p> <p>(1) メディア・ツーリズムとデジタル・エンゲージメント(聖地巡礼とファン共創のメカニズム)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習④(ストーリーテリングと企画提案)</p> <p>◇第五講:デジタル・コミュニケーション論演習(まとめ)</p> <p>(1) 経営戦略とデジタル社会の形成(総括)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習(最終プレゼンテーションと講評)</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介シート ・講義の振り返りレポート(第一講～第四講後に提出)、最終レポート(第五講後に提出) <p>作成に必要な時間は振り返りレポートは 30 分～1 時間程度、最終レポートは 1～2 時間程度です。 具体的なテーマ、書き方等は講義の中で説明します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回テーマ(例:生成 AI の著作権問題)に関するニュースを 1 つ選んでくこと
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>次の点を総合的に評価する。試験は行わない。</p> <p>(1) レポートの提出状況・内容(情報収集状況と理解度)</p> <p>(2) 授業への出席状況、毎回のグループディスカッション及びグループワークにおける貢献度(積極性・発言内容など)</p> <p>(3) 発表及び質疑応答の内容(プレゼンテーション技術・論理性・独創性など)</p> <p>※それぞれの評価の比率は(1)=40%, (2)=20%, (3)=40%とする。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>特に無し。履修者の習熟度にあわせて講義の中で紹介する。None.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p> <p>特に無し。履修者の習熟度にあわせて講義の中で紹介する。None.</p>
<p>参照ホームページ Websites</p> <p>なし。None.</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p> <p>なし。</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>なし。</p>

科目名 Course Title	広報・広告産業論演習[PR Service Industry Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	電通 [DENTSU] (国際広報メディア・観光学院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083225
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	<p>広告、広報、広告業界、PR産業、広告会社、PR会社、経営戦略、マーケティング、CSR、危機管理広報、マス・メディア、インターネット、デジタル、ソーシャルメディア、イベント、スポーツイベント、ライセンス、グローバル、クリエイティブ、消費者行動、ブランド体験</p>		
授業の目標 Course Objectives	<p>広報・広告産業の活動・役割に関し、国内外での実態を分析、主要な機能である広告制作と効果把握のための関連調査・分析手法、広報・広告制作、地域社会の経済との連携の実態と課題をケースを通して把握する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1. 広報・広告業界における具体的なビジネスの仕組みを説明できる。 2. 企業の広報・広告活動の役割や意義を整理し、適切に表現できる。 3. 広報・広告に関する基本的なリテラシーを活用し、業界の動向や実務について考察できる。 4. 具体的な事例をもとに、企業の広報・広告活動を分析し、その特徴や影響を論理的に説明できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>株式会社電通の現役担当者による連続集中講義</p> <p>第1セッション: 電通業・広告業の全体論・概要(4/10 - 水上)</p> <p>1. 広告とは: 広告の社会的な機能や意義を考察する 2. 広告業界概観: 広告業界のトレンドを概観する 3. 広告会社の仕事: 広告会社における実際の仕事の流れを確認する 4. マーケティング: 広告会社で取り組むマーケティング業務について概観する 5. クリエイティブ: 広告会社で取り組むクリエイティブ業務について概観する 6. メディア・コンテンツ: 広告会社で取り組むメディア業務コンテンツ業務について概観する 7. ビジネストラנסフォーメーション: 電通で取り組むビジネストラנסフォーメーションについて概観する 8. これからの広告・広告会社・広告人: これから求められる広告や広告会社、広告人について考察・議論する</p> <p>第2セッション: 広報とPR(5/8 - 河南)</p> <p>1. PR 業界の変遷から PR の本質と社会的機能を考察する。 2. PR 業務の広がりについて確認する。 3. 広報戦略の立て方とプロセスについて議論する。 4. 広報事例について学ぶ。</p> <p>第3セッション: 日本と世界のクリエイティブ 2026(5/29 - 嶋野)</p>		

1. 最近の広告表現の傾向:世界の広告表現の動向を作品を通して見る。
2. 広告表現技法:メディア変化による広告表現技法の多様化と拡張を探る。
3. クリエイティブトライ:広告クリエイティブのスキルで課題解決に挑戦。

第4セクション:北海道の地域社会と地域経済の共成長(6/19 - 横澤)

1. 北海道は社会課題の最先端地域。少子高齢化の時代の持続可能な地域社会を考える。
2. 北海道の新たな産業(「観光」「GX」「半導体」…)と、地域の暮らしや環境。北海道の新たな産業と地域社会の幸せな関係性。

第5セクション:デジタル、AI、テクノロジーとクリエイティブ(7/10 - 佐々木)

1. デジタル化の本質(広告のあり方を変えた、生活者の変化と表現手法の変化)
2. AI時代のコミュニケーション(世界の事例をもとにしたクリエイティブ手法の分類)
3. テクノロジーとブランド体験創造(生活者とブランドの新しい関係性づくり)

※講師および講演内容は変更になる場合があります。

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

事前に、新聞やテレビなどでの広告をよく見ておくことが望ましい。また、企業の発信する情報内容について常に興味を持つこと。

期末にレポートが課されるので、講義内容と実際の広告・広報を常に意識し、復習することが望まれる。

成績評価の基準と方法 Grading System

成績評価は、(1)クラスディスカッションへの参加、貢献の度合いを30%、(2)課題レポートの内容を70%として総合的に評価する。

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

テキスト・教科書 Textbooks

特に教科書は定めないが、講義プリント、ビデオなどにより進められる。

講義指定図書 Reading List

The Dentsu way / K.Sugiyama, T.Andree: 講談社, 2002

広報・PR概説 / 公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会: 電通, 2005

:McGrawHill, 2011

参照ホームページ Websites

<http://www.dentsu.co.jp/>

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

1. 当科目全5回の授業のうち、2回以上欠席した者は成績評価の対象としない
2. 30分を超える遅刻は欠席扱いとする
3. 一度も出席していないセッションに対してレポートを提出することはできない
4. レポート作成において、AIを使用したと判断された場合、そのレポートは評価の対象としない
5. 提出されたレポートに深刻な剽窃が認められた場合、そのレポートは評価の対象としない

講義運営担当者: オン・イーシュエン(メディア・コミュニケーション研究院、yixuan.ong@imc.hokudai.ac.jp)

他学部等の履修は可とするが、事前に運営担当教員に連絡・相談のこと。開講日に注意のこと。

科目名 Course Title	マルチメディア表現論演習[Multimedia Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	田邊 鉄 [TANABE Tetsu] (情報基盤センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083226
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	マルチメディア ICT 情報デザイン 思考実験		
授業の目標 Course Objectives	<p>「わたし」と「あなた」、「もの」と「いきもの」、「せかい」と「じぶん」の境界はどこにあるのか。どこまでが自分の口出し可能な世界なのか。文化は遺伝するか、また、進化するか。味覚や嗅覚は保存・伝達・再生・複写できるか。「ICT とともにあるほかない」私たちは、どのように世界にコミットすべきかを、多様な視点から探る。ネット文化、SNS 文化などを研究する上で必要な知識・理論的枠組みについて学ぶ。技術が急激に進化していく時代にあつては、過去の経験から推論を積み重ねるような研究がうまくいくとは限らないので、特に、思考実験的な手法の深化に重点を置いて学ぶ。</p>		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・未曾有の天災や深刻な社会問題について、どのような状態をもって「解決」とみなすのかを明確にできる ・個人では対処困難に見える課題を解決するための情報技術・AI 技術の活用方法を構想し、書面や図解によって説明できる ・以上を踏まえ、コンピュータ、インターネット、生成 AI の可能性と原理的な限界について検討・議論できる 		
授業計画 Course Schedule	<p>導入：世界の中心で何を叫ぶか(第1週) オリエンテーションを兼ねる。なぜ ICT なのか、授業の全体構想について。</p> <p>第1セッション：社会問題を解決するテクノロジー(第2週～4週) 具体的な社会問題を取り上げ、「技術」を用いてどのような解決が可能か検討する。</p> <p>第2セッション：ネットやパソコン無しでできるかな(第5週～13週) 毎回一つの社会問題または生活上の問題を取り上げ、それを解決するための製品やサービスを考案、発表する。 テーマとなる社会問題・生活問題は教員が指示し、ランダムに割り当てる。 考案する際に、「パソコンを使わない」とか「ネット禁止」などの縛りを設け、オルタナティブ、アンブラグドといった観点から検討を行う。</p> <p>第3セッション：まとめ(第14週・15週) 講評を兼ねた、まとめの講義を行う。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>参考となる Web サイトや図書を指示するので、必ず読む。2 時間ぐらいで読み進められるような分量を提示する。前半の報告・後半の報告とも準備に十分な時間が必要である。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>1 回以上の報告および 1 回以上の指定討論者 4 割、授業への出席および討論への積極的参加 3 割、期末レポート(クリエイティブな制作物がある場合、それも含む)3 割を目安に総合的に評価する。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	教科書は用いない。		
講義指定図書 Reading List			

参照ホームページ Websites

<https://wary-tangerine-8f9.notion.site/1dc8a9dd482380f1b2affd1c266ad7ca>

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

科目名 Course Title	メディア観光論演習[Media and Tourism Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中山 千尋 [NAKAYAMA Chihiro] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083227
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6202		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	2 日本語及び英語のバイリンガル授業、受講者決定後に使用言語(日本語又は英語)を決定する授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	マーケティング、ビジネス、価値共創、ケーススタディ、国際マーケティング、メディア、観光、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズム		
授業の目標 Course Objectives	本コースでは、観光マーケティング、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズムのプロセス、およびこれらの分野の基盤となる理論と枠組みの理論的基礎を理解します。様々な研究リソースを通じて、批判的思考力と評価力を養い、マーケティングの原則を複数の実世界のビジネス事例に応用します。		
到達目標 Course Goals	本コース修了後、以下の能力を身につけます。 —観光マーケティング、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズムの特徴を分析できる —実社会における観光マーケティングの理解を示すことができる —様々なビジネスにおけるマーケティング事例に関連フレームワークを適用できる		
授業計画 Course Schedule	本コースは目標達成のため、以下のセクションに分類されます： 1. 観光マーケティングの理論的理解：学生は観光マーケティング、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズムを評価する理論と枠組みに関する知識を習得します。 2. 観光マーケティング研究の応用：学生は観光マーケティング、フィルムツーリズム、持続可能な観光といった異なる研究分野において、理論がどのように応用・実施されてきたかを示します。 3. 観光マーケティング研究の評価：学生は研究と実践のスキルを習得し、観光マーケティング、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズムに関する研究を創造・評価する。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	関連文献の読解と復習を強く推奨する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	文献レビュー論文 30%、出席・授業内活動 30%、プレゼンテーション 40%		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	※特になし。講義ごとに資料や PDF が指示もしくは配布される。		
講義指定図書 Reading List	授業中に随時紹介。		
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	観光マーケティング論演習[Tourism Destination Marketing]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	神山 裕之 [KAMIYAMA Hiroyuki] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083229
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	<p>デスティネーションマーケティング、ツーリズムマーケティング、デジタルマーケティング、地域マーケティング、地域ブランディング、デスティネーションマーケティング・プラン、ツーリズムマーケティング・プラン、マーケティング・フレームワーク、観光統計、財務会計</p>		
授業の目標 Course Objectives	<p>本演習では世界的に進化しつつある観光にかかわるマーケティングの基礎理論・手法・フレームワークを学び、それに基づく観光(デスティネーション)マーケティングのマネジメント方法を理解する。それらを踏まえて、受講生は、国内の観光地域を想定した観光(デスティネーション)マーケティング・プランをグループならびに個人によって作成・発表する。</p> <p>以上を通して、受講生は観光(地域)におけるマーケティングをプランニングし、マネジメントするための基礎的知識とノウハウを身に着けることができる。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習における、受講生の到達目標を以下のとおりとする。</p> <p>(1) 各種マーケティング理論・手法についての基礎的な知識を、観光分野のマーケティングに適用できる。</p> <p>(2) マーケティング理論に基づいた、観光(デスティネーション)マーケティングのフレームワークと内容を理解し、実践に応用できる。</p> <p>(3) 特定の観光地域における観光(デスティネーション)マーケティング・プランのひな形を策定することができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>前半のセッションでは、マーケティングの理論・手法・フレームワークを演習を通じて学ぶ。</p> <p>後半のセッションでは、それらの知識・知見をもとに、国内の観光地域を想定した観光(デスティネーション)マーケティング・プランをグループによって作成し、発表する。</p> <p>第1セッション:観光マーケティングの理論・手法を学ぶ(概ね1～7週)</p> <p>マーケティングの定義、マーケティングの各種手法やフレームワークを観光分野に当てはめて、演習を通じて実践的に学ぶ。あわせて各種観光統計、戦略策定のフレームワーク・考え方についても学び、どのように理論的なフレームを実務に活用するのかといったことを学ぶ。</p> <p>第2セッション:グループワークを通じて、実際にデスティネーション・マーケティングプランを作成する(概ね8～15週)</p> <p>第1セッションで得た知識・知見を踏まえて、受講生がグループの作業によって、国内の観光地域を想定した観光(デスティネーション)マーケティング・プランを作成する。</p> <p>マーケティング・プランの構成にあたって必要な項目や手法等については、講師からその都度知見を提供する。</p> <p>作成した観光(デスティネーション)マーケティング・プランを、演習の場で発表し、それに対する質疑・討議を行う。</p> <p>なお、3回程度外部の講師による特別講演を実施する可能性がある。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>学生には、最終発表に備えて、その準備をグループごとに行うことが求められる。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>次の点を総合的に評価する。試験は行わない。</p>		

<p>演習の成果として、グループワークにより観光(デスティネーション)マーケティングプランを作成・発表するがその際に到達目標の各視点がどの程度反映されているのかといった点で評価を行う。またこれとは別に個人で作成するレポートも評価対象となる。</p> <p>(1)グループワーク・レポート(マーケティングや戦略立案に関するフレームワークの理解力と応用力、観光統計等の定量分析の理解力と応用力)</p> <p>(2)個人レポート(マーケティングや戦略立案に関するフレームワークの理解力と応用力、観光統計等の定量分析の理解力と応用力)</p> <p>評価の基準は以下のとおりである。</p> <p>上記項目の評価の比率は(1)=50%、(2)=50%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 演習時に指示を行う。To be announced at the class room.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information 場合によってゲストによる特別講演を実施する。また、教員が出張時には遠隔授業等を実施する場合がある。</p>

科目名 Course Title	観光地域ビジネス論演習[Tourism Destination Business and Marketing]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	JTBグループ企業派遣講師（国際広報メディア・観光学院）		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083230
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光ビジネス、観光マーケティング、地域マネジメント、DMO、地域活性化		
授業の目標 Course Objectives	<p>2006年、観光を21世紀の日本の政策の柱とする「観光立国推進基本法」が成立、2008年には観光庁が発足した。短期的には、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、国連世界観光機関(UNWTO)の長期予測では2030年の間には18億人もの世界の海外旅行者数まで増加すると見込まれている。このような環境下で、観光庁は観光業を「日本が力強い経済を取り戻すための重要な成長分野」と位置づけ、アジア圏をはじめとした世界の観光需要を取り込むため、様々な取り組みを行っている。その中核の役割を担う「旅行業」は、観光産業が抱える構造的な課題として、高齢化社会の到来による国内市場の縮小、テクノロジーの進展による購買行動の変化及びデジタル化の遅れ、生産性の低さなどが指摘されている。</p> <p>本科目では、従来の「旅行業」のビジネスモデルを産業論、流通視点で解説し、「時代」や「社会」から求められる持続可能なビジネスのあり方を探っていく。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>(1) 旅行産業の歴史・構造を理解することが出来る。</p> <p>(2) 旅行業におけるビジネスモデル、観光産業の産業上の位置付けを理解することが出来る。</p> <p>(3) 今後のビジネスモデルの方向性、事業開発視点にて課題の抽出、仮説設計が出来る。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>JTBグループ関係者の教員による講義とディスカッション、及び受講者による課題発表で構成される。土日6日間の集中講義形式とし、具体的な講義内容等についてはガイダンス時に案内する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 旅行業のビジネスモデル「個人リテール・仕入事業」 3. 旅行業のビジネスモデル「OTA/Web 販売事業」 4. 旅行業のビジネスモデル「法人事業、教育旅行、M&E 事業」 5. 旅行業のビジネスモデル「エリアソリューション事業」 6. 旅行業のビジネスモデル「グローバル事業」 7. 旅行業のビジネスモデル「スポーツ&エンタメ領域」 8. 旅行業のビジネスモデル「訪日IB 領域」 9. 旅行業のビジネスモデル「地域交流領域」 10. 旅行業のビジネスモデル「観光地経営領域」 11. ビジネス提案準備 12-14. ビジネス提案発表 15. ビジネス提案発表・まとめ <p>※スケジュールや実施内容の詳細等は変更になる場合がある。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<ul style="list-style-type: none"> ・準備学習すべき内容は授業の中で指示する。 ・各テーマでディスカッション等を実施するため、受講者の積極的な発言が求められる。 		

<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>授業での積極性や演習提案を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時の授業への参加度:50% ・ディスカッション時における積極性、発言内容:20% ・提案発表・質疑応答:30%
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>JTB グループの事例等を紹介したオリジナル教材を使用する。 JTB group's destination revitalization and case examples will be distributed.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>本科目は株式会社 JTB との包括連携協定にもとづき開講されます。新たな観光ビジネスの創造に意欲のある学生の受講を歓迎します。</p> <p>講義日程は以下のとおり 5/30、31、6/13、14、7/25、26</p>

科目名 Course Title	文化越境論演習[Transcultural Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	玄 武岩 [HYUN Mooam] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083231
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	越境するメディア リメイク アダプテーション ドラマ『パチンコ』 グローバルな物語		
授業の目標 Course Objectives	<p>中心からすれば、「境界」は相対峙する政治的空間の最前線に過ぎない。しかし周辺からは、それは政治関係を通り越してヒト・モノ・文化が交流するコンタクト・ゾーンであることが見えてくる。そういう意味で「境界」は、本来的にせめぎ合う両義的な争闘の場として、かならずしも壁が築き上げられるだけの分断線とは限らない。本演習では、「境界」の構築や変動によってその様相を大きく変貌させる人の移動、文化、思想のトランスナショナルな展開から、越境という政治的・社会的・文化的思考の可能性を模索する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>境界の政治学、越境文化、越境文学、ボーダーツーリズムなど、近年さまざまな分野で境界研究(ボーダースタディーズ)が注目されている。「越境」というアプローチをとおして、これまで自明とされてきた集団や属性の全体性・同質性を批判的にとらえ、内部と外部、集団と個人、中心と周辺をめぐる文化的ヘゲモニーの政治的意味を多面的に分析できる眼目を備える。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>本演習は受講者がグループを組織して調査研究を行う実践型の演習で、次の4つのセッションで進められる。</p> <p>第1セッションー境界とはなにか 国民国家は主権国家としての体制を確立するために、政治・経済・文化の「境界」を確固たるものにしてきた。同時にグローバル化の空間における境界線の流動化は、「境界」の折り重なる文化的ダイナミズムをあらわしている。人びとの思考や行動が絶えず「境界」に異議申し立てる課題を、「境界」をめぐるポリティクスとして受け止め、政治理論から「境界」の意味を再考する。</p> <p>第2セッションー越境の文化／文化の越境 グローバル化は文化のナショナルな枠組みを無化し、新たな生産・流通・消費空間として「文化」を再編するといわれた。しかし現実には、伝統と近代、グローバル化とローカルアイデンティティ、統合と分離がせめぎ合う文化的ダイナミズムをあらわしている。大衆文化の越境による文化的境界の構築と解体の過程に目を向け、亀裂・矛盾・葛藤をはらむ東アジアにおける文化越境の歴史的な脈を考察する。</p> <p>第3セッションー『PACHINKO パチンコ』を読み解く Apple TV+のオリジナルドラマシリーズ『PACHINKO パチンコ』は、在米コリアンのミン・ジン・リーの同名小説『パチンコ』上・下巻(日本語版・文藝春秋、池田真紀子訳、2020年)を原作として製作され、2022年に第1シーズン(全8話)が配信された。1910年代から80年代にかけて、在日コリアン家族の波乱に満ちた日々を描いたドラマ「パチンコ」についての評価は高く、2024年には第2シーズンが公開された。グローバルなコンテンツの生産と流通が日常的となる状況に鑑み、これらの表象が消費されるスタイルに照準を合わせ、従来の規制を飛び越えてアイデンティティに再考を迫るドラマ『パチンコ』を5つの「文化の回路」から読み解く。</p>		

<p>第4セッションー東アジアメディア研究会 受講者が各研究グループの共同研究の成果を東アジアメディア研究会で発表する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 提示された文献資料を参加者全員が事前に熟読して、活発にディスカッションが行えるようにする。本演習の題材となる Apple TV+ドラマシリーズ「PACHINKO パチンコ」の第1シーズンおよび第2シーズンの鑑賞会を設けて集中的に視聴する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 最終回の授業で受講者が共同研究の成果を発表する研究会を実施する。授業の出席状況(10%)および討論への参加度(20%), 研究会での発表・コメント(70%)によって総合的に評価する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List グローバルな物語の時代と歴史表象 『PACHINKO パチンコ』が紡ぐ植民地主義の記憶／玄武岩/金敬黙 /李美淑/松井理恵 編著:青弓社, 2024 リメイク映画の創造力／北村匡平/志村三代子編:水声社, 2017 アダプテーションの理論／リンダ ハッチオン著(片渕悦久/鴨川啓信/武田雅史 翻訳:晃洋書房, 2012</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	ポピュラー文化論演習[Popular Culture Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	金 ソンミン [KIM Sungmin] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083232
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ポピュラー文化、文化理論、カルチュラル・スタディーズ、メディア、グローバリゼーション		
授業の目標 Course Objectives	授業では、様々なテキストを用いてポピュラー文化研究の歴史と主要概念、研究の範囲と方向性について学び、受講者それぞれが興味をもつテーマについてより深く考えていきます。		
到達目標 Course Goals	①ポピュラー研究に関する基礎的な文献を読み、理解できるようになる。 ②文献や現象に関する発表・討論をつうじて、学問的な観点を持つことができるようになる。 ③授業で得た知識と観点を用いて、実際研究を行うことができるようになる。		
授業計画 Course Schedule	<p>第一部 ポピュラー文化とは何か</p> <p>第1回:ガイダンス 第2回 ポピュラー文化論入門1 第3回 ポピュラー文化論入門2</p> <p>第二部 ポピュラー研究の理論</p> <p>第4回 ポピュラー文化の歴史1 第5回 ポピュラー文化の歴史2 第6回 ポピュラー研究の概念と理論1 第7回 ポピュラー研究の概念と理論2 第8回 ポピュラー研究の概念と理論3</p> <p>第三部 ポピュラー研究の実践</p> <p>第9回 ポピュラー文化とメディア 第10回 ポピュラー文化とグローバリゼーション 第11回 ポピュラー文化と政治 第12回 ポピュラー文化と東アジア 第13回 ポピュラー文化と大衆</p> <p>第14回 個人研究発表および討論(1) 第15回 個人研究発表および討論(2)</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	主に文献レジュメの作成と個人発表の準備が中心となる。		
成績評価の基準と方法 Grading System			

出席状況、議論への参加度、文献レジュメ報告、個人研究発表(中間発表と最終発表)などを総合的に評価する。

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

テキスト・教科書 Textbooks

ポップ・カルチャー批評の理論：現代思想とカルチュラル・スタディーズ／ジョン・ストーリー：小鳥遊書房，2023
日韓ポピュラー音楽史：歌謡曲から K-POP の時代まで／金成玟：慶應義塾大学出版会，2024

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

<https://www.kimsungmin.net/>

備考 Additional Information

科目名 Course Title	公共社会論演習[Public Society]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	齋藤 拓也 [SAITO Takuya] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083233
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	公共性、民主主義、リベラリズム、代表制、民意		
授業の目標 Course Objectives	<p>グローバル化が進む中で、私たちが生きる社会はますます多様化し、また多様なものとして認識されるようになっていきます。社会に国籍や出身地域の異なる多様な人々が共存するようになり、メディアを通じて遠く離れた場所に住む人々の異なる価値観に触れる機会も増えています。この授業では、歴史(思想史も含む)的背景に目配りしながら、社会が多様化し、断片化する中で、何が問題となっているかを知り、それでもなお社会が公共的なものであるための条件を粘り強く考える力を身につけることを目指します。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>社会と公共性の関係を、思想史上のさまざまな論点を通じて考察します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会が公共的なものであるための条件を、公共圏という観点から説明できる。 2. 社会が公共的なものであるための条件を、民主主義の観点から説明できる。 3. 社会が公共的なものであるための条件を、リベラリズムとそれに対するさまざまな立場からの批判という観点から説明できる。 4. 社会が公共的なものであるための条件を、社会制度に関する思想の観点から説明できる。 5. 課題文献を読み、論点をまとめて、内容を論理的に説明できる。 		
授業計画 Course Schedule	<p>授業は初回を除いて演習(文献講読)の形式で行われます。扱う主要なテーマと論点は次の通りですが、文献については初回の授業で受講者と相談のうえで決定します。</p> <p>I. 公共社会と公共圏 まず、社会が公共的なものであるための条件を、公共圏に関するさまざまな思想・哲学の観点から考察し、それぞれの立場の特徴と歴史的由来を理解します。</p> <p>II. 公共社会と民主主義 続いて、民主主義と深く結びついている社会が、その政治的回路である代表制やポピュリズム、熟議とどのように関わっているのかを考察します。</p> <p>III. 公共社会とリベラリズム 公共圏、民主主義と社会の関係について一定の理解を得たうえで、次にリベラリズムとそれに対するさまざまな立場からの批判を取り上げます。リベラリズムへの批判や代替案は多岐にわたりますが、それらが社会が公共的なものであるために何を重視しているのかを考えます。</p> <p>VI. 公共社会と制度 社会が公共的であるために必要な制度を取り上げ、それらがどのようなものとして論じられているのかを学びます。</p> <p>なお、受講者の数にもよりますが、専門分野や研究テーマに合わせて担当箇所を選ぶことができるよう配慮します。報告の担当については、初回の授業時に話し合うことにします。</p>		

<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>各回の授業で課題の文献を指定します。受講者は課題文献を事前に熟読して、重要な論点や疑問点、反論すべき点などを挙げて議論に積極的に参加できるよう準備をしてください(毎回ミニペーパーの事前提出があります)。また、学期中に少なくとも一回は課題文献について報告することが求められますので、指定された回にレジюмеを作成して内容を説明し、議論したい点や疑問点を示してください。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>演習での議論への参加度・ミニペーパー(50%)と学期中の報告(50%)をもとに評価を行います。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	国際交流論演習[International Exchange Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	高橋 彩 [TAKAHASHI Aya] (北海道大学)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083234
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	国際交流、共生社会		
授業の目標 Course Objectives	現代日本において、国際交流は、外交・政治、経済活動、文化交流、学術、教育など社会の諸局面において、国家間、組織間あるいは個人間で行われており、私たちの社会・生活を深く支えています。この授業では、言語・文化背景の異なる人々の「受入れ」場面に焦点をあて、その状況や実際を知るとともに、そこにある共修や共生、協働をめぐる論点を考察します。この授業は、受入れ場面をめぐる実践的かつ具体的な検討を通して、受講生自らが国際交流の意義を探索する授業です。		
到達目標 Course Goals	<p>① 言語・文化背景の異なる人々を受入れる場面で、重視されている事柄を整理することができる。</p> <p>② 授業で提示されたトピックに対し、議論を深めるための効果的な問いを立てることができる。</p> <p>③ 実践的な場面を想定し、受入れを円滑に行うための効果的な説明や情報提供をすることができる。</p> <p>④ 国際交流の意義について、授業を通して深めた考えをわかりやすく説明することができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回 イントロダクションー授業の概要と受講方法、計画について</p> <p>第2回 国際交流とは？</p> <p>第3回 大学における海外からの学生の受入れ</p> <p>第4回 受入れのための多様な支援</p> <p>第5回 オリエンテーションを再考するー学生によるグループ・プレゼンテーション</p> <p>第6回 共生社会と地域コミュニティ</p> <p>第7回 外国人住民支援の状況</p> <p>第8回 外国人住民支援の方策を考えるーグループワーク</p> <p>第9回 外国人住民支援の方策を考えるー学生によるグループ・プレゼンテーション</p> <p>第10回 言語・文化背景の異なる人々を受入れるー模擬オリエンテーションについて</p> <p>第11回 作業とQ&A</p> <p>第12回 ピア・コンサルテーション</p> <p>第13回 学生による模擬オリエンテーション</p> <p>第14回 国際交流の再考</p> <p>第15回 まとめと振り返り</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<ul style="list-style-type: none"> ・授業トピックに関する情報収集と自らの思考の整理 ・開始時レポート:400字程度 ・終了時レポート:2000字程度 ・模擬オリエンテーション(1回)の準備 		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>成績評価の基準と方法</p> <p>① 開始時レポート(20%)</p> <p>② 模擬オリエンテーション(30%)</p> <p>③ 終了時レポートと質疑応答(30%)</p>		

④ 授業への貢献度(グループワーク、ディスカッションへの貢献、その他指示された事項の遂行) (20%)
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List 『国際文化交流を实践する』/国際交流基金編:白水社, 2020 その他、授業の中で随時提示します。 To be announced in course work
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	言語社会論演習[Language in society: An introduction to sociolinguistics]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	大友 瑠璃子 [OTOMO Ruriko] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083235
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6201		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives			
到達目標 Course Goals			
授業計画 Course Schedule			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
成績評価の基準と方法 Grading System			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	To be provided by the lecturer		
講義指定図書 Reading List	No reading list		
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	英語版シラバスをご参照ください。		

科目名 Course Title	言語コミュニケーション論演習[Communication Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	杜 長俊 [DU Changjiun] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083236
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	日常会話、相互行為、会話分析、論文講読、学会発表		
授業の目標 Course Objectives	様々な言語使用状況の中でも、最も一般的で社会的活動根幹を成す「日常会話」を主たる研究対象とする「会話分析」の研究手法を学ぶ。自身で会話データを収集、それを書き起こし、会話分析の手法で記述・分析するとともに、その結果をまとめる書類(学会発表審査用要旨)を作成する。		
到達目標 Course Goals	1.会話分析の手法を理解し、自らの収集した会話データを分析できる 2.分析結果をわかりやすく他者に伝え、他者との意見交換を通して互いの分析を深めることができる 3.分析結果をまとめ、学会発表審査用の要旨を作成できる		
授業計画 Course Schedule	<p>第1 セクション(1回～3回)【データ収集】 オリエンテーション、データ収集、トランスクリプト作成</p> <p>第2 セクション(4回～9回)【会話分析の基礎】 「行為連鎖」「発話順番」「修復」の会話分析の基礎を知る(会話分析の教科書を読んでディスカッションをする) 自分が収集したデータから、「行為連鎖」「発話順番」「修復」の現象を探して、分析する</p> <p>第3 セクション(10～11回)【論文講読】 日本語で書かれた会話分析の論文を読んで、会話の細部について記述する方法を学ぶ</p> <p>第4 セッション(12回～14回)【データセッション】 分析対象の現象について、互いの分析を深め合う</p> <p>第5 セッション(15回)【学会発表に向けて】 分析結果をまとめ、学会発表審査用の要旨を作成する</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	会話データを収集すること、論文を読むこと、データセッションのための資料作成等		
成績評価の基準と方法 Grading System	データ収集・データセッションの資料作成:30% ディスカッションへの参加度:30% 学会発表審査用の要旨:20% 授業の振り返りシート:20%		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	会話分析の基礎:ひつじ書房		

講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information 参加してほしい人: 外国人と日本人の会話(接触場面)や、友人同士の雑談のような日常会話を分析することに興味がある人

科目名 Course Title	言語研究方法論演習[Methodology of Linguistics Research]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	奥 聡 [OKU Satoshi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083237
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6201		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
theoretical linguistics, methodology, knowledge of language, language acquisition, generative grammar, morphology, syntax			
授業の目標 Course Objectives			
What do we know when we know (have, speak) a language? How can we acquire such knowledge of language? How can we reveal properties of knowledge of language and the language acquisition? These are some of the most important questions in linguistics; a scientific study of language. People often believe that the answers to these questions are easy. You would say, for instance, “we just know words of a language we speak: that why we can speak the language,” “we learn our language from my parents,” or “we can study properties of language by careful observation of actually used sentences.” The recent development of linguistics, however, has convincingly shown that these “common sense” answers are all wrong. Our knowledge of language and its acquisition process is way more sophisticated than you might imagine.			
到達目標 Course Goals			
This course has two other practical purposes as well. First, the students will have specific training of thinking logically that is essential in any academic research. Second, the students will have substantial practical training in oral presentation and discussion in English.			
授業計画 Course Schedule			
The entire course will be conducted in English (lectures, discussions, student presentations, assignments, and term papers). After the introduction and short discussion on morphology, the course mainly discusses human language syntax. In each class, the instructor first introduces basic concepts and principles, and demonstrates how to analyze actual languages (mainly English and Japanese) and how to construct theoretical arguments. The students are then required to make an oral presentation, reporting their analysis of assignments. The assignments include analysis of sample data taken from various world languages (including the students’ native languages) using the methodology the students have learned. The presentation of the proposed analysis will be discussed and evaluated.			
【授業計画・内容】 (subject to adjustment)			
Week 1 Introduction: Importance of a scientific approach to language & Morphology (1) (study of the structure of words)			
Week 2: Morphology (2)			
Week 3: Structure Dependency (It’s hierarchical structure, not linear order)			
Week 4: From “Visible” Complex to “Invisible” Simple: the gut of modern science			
Week 5: Structure and Meaning			
Week 6: Brief History of Generative Syntax: Rule System, Principles & Parameters Approach, Minimalism			
Week 7: LF Interface Condition: Requirement from Meaning			
Week 8: Modularity: A Division of Labor			
Week 9: Binding Theory: From Data to Hypothesis (Abduction)			
Week 10-11: Labeling Theory: What is the type of complex?			
Week 12-13: Deletion: How to Recover missing Information			
Week 14: Subset Copy Principle (1): Asymmetry of Recoverability Condition			
Week 15: Subset Copy Principle (2), and General Conclusion			

<p>There are short assignments in each class and the students are required to report their analysis of the assignments in class. The students are required to submit a short term paper on selected topics.</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework All homework assignments every week include preparation for the next class and review of the previous class. It will take about the same amount of time as class meeting time. To be specified in the class.</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System Evaluation is based on assignments (40%), presentations(20%), participation in class discussion (10%), and the term paper (30%).</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks References: to be announced in the class.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information References: to be announced in the class.</p>

科目名 Course Title	言説分析論演習[Discourse Analysis]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	富成 絢子 [TOMINARI Ayako] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083239
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	言説分析、テキスト分析、質的分析、方法論、メディア		
授業の目標 Course Objectives	言説分析の分野は社会学や言語学にまたがり、メディアや政治家のスピーチなどのテキストの分析を通して社会の様相を考察していくものである。この授業では、言説分析や批判的談話分析などについて基本的な理論や方法論を理解し、言葉と社会の関係について理解を深め、実際の分析ができるようになることを目指す。		
到達目標 Course Goals	言説分析の理論の流れや方法論、分析手法を理解し、テキストの分析に応用できる。また、言説分析の理論や方法論について他人に説明したり、テキスト分析の結果や考察内容を学術的にまとめ、レポートを書いたり、発表することができる。		
授業計画 Course Schedule	<p>授業では最初に社会科学分野における認識論や方法論、研究の組み立て方などについて理解した上で、言説分析の理論や方法について学んでいく。</p> <p>前半の授業は講義と文献を読んだ後の発表や議論を中心とし、後半では具体的な分析方法について学び、テキスト分析をしていく。</p> <p>内容や進め方は受講者の人数や興味に応じて変えることがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、研究デザインと方法論 2 認識論と方法論 3 構築主義と言説分析 4 言説分析の事例(1) 5 言説分析の事例(2) 6 批判的談話分析(1) 7 批判的談話分析(2) 8 英語講読(1) 9 英語講読(2) 10 分析手法と実践(1) 11 分析手法と実践(2) 12 分析手法と実践(3) 13 発表(1) 14 発表(2) 15 発表(3) 		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>文献購読で発表担当となった人はレジュメを準備してくる。発表者以外は事前に文献を読んで理解し、コメントや質問を考えてくる。</p> <p>授業の最後にテキスト分析を実際にした結果を発表してもらうので、早めに分析対象とするテキストを見つけておく。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>発表(文献購読、分析発表):40%</p> <p>レポート:60%</p>		

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	言語応用論演習[Applied Linguistics]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	平田 未季 [HIRATA Miki] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083240
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6200		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	日常会話 相互行為 ジェスチャー 身体動作 会話分析 接触場面		
授業の目標 Course Objectives	<p>日常の会話はかつて秩序がなく混乱しており、研究するに値しないものと考えられていました。しかし、近年は分析理論の構築、分析機器の発達が進み、私達が日々行っている会話そして相互行為場面への興味関心が非常に高まっています。参加者が発することだけでなく、ジェスチャーや身体動作、周囲の環境の影響までも含めたやりとりの分析は、言語学にとどまらず、言語教育、認知科学、ロボット工学、デザイン工学など様々な分野に広がっています。さらに、近年は、多様化する地域の現状を受け、異なる言語を母語とする人たちの会話の分析も行われています。</p> <p>この授業では、受講者は言語学の中で日常の会話が研究対象になるまでの流れを学んだ後に、会話や相互行為分析の方法論を身につけ、それぞれが興味を持つ状況下での相互行為を実際に録画・録音し分析します。授業を通して、会話や相互行為分析のための基礎的知識を学ぶとともに、人と人の間に起きるやりとりに影響を与える要因、実際の会話から見えてくる新たなことばの姿を共に考えます。さらに、会話を分析することが社会にどのようなインパクトを与えるのか、実際の事例をもとに検討します。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>(1) 日常会話や相互行為を分析するための理論的な枠組みが説明できる</p> <p>(2) 特定の状況下での会話や相互行為を分析するための基礎的な方法を理解し、分析を行うことができる</p> <p>(3) 分析結果を分かりやすく他者に伝えることができる</p> <p>(4) 他者の分析について有益なコメントをし、互いに分析を深めることができる</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1 セクション(1, 2 回)</p> <p>担当者による講義、授業要約： 日常会話や相互行為分析が様々な分野でどのように応用されているのか</p> <p>第2 セクション(3 回～6 回)</p> <p>実際の作業を通じた分析方法の習得： 実際の会話を見ながら、会話や相互行為分析のための方法論を身につける (文献講読、分析のためのトランスクリプトの作成、ELAN の使用法、データセッション)</p> <p>第3 セクション(7 回～15 回)</p> <p>課外でのデータ収集・分析の実践： それぞれが興味関心を持つ状況での2人以上のやりとりを録画・録音し、スクリプトを作成して、分析を行う 授業内でデータセッションを行い、互いの分析を深め合う</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>第2 セクション 講義に関連する文献を読みレジュメを作る、授業の説明に従い、ELAN を用いてトランスクリプト作成などデータ分析のための課題を行う</p>		

第3 セクション データセッションのための準備を行う(課外でのデータ収集、発表のための配布資料やスライドの作成)
成績評価の基準と方法 Grading System 課題 (50%)、データセッションでの発表 (30%)、授業への積極的な参加 (20%) ※到達目標の(1)と(2)については主に課題の達成状況 (50%) により、(3)と(4)については主にデータセッションでの発表 (30%) により評価する。このほかに、授業計画に沿った授業への積極的な参加 (20%) を評価に加える。
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	国際経営論演習 I (経営戦略)[International Business Management (Development Strategies)]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中川 理 [NAKAGAWA Satoru] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083242
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 国際広報専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	日本企業の国際化、ケーススタディ、グローバル企業、グローバルマーケティング、イノベーション		
授業の目標 Course Objectives	<p>本講義では、経営戦略、グローバル戦略、新しいビジネスなどの事例を中心にグループで議論し、資料をその場で作成し、発表をしてもらう。それぞれのグループの発表を講師がレビューすることにより、実践的な知識を習得してもらう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本企業のグローバル展開の事例から学ぶ 2. グローバル企業のグローバル展開の事例から学ぶ 3. 新しいイノベティブなビジネスについて学ぶ 		
到達目標 Course Goals	<p>本演習における、受講学生の到達目標は以下の通りとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業がどのように経営戦略を立案し、遂行するのかの知識を習得し、経営戦略の各種フレームワークに沿って戦略立案ができる。 2. グローバルで戦略を考える際の留意点や、日本企業とグローバル企業との違いの知識を習得し、戦略を立案することができる。 3. 新しいイノベティブなビジネスに対する取り組み方を学び、イノベティブな領域での戦略を立案することができる。 		
授業計画 Course Schedule	<p>【授業の方法】 本講義では、各回の授業のトピックについて、履修者が事前に調べた情報を持ち寄り、講義内でグループ・ディスカッションと発表をしてもらう。また、それに関連する戦略やフレームワークや実践的な知識について講師がレビューを行う。 前半で取り上げるトピックは、主に日本企業や海外企業のグローバル展開の成功、失敗事例 後半で取り上げるトピックは、サブスクリプションモデルなどのビジネスモデル</p> <p>【授業計画】 以下に示すそれぞれのセクションのトピックについて、1、2 回の授業で議論し、発表し評価しあうことのでグローバル戦略の知識を獲得してもらう。 ※以下のトピックは変更することがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日系企業のグローバル展開の成功・失敗 「いきなりステーキはニューヨーク進出後、すぐに撤退することになったのはなぜか？」 ○日系企業のグローバル展開の成功・失敗 「日本でほぼ無名の常陸野ネストビールはなぜアメリカで成功しているのか？」 ○日系企業のグローバル展開の成功・失敗 「UNIQLO が海外で一定の成功を収めているのはなぜか？」 ○中国企業のグローバル展開の成功・失敗 「日本風中国企業〃名創優品(MINISO)〃のブランド戦略、グローバル戦略について論ぜよ」 ○グローバルマーケティング 「ダイヤモンドはなぜ世界中どこでも高いのか？」 		

<p>○グローバルマーケティング 「ロマネコンティはなぜ 1 本 100 万円以上もするのか？」 ○イノベーション 「日本マーケットで電動キックボードが成功し得るか？その方法は？」 ○イノベーション 「無人コンビニは成功するか？どの国で成功するか？」</p>
<p>準備学習 (予習・復習)等の内容と分量 Homework 1)次週の講義テーマについて事前情報収集とメモ作成(1 時間程度の予習) 2)発表に向けてのグループワーク 3)個人課題(「海外に進出させるべき商品・サービスの事業戦略の提案」、または「日本に海外から持ち込むべき事業・サービスの事業戦略の提案」。A4 で 2、3 ページ程度、ワードもしくはパワーポイント)</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System ・成績評価は、授業回数 の 7 割以上出席したものについて、(1)個人課題(1 回)の提出(40%)と(2)クラス・ディスカッションへの参加、貢献の度合い(60%)を評価することによって行う。 ・出席は、毎回の講義終了後(講義翌日の水曜 18 時迄)に「他者評価メール」を中川にメール提出することで出席扱いとする。 ・試験は行わない。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites Zoom URL: 履修登録者は Moodle を参照のこと</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information ・毎回、日本語でのグループディスカッション、資料作成、発表を繰り返すことになるため、一定水準以上の日本語能力が求められる。 ・対面開催だが、毎回、Zoom に繋いで作成した資料の共有や作成を行ってもらうため、パソコンは必ず持参すること。 ・質問があれば、遠慮なくメールで問合せのこと。nakagawa@imc.hokudai.ac.jp</p>

科目名 Course Title	国際経営戦略広報論演習[International Management and Corporate Communication]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	若菜 高博 [WAKANA Takahiro] ((株)野村総合研究所)		
担当教員 Other Instructors	中川 理[NAKAGAWA Satoru](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083244
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 国際広報専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	経営戦略、事業戦略、機能戦略、グローバル戦略、グローバリゼーション、グローバルサプライチェーンマネジメント、マーケティング		
授業の目標 Course Objectives	グローバルに Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity が高まる時代において、企業はどうやって戦略(企業戦略、事業戦略、機能戦略)を立案し、オペレーションを組み立て、マーケティングをしていけばよいのか、講師の20年超の戦略コンサルティング及び人材成長支援の実践的なノウハウを織り交ぜながら、基本となるフレームワークと方法論を理解する。よく知られた具体的な企業を取り上げて戦略のフレームワーク・考え方の解説を行い、演習とディスカッションを取り入れることにより、理論と現実、他者の多様な視点を学びつつ、「自分が当事者ならどう考えるか」という論理的思考能力の向上を目指す。		
到達目標 Course Goals	グローバルな視点を持ち、フレームワークを援用しながら、企業を取り巻く環境の分析や戦略の立案について自分なりの仮説を立てることができる。特定の企業について、①外部分析(5フォース分析、PEST分析、CAGE分析など)、②内部分析(SWOT分析、バリューチェーン分析、AAA戦略など)を踏まえて、③成長戦略の立案ができるようになることを目指す。		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回:キックオフ(本演習の紹介・自己紹介)、経営戦略の考え方 - 本演習の狙い、講師および受講生の自己紹介 - 戦略とは?(戦略の構造) - 経営戦略のフレームワーク: 経営戦略と事業戦略と機能戦略の概論 - 経営戦略考察の宿題について: (事例)20年前の宅配便事業を営む三社について(ヤマト運輸、佐川急便、日本通運)</p> <p>第2回:事業戦略の考え方 - 経営戦略論考察(宿題)に関するディスカッション - 事業戦略のフレームワーク: 5フォース分析、PEST分析、SWOT分析 - 事業戦略考察の宿題について: (事例)ヤマト運輸の中期経営計画について</p> <p>第3回:機能戦略の考え方 - 事業戦略考察(宿題)に関するディスカッション - 機能戦略のフレームワーク: バリューチェーン分析(製造業と物流業を例に) - 機能戦略考察の宿題について: (事例)ヤマト運輸と佐川急便の物流機能の違いについて、ヤマト運輸のマーケティングについて</p> <p>第4回:グローバル戦略の考え方 - 機能戦略考察(宿題)に関するディスカッション - グローバル戦略の考え方: CAGE分析、AAA戦略のフレームワーク - グローバル戦略考察の宿題について: (事例)ヤマト運輸の宅急便ビジネスモデルの海外輸出について</p> <p>第5回:個人発表(企業研究)・講評、本演習のとりまとめ</p>		

<p>ー第4回までに学習したフレームワークを参考にしながら、特定の企業を取り上げ、①外部分析(5フォース分析、PEST 分析、CAGE 分析など)、②内部分析(SWOT 分析、バリューチェーン分析、AAA 戦略など)を踏まえて、③グローバル成長戦略について、考察をレポートにまとめて発表する</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 課題レポート(各回講義終了後、次回講義まで):具体的なテーマ、書き方等は講義の中で説明する。 ただし、必要に応じて、関係する理論や事例を調べることが望ましい。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System ー出席および授業への貢献(ディスカッションへの積極的な参加と発言内容):60% ー各回の課題と最終レポートの評価:40% (試験は実施しない。)</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 特に無し(必要に応じて、授業内で紹介) Nothing in particular (introduced in class if necessary)</p>
<p>講義指定図書 Reading List 特に無し(必要に応じて、授業内で紹介) Nothing in particular (introduced in class if necessary)</p>
<p>参照ホームページ Websites 特に無し(必要に応じて、授業内で紹介) Nothing in particular (introduced in class if necessary)</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory なし</p>
<p>備考 Additional Information なし</p>

科目名 Course Title	広報企画論演習[Public Relations Planning Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小松 康弘 [KOMATSU Yasuhiro] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083245
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 国際広報専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	パブリックリレーションズ、企業広報、コーポレートコミュニケーション、メディアリレーションズ、インベスターリレーションズ、コーポレートブランド、企業価値、サステナビリティ経営、CSR、ESG、CSV、SDGs、インターナルコミュニケーション、エンプロイワーリレーションズ、人的資本、コーポレートガバナンス、リスクマネジメント、危機管理広報		
授業の目標 Course Objectives	<p>株式会社野村総合研究所でコーポレートコミュニケーションを担当した講師による、企業広報に関する講座である。企業が行う広報活動、すなわちコーポレートコミュニケーションは企業の存続をも左右する重要な役割を担っているが、その実態は多様なステークホルダとの多面的なやりとりであり、その対象と目的に応じて様々な工夫も求められる。また、コミュニケーションの分野では、デジタル化の進展やソーシャルメディアの台頭などの急激な変化も続いている。</p> <p>本演習では、企業を取り巻く経済や社会、技術等の変化が、企業とステークホルダとの関係や企業経営にどのような影響を与えるのかに焦点を当て、企業広報を中核に据えたコミュニケーションのあり方を考察する。講師の実務経験(コンサルティング、企業広報、人的資本活用)を踏まえた具体的な事例も交えて、理論と実務の両面からコーポレートコミュニケーションを体系的に分析することを目指す。</p> <p>履修者は本演習を通じて、社会で交わされるコミュニケーションを捉えなおすとともに、自らのコミュニケーションを改善することができるようになる。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習の履修者における到達目標は以下のとおりとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業をはじめとする組織が行うコミュニケーションに関する実践的な知識を獲得する ・企業を取り巻く多様なステークホルダとのコミュニケーションのあり方を認識することができる ・日常的に触れている企業からの情報発信の意図を理解し、正しく解釈できる 		
授業計画 Course Schedule	<p>授業計画 Course Schedule</p> <p>【授業の方法】</p> <p>本演習はほぼ月1回、全5回からなる集中講義形式とする。</p> <p>演習は、基礎知識を得るための講義と、事例やテーマに関するディスカッション、レポート発表によって構成される。</p> <p>第1回を除き、履修者は毎回提示される課題について、情報収集や分析等を行い、レポートにとりまとめて提出する。第5回終了後は、最終課題レポートを提出する。</p> <p>【授業計画】</p> <p>第1 セクション:パブリックリレーションズとコーポレートコミュニケーション</p> <p>(1)パブリックリレーションズの基礎</p> <p>(2)企業経営におけるコーポレートコミュニケーション</p> <p>(3)メディアリレーションズの実務</p> <p>第2 セクション:環境変化とコミュニケーション</p> <p>(1)企業を取り巻く環境の変化</p>		

<p>(2)コミュニケーションの変化</p> <p>第3 セクション:エクスターナルコミュニケーション</p> <p>(1)ブランドと企業価値</p> <p>(2)インベスターリレーションズ(IR)の実務</p> <p>(3)サステナビリティ経営を支えるコミュニケーション</p> <p>第4 セクション:インターナルコミュニケーション</p> <p>(1)企業・従業員とそのコミュニケーション</p> <p>(2)インターナルコミュニケーションの実務</p> <p>第5 セクション:守りのコーポレートコミュニケーション</p> <p>(1)リスクの多様化</p> <p>(2)危機管理広報の実務</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>・講義後レポート</p> <p>講義終了後に講義で取り上げた内容から学びのあったテーマを選択し、当該テーマに関するプレゼンテーション資料(PowerPoint、1～2枚程度)を作成する。資料作成にあたっては、関係する理論や実例を調べて学びを深めることが望ましい。また、次回の講義において、作成した資料の内容説明のためのプレゼンテーションも行う。</p> <p>・最終課題レポート</p> <p>第5セクション終了後、指定する課題に関するレポートを作成する。課題は講義の中で提示する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>次の点を総合的に評価する。試験は行わない。</p> <p>(1) 授業への参加状況、ディスカッションにおける貢献度(積極性・発言内容など)</p> <p>(2) 各回講義後レポートの提出状況・内容(情報収集状況と理解度)</p> <p>(3) 最終課題レポートの提出状況・内容</p> <p>※それぞれの評価の比率は、(1)=30%、(2)=40%、(3)=30%とする。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>特に無し。履修者の習熟度にあわせて講義の中で紹介する。None</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p> <p>特に無し。履修者の習熟度にあわせて講義の中で紹介する。None</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	組織コミュニケーション論演習[Organizational Communication Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	辻本 篤 [TSUJIMOTO Atsushi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083246
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6300		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 国際広報専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	<e クチコミ>の組織コミュニケーション		
授業の目標 Course Objectives	本授業は、「<e クチコミ>の組織コミュニケーション」と題し、近年注目を集めつつある SNS 上の<e クチコミ>と消費行動の関係を、文献を通じて読み解くことを目的とする。		
到達目標 Course Goals	以下の SNS の<e ロコミ>の論旨(テキスト1、および2)を理解し、実感できる事を到達目標とする。 1) 人々が「つぶやく」理由 2) 人々が「リツイート」する理由 3) 「つぶやき」とネットワークがもたらす情報過多 4) スマホの普及とビジュアルコミュニケーションの時代 5) 新しいトレンドとしての「消える」「盛る」「ライブ」 6) 情報との出会いは「ググル」から「#タグる」へ 7) シェアしたがる心理と情報拡散の構造 8) SNS を利用したケーススタディ(キャンペーン事例の分析)		
授業計画 Course Schedule	<ul style="list-style-type: none"> ・第1講:オリエンテーション: 本授業の概要と授業の進め方に関する解説 ・第2-3講: SNS の<e ロコミ>と概要とその現代的意義 ・第4-9講: テキスト1(北村智ほか『ツイッターの心理学 ―情報環境と利用者行動―誠信書房,2016年)に関して参加学生による分担発表+ディスカッション ・第10-12講: テキスト2(天野彬『#シェアしたがる心理 ―#SNSの情報環境を読み解く7つの視点』宣伝会議,2019年(インスタグラム研究の文献))に関して参加学生による分担発表+ディスカッション ・第13-14講: 外部有識者による講演(SNS関係:2名を予定) ・第15講: 予備日+総括日 		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	授業で学んだトピックは繰り返し復習すること。		
成績評価の基準と方法 Grading System	全15回の授業のうち11回以上出席をした学生に対して以下の項目で評価する。(遅刻3回で1回の欠席とする) (1)グループ・ディスカッションにおける貢献度、授業態度 (2)分担発表の内容 それぞれの評価の比率は、(1)=40%、(2)=60%		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	ツイッターの心理学 ―情報環境と利用者行動―/北村智、佐々木裕一、河井大介:誠信書房, 2016 #シェアしたがる心理 ―#SNSの情報環境を読み解く7つの視点/天野彬:宣伝会議, 2019		
講義指定図書 Reading List			

参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information 1. 授業を 4 回以上欠席した履修者は成績評価の対象外とする(ただし特段の理由(インフルエンザ、忌引き等のやむを得ない場合)がある場合は要相談 2. 提出物の遅れは減点の対象となる

科目名 Course Title	公共文化論演習[Cultural Diversity and Communication]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	松本 彩花 [MATSUMOTO Ayaka] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083247
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	現代民主主義、政治理論、自由民主主義、熟議民主主義、マイノリティ、ジェンダー、権威主義、独裁、ポピュリズム		
授業の目標 Course Objectives	<p>本演習では、現代民主主義について政治理論・政治思想研究の視角から考察していきます。民主主義(Democracy)という言葉は、「人民(demos)」による「統治・支配(kratia)」という古代ギリシャ語に由来しますが、民主主義の長い歴史の中で、この概念の意味内容や理想とされるあり方は常に同じではありませんでした。人々が集会して直接政治に参加する「直接民主主義」から、選挙で代表者を選ぶ「代表民主主義」や「自由民主主義」、さらには「民主主義的独裁」に至るまで、民主主義は様々な仕方でも論じられています。現代民主主義における重要な論点を学びながら、民主主義という論争的な概念を様々な角度から考えていきましょう。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>(1) 民主主義理論の様々な潮流について叙述できる。 (2) 現代民主主義が抱える課題や取り組むべき重要な論点を説明できる。 (3) 論理的かつ批判的に議論を組み立て、これらの問題について自らの見解を述べることができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>初回のガイダンスを除き、演習形式で進めていきます。各回担当者はレジュメやパワーポイントを用いて課題文献の担当箇所について報告を行い(要約および疑問点や論点の提示)、受講者全体で議論します。受講者は少なくとも一回以上は報告を担当することが求められます。</p> <p>第1セッション(第2-5回): 現代民主主義理論の潮流 課題文献を講読することで、現代民主主義に関する様々な理論について学びます。現代民主主義の標準とされる「自由民主主義」をはじめとして、「熟議民主主義」、「闘技民主主義」、「認知的民主主義」、「参加民主主義」について理解を深めます。</p> <p>第2セッション(第6-10回): 現代民主主義における様々な論点 現代民主主義のあり方を考える上で重要な論点である「マイノリティ」、「ジェンダー」、我々と他者を区別する「境界線」や、指導者選抜方式としての(選挙に代わる)「抽選制」などについて検討します。</p> <p>第3セッション(第11-15回): 現代民主主義への挑戦 民主主義への対抗理論と考えられている「独裁・権威主義」、「アナーキズム」、「ポピュリズム」を取り上げ、現代社会が抱える課題について多角的に考察し、議論します。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>各回の演習で、講読する文献の箇所を指定し、報告担当者を決めます。報告者はレジュメあるいはパワーポイント等の資料を作成して担当箇所の内容を要約するとともに、疑問点や重要だと思ふ論点およびコメントを提示して議論に向けた準備を行います。受講者は講読する文献を事前に精読し、疑問点や議論したい事項を整理しておくことが求められます。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>毎回の演習での議論への積極的参加・ミニレポート(50%)、課題文献についての報告(50%)によって評価します。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

テキスト・教科書 Textbooks 現代民主主義理論ハンドブック／田村哲樹・山本圭編：ナカニシヤ出版，2026
講義指定図書 Reading List 民主主義とは何か／宇野重規：講談社現代新書，2020 現代民主主義 思想と歴史／権左武志：講談社選書メチエ，2020 現代民主主義 指導者論から熟議、ポピュリズムまで／山本圭：中公新書，2021 独裁と喝采／松本彩花：慶應義塾大学出版会，2025
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	市民社会論演習[Civil Society Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	金山 準 [KANEYAMA Jun] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083249
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	公共性、デモクラシー、アソシエーション、コミュニティ、コレクティブ、非営利組織、コモンズ		
授業の目標 Course Objectives	<p>第一の目標は、現代の社会科学において一つの鍵概念になっている「市民社会」について、それがなぜ、またいかなる意味で用いられるに至ったのかを検討すること、またそれを通じて、政治学や社会学を中心とする現代の社会科学が何を問題にしており、そこにはいかなる社会的背景があるのか、といった点についての概観を得ることです。</p> <p>第二の目標は、市民社会の中核をなすいくつかの鍵概念(たとえば「結社(association)」、「コミュニティ(community)」、「コモンズ(common)」)について、歴史的・理論的にその意義を理解することです。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>市民社会概念をめぐる基礎的な論点を習得し、問題解決に活かすことができる。</p> <p>市民社会をめぐるどのような問題がこれまでに提起されてきたかを理解する。</p> <p>同時に、社会科学者としての基本的な発想や概念を習得し、社会科学の基礎を身につける。</p> <p>文献の精読を通じて、論理的文章の読解能力を身につける。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>担当教員による講義も随時取り入れますが、主として履修者による報告(担当箇所の要約とコメント)と議論により進行します。</p> <p>第一セッション 「市民社会」という概念が社会科学においてなぜ問題となるか、そこにはいかなる社会的・学問的背景があるか、検討します。</p> <p>第二セッション 現代の「市民社会」におけるいくつかの鍵概念を選び、それがなぜ重要なものとなるのか、理論的・歴史的・現代的観点のそれぞれから検討します。</p> <p>とくに第二セッションについては、扱う主題は受講者との相談で決定します。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>毎週一人報告担当者を決めます。</p> <p>報告者は文献の担当箇所の内容を正確に要約するとともに、疑問点や問題点、意見等を提起することが求められます。</p> <p>もちろん、報告者以外も該当箇所を精読して疑問点や意見を考えておくなど、前もって議論に備える必要があります。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>授業に対する参加度によって判定します(報告 50%、議論への貢献 50%)。なお学期中に文献報告担当を行うことが単位取得の条件となります(回数は履修者数によります)。学期末レポートは課しません。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	市民社会論: 理論と実証の最前線/坂本治也: 法律文化社, 2017		
講義指定図書 Reading List			

参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	メディア社会論演習[Media and Society]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	志柿 浩一郎 [SHIGAKI Koichiro] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083250
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	メディアスタディーズ、マスコミュニケーション、メディアと社会、公共放送、メディア・ガバナンス、デジタルメディア、比較メディア研究		
授業の目標 Course Objectives	<p>現代社会におけるメディアの役割と社会との関係について、先行研究に基づき理論的側面から理解し、今後メディアが社会で果たす役割はどうあるべきなのかを考察するための素養を身につける。主にマスメディアからデジタル・プラットフォームまで幅広いメディアを対象とし、政治・経済・文化などの文脈でメディアが果たす影響を深く理解する。</p> <p>大学院レベルの本演習では、先行研究や最新のオンライン資料を精読・分析し、ディスカッションを通じて批判的思考と研究能力を養う。後半では各自の研究テーマを設定し、報告・討議を行うことで修士論文や研究発表につながる基礎力を身につける。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. メディア研究における主要な理論や概念を大学院レベルで習得し、自身の研究に応用できる力を身につける。 2. メディアと社会の関係を、政治・文化・経済など多様な視点から批判的に分析できるようになる。 3. ディスカッションや報告のスキルを向上させ、論文執筆や学会発表につなげる能力を磨く。 4. 比較の視点(日本、アメリカ、中国など)を取り入れ、国際的かつ歴史的な文脈の中でメディアの位置づけを考察する。 5. 様々なツールを使い、自律的に情報を収集し、研究ができるようになる。 		
授業計画 Course Schedule	<p>※進度や受講生の興味に応じて適宜変更する場合があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 回テーマと内容 1 オリエンテーション: 授業概要と評価方法の説明、受講生の研究関心やバックグラウンドの共有、今学期の目標設定 2 メディア研究の基礎理論: マスコミュニケーション理論、メディア効果研究、批判的メディア研究などの主要理論を理解する。オンライン資料・学術論文の導入と活用方法 3 公共放送・公共メディアの社会的役割: 日本や欧米の公共放送事例と、その成立経緯・問題点。受講生が見つけたオンライン情報を参照しながら比較検討 4 メディアと権力: 権威主義体制下のメディアと情報コントロール、検閲やプロパガンダの歴史的背景、「同意の製造」理論、現代のデジタル検閲 5 メディア・ガバナンスと社会的責任: メディア所有構造、政治や企業スポンサーとの関係、自治と他律のバランス、報道倫理・フェイクニュース・ファクトチェック 6 デジタル時代のメディア変容: SNS やプラットフォームビジネスの台頭、フィルターバブルとエコーチェンバー、知識共有をめぐる現在の課題 		

7 比較メディア研究:日本・アメリカ・その他:各国のメディアシステム比較、制度面・歴史面の検討、社会構造との関連性をディスカッション
8 メディア文化研究:表象とアイデンティティ:ポピュラー文化・サブカルチャー・ファンダムに関する分析、マイノリティ表象やステレオタイプの検討、記号論と脱構築
9 受講生報告(1):研究テーマの設定:各自の研究テーマ・問題意識・仮説等を報告
10 ピアレビューと講評:前回の報告内容についてのピアレビューと全体討議
11 受講生報告(2):中間報告:分析対象(新聞アーカイブ、SNS データ、オンライン雑誌など)・方法論の進捗報告。課題点を全員で検討し、改善策を提案
12 理論と方法論の検討:演習を通して得た知見を、個々の研究にどう応用するか再確認。質的・量的手法の課題と対処法
13-14 受講生報告(3):最終報告:分析結果や考察のほぼ完成形を報告。コメントや疑問点を共有し、最終レポート執筆に向けてブラッシュアップ 15 総括・今後の展望:各研究テーマの成果を振り返り、全体講評。メディア研究の最新動向、次の研究ステップへのヒント
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>この科目用に準備したウェブサイト上(ELMS または担当教員が作成した簡易サイトを活用)にある各回のテーマごとの解説と関係資料に事前にアクセスし、理解しておく。また疑問点を整理しておく。この科目用に準備したポートフォリオ・サイトに、各回の感想と疑問点を記録する。</p> <p>一般に高等教育で認定される1単位は45時間の学習を前提としている。この科目は15回の授業で2単位が認定されるので、$45 \times 2 \div 15 = 6$ で、各回平均6時間の学習を前提とする。授業時間が1回1.5時間であるので、各回4.5時間の予習・復習が想定される。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>ポートフォリオ・サイトの記録内容:60%</p> <p>記録要項に準じているか、授業の内容を理解しているかの2点について評価する。</p> <p>記録要項に準じているか:10%</p> <p>授業の内容を理解しているか:20%</p> <p>毎回の議論やコメントへの積極性、報告(複数回)、簡単なレポートやリアクションペーパー:30%</p> <p>報告については、研究テーマの提案、中間報告、最終報告における内容の論理性、オリジナリティ、ディスカッションの深め方を評価する。</p> <p>最終レポートまたは研究計画書:40%</p> <p>研究問題や文献レビューの的確さ、分析の深さ、考察の独自性、大学院レベルの学術的基準を満たしているかを評価する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>教科書はない。デジタル技術や生成系 AI を活用した無料教材、担当教員が構築した授業専用簡易ウェブサイトを活用する。当該サイトや教材の内容は授業の進行と並行して、受講者の提案を取り入れながら随時更新していく。None. We will use freely available digital resources, materials leveraging generative AI tools, and a course website maintained by the instructor. Content will be updated throughout the semester based on student input</p>
<p>講義指定図書 Reading List とくになし</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p> <p>本科目用のウェブサイトを準備する。またポートフォリオサイトに関しては、北大の LMS などの活用も検討しているが、詳細は授業初回にて説明する。リンクに関してはシラバス掲載ではなく、初回授業までに準備する。</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>授業形式:議論を重視した双方向型です。積極的に参加し、共に学びを深めましょう。</p> <p>受講上の配慮:困難な場合は、事前にご相談ください。可能な限り対応いたします。</p> <p>持ち物:デジタル資料を扱うため、ノートパソコンまたはタブレットを必ず持参してください。</p> <p>学習ポートフォリオ:Notion または Moodle を用いて、学習内容を記録・振り返りを行います。詳細は初回授業で説明します。</p> <p>講義の目的:メディアとジャーナリズム研究の主要なテーマを扱い、大学院レベルの研究に必要な知識とスキルを習得します。現代のメディア環境における課題や可能性を考察し、自身の研究にも役立つ視点を養います。</p> <p>その他:教員の専門知識を一方的に伝えるものではありません。受講者それぞれが主体的に学び、修士論文の作成や研究発表へと繋げられるよう、サポートに重点を置いています。</p>

科目名 Course Title	政治参加論演習[Political Participation]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	渡部 聡子 [WATANABE Satoko] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083251
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	政治参加、市民社会、ボランティア、社会運動、民主主義、ドイツ		
授業の目標 Course Objectives	<p>本演習では、民主主義の基盤となる市民によるさまざまな政治参加の役割について考察する。政治参加というと、投票や選挙活動に目が向けられがちだが、ここではより広義に「政治参加」を捉える。たとえば地域社会や国際社会におけるボランティア活動は、問題の所在に気づく機会となり、その改善を促す行動とも結びつく。気候危機に警鐘を鳴らし、女性や LGBTQ の権利に取り組む社会運動も同様に、政治にかかわる多様な方法の一つである。</p> <p>政治参加の要件として、以下三つが挙げられる。第一に、政治について自由に意見を述べ、議論できる素地があること。第二に、政策決定とその過程について正確な情報が提供され、多様な立場や意見が可視化されていること。第三に、政治参加が社会に受容され、理解されていること。</p> <p>本演習ではこれらの要件を中心に、現代ドイツの政治参加に関する政策や教育実践について検討材料を提供し、民主主義を支える政治参加のあり方について議論する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>(1)民主主義における政治参加の役割について、基礎的な理論を踏まえて自らの言葉で説明できる。</p> <p>(2)講義から得た知識をもとに、受講者の研究対象を相対化し、その政治社会的な位置づけを提示できる。</p> <p>(3)上記(1)(2)を踏まえた事例研究をおこない、口頭発表と議論、期末レポートにおいて言語化できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p><第1セクション(第1回～第4回):政治参加の基礎理論></p> <p>政治参加と参加民主主義の基礎的な理論を概観する。文献の講読と議論を通じて理解を深める。</p> <p><第2セクション(第5回～第8回):民主主義における教育と批判性></p> <p>政治参加の礎となる市民教育と、多様な意見を可視化する社会運動について文献講読と議論をおこなう。</p> <p><第3セクション(第9回～第11回):政治参加の政治社会的受容></p> <p>ボランティアや政治参加を支える政策について解説し、政治参加が社会に受容される要件について議論する。</p> <p><第4セクション(第12回～第14回):プレゼンテーション></p> <p>受講者が研究対象について口頭発表をおこない、政治参加との関連から議論するとともに改善すべき点を検討する。</p> <p><総括(第15回)></p> <p>期末レポートを題材に、受講者相互および講師によるフィードバックを通じて総括議論をおこなう。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>講義前に指定する文献を通読し、論点を整理したうえで講義に臨むこと。積極的な発言と議論への貢献が求められる。</p> <p>口頭発表に際してはレジュメまたはパワーポイント資料を事前に準備する必要がある。期末には 4,000 字程度のレポートを課す。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>議論への積極的な発言を 40%、口頭発表を 30%、期末レポートを 30%として評価する。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			

講義指定図書 Reading List 権利としてのボランティアドイツ「参加政策」の挑戦／渡部 聡子:岩波書店, 2025
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	華語メディア論演習[Sinophone Media Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	許 仁碩 [HSU Jen-Shuo] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083252
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	エスニック・メディア、華語圏、ネットメディア、報道の自由、市民社会		
授業の目標 Course Objectives	<p>本授業では、「越境するエスニック・メディア」として「華語メディア」をテーマにする。主にいわゆる中国大陸以外の華語圏(台湾、香港、ミャンマー、マカオ、マレーシアなど)のメディアに対し、その政治変遷と技術革新がメディアにどのような影響を与えたのかについて考察し、そして「越境するジャーナリズム」の可能性を検討する。また、授業で学んだ各地域の知識を活かし、さらに越境するジャーナリストの仕事を理解するために、本授業では実際に特集の企画と原稿案の制作を行う。</p> <p>なお、本授業のもう一つ目標は履修者がメディア研究を通じて地域間、そしてメディア間の境界線を超えて、視野を広げることを目的としていますので、授業とテキストは全て日本語または英語です。中国語能力は必要ではない。多様な背景を持つ学生の履修は歓迎する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 華語メディアの歴史と現状を踏まえ、多角な視点から議論することができる 2. 技術と政治がメディアにもたらした影響を分析することができる 3. 自分の構想を特集または取材を通じて、読者に伝達することができる 		
授業計画 Course Schedule	<p>本授業は、序論の週、発表の週、ゲスト講師を招く週以外の週は、教員のレクチャーと受講生の議論によって構成される。前半は、教員がその回のテキストと参考文献を軸として、実際の事例を紹介しながら講義を行う。後半は、担当の受講生がテキストを踏まえて問題を提起し、全員で議論を行う。</p> <p>序論:越境する「華語メディア」とは</p> <p>従来のエスニック・メディアは、主流社会におけるマイノリティのメディアと認識されている。書き手も読み手も内部完結されており、マイノリティのアイデンティティを守る役割を果たした。しかし、インターネットの普及によって、すでにエスニック・メディアに秘められていた越境の可能性が解放されている。「華語」という同じ「書き言葉」で、新聞社の所在地または記者と読者の話し言葉が異なっても、「華語メディア」によるコミュニケーションが実現されている。また、多様な言語のため、一つの情報を複数メディア、言語で伝えるジャーナリズムも広い意味で「華語メディア」の特徴の一つと言える。特定な政治中心に一極集中するのではなく、実に多様で豊かな華語メディアの世界観を提示する。</p> <p>第一週:イントロダクション:「華語圏」とは？ 第二週:イントロダクション:「エスニック・メディア」とは？ 第三週:メディアの境界線を超えて:メディアミックスとジャーナリズム(ゲストスピーカー)</p> <p>第一セッション:政治改革とメディア:台湾と香港</p> <p>台湾は 80 年代の民主化とともにメディアの市場化が進んだ。そして、国際政治や社会運動、ナショナリズムの思惑によって、台湾メディアはいつも論争の渦中にある。一方、かつて「華語メディア」の中心地として期待された香港では、いまや報道の自由が危機に瀕している。これに対抗するため、近年の社会運動から新たに様々なメディアが生まれた。世界の震源地である台湾と香</p>		

港の政治とメディア事情を読み解ける。

- 第四週:台湾の民主化とメディア
- 第五週:台湾における市民社会とメディア
- 第六週:香港政治とメディア
- 第七週:香港ジャーナリズムの崩壊
- 第八週:香港メディアの現在地(ゲストスピーカー)

第二セクション:マイノリティーの声 :ミャンマーとマレーシア

東南アジアにおいても有数な華人人口を有するマレーシアは、アーティストが輩出しただけでなく、政権交代など政治変化とともに華語メディアの存在感も増えている。また、クーデター以降に世界の注目が集まっている多民族国家、ミャンマーについても、その政治情勢は華語圏のメディア事情と連動している。華語圏においても脚光を浴びることが少なかったマレーシアとミャンマーの事例をエスニック・メディアの観点によって捉え直し、華語メディアのネットワークに繋ぐ。

- 第九週:マレーシア政治とメディア
- 第十週:ミャンマー政治とメディア
- 第十一週:ミャンマー報道の現在地(ゲストスピーカー)

第三セクション:境界線を越えるジャーナリズム

調査報道の国際連帯、多文化主義の一環とされる先住民メディア、報道が原案になるノンフィクション漫画など、メディア業界において新たな試みは次々と生まれた。報道の危機と伝統メディアの衰退が目立つ時代とはいえ、情報を求めるニーズは変わらない。書き手/読み手、プロ/アマ、国内/海外、国語/外国語など様々な境界線が曖昧になりつつある時代こそ、次世代のメディアを作り出す時なのである。このセクションは華語メディアにおいて変革を求める事例を紹介し、メディアの将来像を探す。

- 第十二週:越境する調査報道:国際連帯
- 第十三週:多文化主義とエスニック・メディア
- 第十四週:期末発表
- 第十五週:期末発表

中間レポート:特集企画

この授業と関連するテーマを設定し、記事を選んで特集として 1000 字前後にまとめて提出する。記事は中国語、日本語、広東語または英語でも可能だが、企画書は日本語とする。企画内容は:

- 1.どのようなメディアでの特集か
- 2.特集のタイトル
- 3.特集と記事の概要
- 4.このテーマと記事を選んだ理由
- 5.この特集の読者
- 6.特集内の各記事はそれぞれどのような役割を果たすか
- 7.この特集によってどんな新しい観点を伝えるのか

期末レポート:原稿案

この授業と関連するテーマを選択し、取材の原稿案を発表する。その内容を 2000 字前後にまとめる。原稿案の内容は:

- 1.どのようなメディアに投稿する
- 2.テーマとタイトル
- 3.読者がこの記事を読む理由
- 4.このタイミングで書く理由
- 5.記事の持つ新たな角度、意義
- 6.具体的にどのような問題を検討するか
- 7.取材相手と方法

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

授業の前に、指定されたテキストをしっかりと読むことが求められる。また、担当する週ではテキストと参考文献を両方もしっかり読んだ上で、関連する論点と問題を発表すること。

成績評価の基準と方法 Grading System 1.担当の週の発表(20%) 2.授業での議論への参加(20%) 3.特集(30%) 4.原稿案(30%)
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks 参考文献や参照すべきテキストは、授業で適宜配布する。
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information 成績評価や文献、レポートの詳細は、第一週に説明する。ゲストスピーカーの都合によって、日程を変更する場合がある。 授業とテキストは全て日本語または英語です。

科目名 Course Title	政治コミュニケーション論演習[Political Communication]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	于 海春 [YU Haichun] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083253
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	マスメディア、ソーシャルメディア、量的テキスト分析、内容分析		
授業の目標 Course Objectives	<p>本演習では、修士論文および博士論文の作成に必要な実証分析の方法論を学びます。近年、インターネットを中心とするニューメディアの発展により、情報伝達のあり方が大きく変容しています。本授業では、政治と情報環境の変化・多様化を踏まえ、政治コミュニケーション研究における実証的な分析力の習得を目指します。特に、メディアデータの量的分析に焦点を当て、その基本的な手法と応用について解説します。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習の到達目標は、受講者がメディアデータを実証的に分析する手法を習得することです。特に、テキストデータの収集・整理・分析のスキルを身につけることを重視します。具体的な到達目標は以下の3点です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実証分析手法の基本概念とその特徴を理解する 2. メディアデータを適切に収集し、体系的かつ数量的に処理・分析できる 3. 政治コミュニケーション研究において、量的テキスト分析の手法を適用し、実証的な研究を展開できる 		
授業計画 Course Schedule	<p>導入編</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業全体のイントロダクション 2. メディア効果論 3. メディアと政治の関係 4. 権威主義体制とメディア <p>方法論編</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 内容分析の基礎 6. 量的テキスト分析の基礎 7. 量的テキスト分析最新の研究動向と課題 <p>実践編(Rを用いた分析演習)</p> <ol style="list-style-type: none"> 8. データ収集と前処理 9. Rの基本操作とデータの取り扱い 10. 形態素解析と単語の抽出 11. 頻度分析と単語の出現パターン 12. スケーリング 13. LDAトピックモデルによるトピックの抽出 <p>成果発表編</p> <ol style="list-style-type: none"> 14. 研究発表とフィードバック(1) 15. 研究発表とフィードバック(2) 		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>授業前には、指定された資料を読んで予習すること。 講義毎に宿題を出すので期限までに提出すること。</p>		

<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>(1) 平常点評価 (40%): 講義への参加状況、講義への貢献度、宿題をもとに評価する。</p> <p>(2) 期末課題 (60%): 講義終了時に短いレポートを提出してもらう。受講者が講義で学んだ量的テキスト分析の手法を活かして、各自で関心を持つテーマで分析を実行できているか、分析結果を適切に解釈できているかを中心に評価する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p> <p>内容分析の方法 / 有馬明恵: ナカニシヤ, 2021</p> <p>中国のメディア統制—地域間の「不均等な自由」を生む政治と市場 / 于海春: 勁草書房, 2023</p> <p>内容分析の進め方: メディア・メッセージを読み解く / ダニエル・リフ他、日野愛郎監訳: 勁草書房, 2018</p> <p>社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して / 樋口耕一: ナカニシヤ出版, 2014</p> <p>はじめての RStudio: エラーメッセージなんかこわくない / 浅野正彦・中村公亮: オーム社, 2018</p> <p>リーディングス政治コミュニケーション / 谷藤悦史・大石裕: 一藝社, 2022</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>講義の後半にパソコンによる実習という形式で進行します。実習ではフリーソフトの「R」を利用します。</p>

科目名 Course Title	ジャーナリズム事例演習[Case studies:Journalism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	読売新聞社 [YOMIURISHINBUNSHA] (国際広報メディア・観光学院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083254
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ジャーナリズム、調査報道、ジェンダー報道、教育問題、国際報道、データジャーナリズム		
授業の目標 Course Objectives	<p>読売新聞と提携して開講する計 5 回(3 コマ連続)の実践型集中講座である。ジャーナリズムの最前線で活躍する読売新聞の熟練ジャーナリストを講師に招き、毎回異なる問題をテーマに選び、受講者との間で双方向の対話を行う。ジャーナリズム概論、ジェンダー報道、教育問題報道、データジャーナリズム、中国などの国際報道を取り上げる。ジャーナリズムが果たして日本や世界が抱える問題を解決する道筋を提示しているか、いかに権力を監視し、政策決定にどう影響を与えるのか、国民視点に立っているのか、など多角的視点から理解することを目標とする。</p> <p>学院・研究科を問わず、ジャーナリズムの世界に入りたい方や関心がある方、メディアリテラシーを身につけたい方、メディア不信を強めている方にぜひ受講してほしい。</p> <p>国際広報メディア・観光学院のうち、公共ジャーナリズム論講座をはじめ国際広報メディア研究コースに所属する修士課程学生に履修を推奨する。ジャーナリストを目指す学部生の聴講も歓迎する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>(1) 講師・受講者間の双方向での対話の積み重ねと、講師が提出する実践的な課題への取り組みを通じ、ジャーナリズムが抱える問題点と可能性を説明できる。</p> <p>(2) ジャーナリズムはどのようにすればより活性化し、権力監視機能を果たし、市民に判断基準を提示した上で社会課題解決への国民的議論を起こせるかについて自身の見解を提示できる。</p> <p>(3) 演習で得られた知見を基に、メディアが発信するニュースへの洞察力を高め、ニュースの本質や背景まで読み取ることができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>計 5 回、すべて金曜日 3～5 講時の集中講座。日程・テーマ・講師は次の通り。</p> <p>①4 月 17 日「ジャーナリズム概論」安藤弘樹・読売新聞東京本社適正報道委員長</p> <p>②5 月 15 日「ジェンダー報道」小坂佳子・元読売新聞生活部長(一般社団法人・日本女性記者協会理事)</p> <p>③6 月 12 日「教育問題報道」石川純・読売新聞東京本社教育部次長</p> <p>④7 月 3 日「データジャーナリズムの現在」吉田典之・読売新聞東京本社編集委員囑託</p> <p>⑤7 月 24 日「国際報道の現場」吉田健一・読売新聞東京本社論説委員</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>日常的に新聞、雑誌などをよく読み、諸々のニュース、社会事象に関心を持つこと。授業中の質疑、討論に積極的に参加すること。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>コメントシート提出と授業への積極的な参加度(50%)および期末レポート(50%)に基づいて評価する。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			

毎回授業で講師が資料を提示する。

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

責任教員はメディア・コミュニケーション研究院・公共ジャーナリズム論分野・城山英巳。問い合わせは shiroyama@imc.hokudai.ac.jp まで

科目名 Course Title	調査報道事例演習[Case studies:Investigative Journalism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	読売新聞社 [YOMIURISHINBUNSHA] (国際広報メディア・観光学院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083255
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	調査報道、ジャーナリズム、AIとメディア、SNSと政治、記者教育、映像ドキュメンタリー		
授業の目標 Course Objectives	<p>読売新聞と提携して開講する計5回(3コマ連続)の実践型集中講座である。ジャーナリストがその事実を発掘しなければ、永遠に埋もれたままになってしまう調査報道はいかにしてつくられるかをテーマに、事例を基に毎回違った切り口で考察する。実際に調査報道に取り組んだベテランジャーナリストを講師に招き、受講者との間で双方向の対話を行い、ジャーナリズムにとって最も重要な調査報道の意義を理解し、その手法を習得することを目標とする。AIとメディア、SNSと政治についても学び、議論したい。映像ドキュメンタリーも取り上げる。</p> <p>学院・研究科を問わず、ジャーナリズムの世界に入りたい方や関心がある方、メディアリテラシーを身につけたい方、メディア不信を強めている方にぜひ受講してほしい。</p> <p>国際広報メディア・観光学院のうち、公共ジャーナリズム論講座をはじめ国際広報メディア研究コースに所属する修士課程学生に履修を推奨する。ジャーナリストを目指す学部生の聴講も歓迎する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>(1) 講師・受講者間の双方向での対話の積み重ねと、講師が提出する事例や課題を通じ、調査報道が持つ可能性と社会的意義を説明できる。</p> <p>(2) 埋もれた事実を掘り起こし、権力を監視し、社会課題の解決や改革を導く調査報道の手法について議論できる。</p> <p>(3) 調査報道の手法を自身の研究に参考あるいは応用できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>計5回、すべて金曜日3～5講時の集中講座。日程・テーマ・講師は次の通り。</p> <p>①10月9日「調査報道概論」渡辺晋・読売新聞東京本社社会部次長</p> <p>②10月30日「AIの現状と課題」三井誠・読売調査研究機構主任研究員</p> <p>③11月20日「SNSと政治」西山幸太郎・読売新聞東京本社社会部次長</p> <p>④12月11日「記者教育」稲葉洋文・読売新聞記者塾事務局長</p> <p>⑤1月15日「放送ジャーナリズムの現在」中内佑・札幌テレビ放送(STV)報道部デスク</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	日常的に新聞、雑誌などをよく読み、諸々のニュース、社会事象に関心を持つこと。授業中の質疑、討論に積極的に参加する		
成績評価の基準と方法 Grading System	コメントシート提出と授業への積極的な参加度(50%)および期末レポート(50%)に基づいて評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	毎回授業で講師が資料を提示する。		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	責任教員はメディア・コミュニケーション研究院・公共ジャーナリズム論分野・城山英巳: 問い合わせは shiroyama@imc.hokudai.ac.jp まで		

科目名 Course Title	中国メディア論演習[Chinese Media Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	城山 英巳 [SHIROYAMA Hidemi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083256
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	現代中国、メディア史、ジャーナリズム、調査報道、政治権力と大衆、社会改革運動		
授業の目標 Course Objectives	<p>権威主義と市場経済が並存する国家体制のなか、改革開放後の中国メディアは、国家(統制)、市場(商業化)、専門性(ジャーナリストとしての職業意識)、グローバル化(西側ジャーナリズムの影響)、技術革新(インターネット・SNSの普及)という5つの要因が複雑に相互作用しながら形作られてきた(Fen Lin2008)。今年度の中国メディア論演習では主に、このうち「専門性」という観点から、中国の「メディア人」(ジャーナリスト・調査報道記者)を取り上げ、他の4要因とのせめぎ合いや葛藤の中で、いかに中国独特のジャーナリズム機能を発揮してきたかを勉強したい。その際に①メディア史の観点から「変化した」「変化しない」双方の中国のメディア機能は何か②中国メディアは社会改革運動に発展しえたか—という視点も検討課題とする。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>①中国メディア史の観点から、現代中国の「政治権力と大衆」の歴史を理解できる。 ②政治経済体制とともに「変化した」「変化しない」中国のメディア機能について説明できる。 ③中国社会改革運動との関係について中国メディアを再検証することができる。 ④中国社会に影響を与えるメディア人(ジャーナリスト)の役割を議論できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>授業計画 Course Schedule</p> <p>【基本編】【演習編】から構成し、計15回の授業を行う</p> <p>【基本編】では担当教員がテーマごとに講義し、その後議論する。</p> <p>第1回(ガイダンス)「現代中国への視座」 第2回 中国メディア史①毛沢東時代 第3回 中国メディア史②改革開放 第4回 中国メディア史③調査報道黄金期 第5回 中国メディア史④統制期</p> <p>【演習編】は2部構成。第6回～15回</p> <p>①中国メディア論文報告…担当教員が初回授業のガイダンスで中国メディアに関する中国語・日本語・英語の学術論文を指定するので、受講者は一つを選択。担当を決め、概要と論点をレジュメにまとめて発表する。 ②課題テキスト報告…アラン・P・L・リュウ、慶應義塾大学新聞研究所訳『中国の政治とコミュニケーション』(慶應通信、1976年)を、担当を決めて輪読。中国共産党体制下のメディアの原点を読み解く。</p> <p>※中国メディアに関する外部ゲストを呼んで講義を行うことも調整中。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>受講者には中国メディア論文と課題テキストの報告を行ってもらう。毎回、短いコメントシートを提出してもらう。報告担当以外の受講者も授業当日に読む各論文・課題テキストに目を通すこと。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>授業での積極的な発言(30%)、コメントシート(30%)、報告(40%)</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	言語習得論演習 I [Language Acquisition I]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小西 隆之 [KONISHI Takayuki] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083257
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6322		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 言語コミュニケーション専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	2 日本語及び英語のバイリンガル授業、受講者決定後に使用言語(日本語又は英語)を決定する授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	実験言語学、コーパス言語学、言語データ、言語アンケート、定量的分析		
授業の目標 Course Objectives	<p>先行研究における定量的分析のデザインを批判的に考察することにより、言語実験、コーパス分析、言語アンケートなど、第一言語習得および第二言語習得諸分野で用いられる分析手法に関する理解を深める。特に分析における要因のコントロールについて重点的に学ぶことにより、各々の分析デザインの限界点を踏まえ、批判に耐えうる定量的分析を行う能力を養う。分析デザインの限界点の例として、実験言語学的分析は要因のコントロールのため多少不自然なテスト文等を用いる場合があり、コーパス分析はランダム要因やノイズの影響をデータサイズで補っている。また、グループ間比較 (between-subject designs) においては個人差の影響を考慮する必要があり、一方で群内の反復測定 (repeated-measures designs) は個人差の影響を排除できるものの順序効果を免れない。このような先行研究の分析デザインの批判的考察に基づき、履修者各々が期末課題として専門分野の定量的分析を実施し、そのデザインと分析結果に関するプレゼンテーションを行う。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本科目の到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 言語習得分野の先行研究における定量的分析を批判的に考察できるようになる 2. 第一言語習得、第二言語習得分野における基礎的な統計分析を理解する 3. 自身の専門分野における定量的分析をデザインし、実施することができるようになる 		
授業計画 Course Schedule	<p>第1週: 導入 第2週: 第一言語習得、第二言語習得分野における量的分析について 第3-4週: 先行研究に関するプレゼンテーション (第二言語習得分野) 第5-6週: 先行研究に関するプレゼンテーション (第一言語習得分野) 第7-8週: 先行研究に関するプレゼンテーション (外国語教育分野) 第9-12週: データ取得および分析 第13-14週: 最終課題のプレゼンテーション 第15週: まとめ (受講者数に応じて変更が生じる可能性がある)</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	各プレゼンテーション(下記「成績評価と基準と方法」参照)の準備や基礎統計に関する課題などを自宅学習とする。		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>先行研究に関するプレゼンテーション (20% x 2 = 40%; 第3-8週): 履修者各々が先行研究を選び、そのデザインと分析を批判的に考察するプレゼンテーションを2回行う 最終課題 (40%; 第13-14週): 履修者各々が自身の専門分野における定量的分析を行い、特にそのデザインと分析に関するプレゼンテーションを行う 授業内課題および準備学習 (20%)</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements	責任教員との面談により個別に履修を許可する		
テキスト・教科書 Textbooks			

講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information ラップトップコンピューターを持参すること (OS は問わない)

科目名 Course Title	言語習得論演習Ⅱ [Language Acquisition Ⅱ]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	宮内 拓也 [MIYAUCHI Takuya] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083258
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6320		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 言語コミュニケーション専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	統語論, 意味論, 対照言語学, ロシア語		
授業の目標 Course Objectives	<p>この授業では、文や句はどのような構造になっているのか(どのように構築されるのか)、構造と意味はどのような関係にあるのかといった問題の一部を文献の購読と参加者間での議論を通じて学ぶ。その際、具体的に複数の言語を比較対照することで、何があらゆる言語に共通で、何が個別言語ごとに異なるのかという点に特に着目し、統語理論、意味理論が可能にする類型論的な視点から言語間の同異を捉えることを目標とする。加えて、それを通じて、論文を批判的に読む、調査・分析結果を他者に分かるように伝える、他者の調査・分析に対して建設的な質問やコメントをするといったより一般的な以下の技術の向上も同時に目標とする。</p> <p>なお、授業は日本語で行われ、英語の論文を講読するため、これらの言語の一定の運用能力が求められる。論文ではロシア語、ペルシア語、ドイツ語、トルコ語、タイ語、ノルウェー語、グリーンランド語といった様々な言語の例が扱われ、教員からの事例の提示はロシア語を中心としたスラヴ系の言語が多くなるが、履修にあたりそれらの言語の学習は必要としない。授業内では議論の時間が多くとられているため、積極的に授業に参加することが期待される。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>到達目標として、履修学生は以下の能力を身に着けることが期待される:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文や句を構築するメカニズムおよび構造と意味との対応に関する基礎的な概念を説明できる 2) 複数の言語を比較対照して言語間の同異について具体的に分析できる 		
授業計画 Course Schedule	<p>学期前半には統語理論の解説書を購読し、参加者の間で議論を行う。学期の後半では言語学のレビュー論文を収録する雑誌である Language and Linguistics Compass より選択されたスクランプリング(かき混ぜ)と数の中立性についての論文を購読し、議論を行う。</p> <p>最終的に、履修学生は各自の興味関心に応じて授業で扱った任意の現象について、任意の言語を複数取り上げてその同異について議論した最終レポートを作成する。レポートの草稿は第13回の授業後に提出する。それに基づき、第14回、第15回の授業時に最終報告会を行う。報告者は自身の調査・分析結果を分かりやすく発表できるように、ハンドアウトの作成も含めて、入念に準備する必要がある。各自報告の際に得られた教員や他の履修学生から質問、およびコメントを踏まえて最終レポートを作成することとする。</p> <p>具体的な授業の予定は以下のとおりである:</p> <p>第1回: ガイダンス 第2回: 購読と議論(統語理論について1; Bailyn 2012) 第3回: 購読と議論(統語理論について2; Bailyn 2012) 第4回: 購読と議論(統語理論について3; Bailyn 2012) 第5回: 購読と議論(統語理論について4; Bailyn 2012) 第6回: 購読と議論(統語理論について5; Bailyn 2012) 第7回: 購読と議論(統語理論について6; Bailyn 2012) 第8回: 購読と議論(スクランプリングについて1; Karimi 2008) 第9回: 購読と議論(スクランプリングについて2; Karimi 2008) 第10回: 購読と議論(スクランプリングについて3; Karimi 2008) 第11回: 購読と議論(数の中立性について1; Görgülü 2018)</p>		

<p>第 12 回:購読と議論(数の中立性について 2; Görgülü 2018)</p> <p>第 13 回:購読と議論(数の中立性について 3; Görgülü 2018)【レポート草稿提出日】</p> <p>第 14 回:最終報告会 1</p> <p>第 15 回:最終報告会 2</p> <p>なお, 学生の学習状況や興味関心によっては, 上記予定は変更の可能性がある。また, 詳細は初回の授業で説明する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>履修学生は, 毎回の授業前に以下の学習が必要となる:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文献に目を通し, 疑問点を整理しておくこと ・文献で扱われている現象や提案に対するコメントを用意し, 議論の準備をすること ・文献で扱われている現象が自身の母語や研究する言語ではどうなっているのか検討し, データを準備しておくこと <p>授業時間と準備学習等を合わせて学期を通して 90 時間程度の学習時間となることを想定している。なお, 詳細は初回の授業で説明する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>以下の割合で評価する:</p> <p>授業内での議論への貢献度 30%</p> <p>最終レポート 70%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>The Syntax of Russian / John Frederick Bailyn: Cambridge University Press, 2012</p> <p>上記の教科書に加えて以下の各文献を講読する予定である(Each of the following articles will be scheduled to be read in addition to the above-mentioned textbook): Karimi, Simin. 2008. Scrambling. Language and Linguistics Compass 2 (6): 1271--1293. / Görgülü, Emrah. 2018. Nominals and number neutrality in languages. Language and Linguistics Compass 12 (10): e12301.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p> <p>授業で扱う文献以外の参考文献は, 必要に応じて授業内で案内する。(References other than articles to be read in class will be provided in class as necessary.)</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>第 1 回目の授業に参加した上で履修するか否かを決めるつもりの学生は事前に教員に連絡を取ること。なお, 履修することが(ほぼ)確定している場合にはその限りではない。</p>

科目名 Course Title	多言語相関論演習[Cross-linguistic Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	原 由理枝 [HARA Yurie] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083259
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6322		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 言語コミュニケーション専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	2 日本語及び英語のバイリンガル授業、受講者決定後に使用言語(日本語又は英語)を決定する授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words			
形式意味論、構成意味論、感情表現、規約の含意、助詞、イントネーション			
授業の目標 Course Objectives			
本講義では、規約の含意の意味分析に焦点を当てる。ポールグライスが会話の含意と規約の含意を定義・分類して以来、規約の含意についての形式的な分析は、ほとんど研究されていなかった。しかし、最近のクリストファーポッツの研究は、規約の含意の範疇を再定義し、形式的、構成的な意味論を、感情表現等に与えている。本講義では、この理論を英語以外の二次的意味を生じる語彙に応用することを目的とする。			
到達目標 Course Goals			
本講義では、学生の言語理論の知識を構築し、意味論の様々な問題を検討することで、学生の研究能力を発展させることを目的とする。特に以下の点に留意する:(i) 構成意味論の諸問題と方法論の学習 (ii) 先行文献の批評 (iii) 反証可能な仮説の構築 (iv) アカデミックライティング			
授業計画 Course Schedule			
第 1&2 回: Redefining Conventional Implicatures 第 3-6 回: Compositional Semantics 第 7 回: Quiz 1 第 8-10 回: Formal Language for Conventional Implicatures 第 11-12 回: Semantic Computation of Expressives 第 13-14 回: Student Presentations 第 15 回: Quiz 2			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
各授業では、シンプルな理解問題・練習問題からなる宿題が課される。テスト問題は、この宿題を基に作られるので、テストの準備のために、宿題を復習することが肝要である。			
成績評価の基準と方法 Grading System			
参加及び準備: 25% テスト 1: 25% テスト 2: 25% 学生プロジェクト: 25%			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
The Logic of Conventional Implicatures. / Potts, Christopher: PhD thesis, UC Santa Cruz., 2003 Logic For Linguists. Lecture materials given at LSA Institute 2007, Stanford, July 1-3. / Potts, Christopher: UMass Amherst, 2007 ※以下からダウンロード可能(Available at the following): http://www.stanford.edu/~cgpotts/dissertation/potts-dissertation-1up.pdf http://www.christopherpotts.net/ling/teaching/lsa108P/materials/potts-lsa07-logic4ling-print.pdf			
講義指定図書 Reading List			

参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	言語情報処理論演習[Language Processing]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	阿部 真 [ABE Makoto] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083260
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6322		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 言語コミュニケーション専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	2 日本語及び英語のバイリンガル授業、受講者決定後に使用言語(日本語又は英語)を決定する授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	第二言語習得、テクノロジーと言語学習、リフレクティブ・プラクティス、教材開発、オートエスノグラフィー		
授業の目標 Course Objectives	第二言語習得の理論と実証研究を概観し、その成果と知見と自身の言語学習者や教授者の経験との結びつきを内省し、教授法と教材を開発・改善・評価する方法を学ぶ。		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第二言語習得理論の知見を批判的に捉え、自身の経験や立場性も踏まえ教授法と教材を開発するスキルを獲得すること 2. 自身の言語学習・教授についての内省、オートエスノグラフィーの方法を学ぶこと。 3. 1,2を達成するためのテクノロジーの役割に自覚的になることができること 		
授業計画 Course Schedule	初週にガイダンスを行う。その後、教科書に沿って、10個の第二言語習得分野のテーマについて学ぶ、第8週目と最終週は発表週とする。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	一週につき、学術本の1、2章程度の長さの文章を読む必要がある。何回かファシリテーターとして、読みの課題範囲についてまとめ、ディスカッションをオーガナイズする。		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業への参加(プレリーディングのまとめ、ディスカッションのオーガナイズ、ディスカッションへの参加):40% 発表2回:30% 最終レポート:30%(2月初旬締め切り)		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements	日本語の学術書・学術論文を読める必要がある。発表は日本語・英語両方可とする。		
テキスト・教科書 Textbooks	あたらしい第二言語習得論: 英語指導の思い込みを変える/鈴木 祐一: 研究社, 2024		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	比較日本語論演習[Contrastive Studies of Japanese and Other Languages]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	鄭 惠先 [JUNG Hyeseon] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083262
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6320		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 言語コミュニケーション専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	対照言語研究 日本語の構造 文法 音韻 語彙		
授業の目標 Course Objectives	本演習では、対照言語学の視点にもとづき、日本語を様々な側面から再考察する。本演習では、韓国語をはじめとする諸外国語と日本語を対照することで、日本語の一般性と特殊性を理解し、日本語教育に役立つ言語分析力を養う。		
到達目標 Course Goals	(1) 日本語が持っている普遍的な言語要素と特徴的な言語要素に気づくことができる。 (2) 対照言語学に関する基礎的な知識をもとにした研究手法を駆使することができる。		
授業計画 Course Schedule	第1週目: ガイダンス ＜対照研究の概要とブレインストーミング＞ 第2/3 週目: 対照研究の視点から日本語学習者の誤用を考える 第4/5 週目: 「言語の対照研究」の役割と意義 第6/7週目: 日韓対照言語学 ＜論文の講読と討論＞ 第8/9 週目: 対照研究と日本語の文法 第10/11 週目: 対照研究と日本語の音声 第12/13 週目: 対照研究と語用論研究 第14 週目: 対照研究と日本語教育 第15 週目: まとめ		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	(1) 全受講者は、事前に配付資料を読んで予習を行い、内容に関連する意見を Google Classroom に投稿する。 (2) 発表担当者は、事前にレジュメを用意し、各テーマや論文の内容に関する問題提起を行う。		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業参加度(討論、質疑応答、投稿) 40% 課題発表(レジュメ、問題提起) 40% 最終レポート 20%		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	必要な資料は授業で配布します。		
講義指定図書 Reading List	日本語と外国語との対照研究Ⅹ 対照研究と日本語教育/国立国語研究所:くろしお出版, 2002 日本語教師のための対照研究入門(日本語教育ブックレット3)/井上優:国立国語研究所, 2003 シリーズ言語科学4 対照言語学/生越直樹:東京大学出版会, 2002 ヴォイスの対照研究—東アジア諸語からの視点/生越直樹・木村英樹・鷲尾龍一(編著):くろしお出版, 2008 世界の言語と日本語 : 言語類型論から見た日本語 改訂版/角田太作:くろしお出版, 2009		
参照ホームページ Websites			

https://www2.ninjal.ac.jp/past-publications/publication/catalogue/nihongo_kyouiku_booklet/index.html

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

この授業では Google Classroom を使います。

科目名 Course Title	日本語伝達論演習[Instructional Design]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	野澤 俊介 [NOZAWA Shunsuke] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083263
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6322		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 言語コミュニケーション専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	2 日本語及び英語のバイリンガル授業、受講者決定後に使用言語(日本語又は英語)を決定する授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	言語人類学、社会記号論、指標性、コミュニケーションのエスノグラフィ、言語イデオロギー		
授業の目標 Course Objectives	<p>この演習では、言語人類学・社会記号論における基本概念を参照することで、「言語」と「文化」のインターフェイスについての理解を深めることを主な目的とする。課題図書には日本語文化圏における言語実践を取り扱うものを中心に、その他の言語・文化的文脈に関する論考も参照する(英語文献を含む)。また履修者からも図書や資料を募る可能性がある。</p> <p>とくに「指標性」や「言語イデオロギー」などの概念を動員し、権力関係や制度的規範、アイデンティティ形成、社会技術的条件などが「コミュニケーションの出来事」の中で・を通して顕在化する過程を多角的に考察する。履修者は言語人類学的な考え方や方法論的意義を自らの研究プロジェクトに具体的に接続させる方法を検討する。</p> <p>また、この演習は表向きは言語・コミュニケーション研究に位置づけられるが、芸術、歴史、宗教、法、テクノロジー、経済などに興味のある学生の参加も大いに歓迎する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習履修後、履修者は次のことができるようになることを目指す：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 言語人類学・社会記号論の基本概念を理解し、具体的に使用できる 2) 言語・コミュニケーション研究における方法論的問題を見極めることができる 3) 言語人類学的知見を自らの研究プロジェクトに援用することができる 		
授業計画 Course Schedule	<p>*変更の可能性</p> <p>I:(事例)色々な事例研究を読んでみる II:(理論)事例研究で使われている分析概念や方法に焦点をあてる III:(応用)授業内で得られた知見をもとに、自分の研究領域で分析を試みる</p> <p>[1] 導入; 自己紹介;「出来事」を研究することについて [2] パースの記号哲学、とくに指標性について; 社会記号論の考え方 [3] 言語人類学はどのような学問か; ヤコブソン+パース [4] 言語コミュニティ、語用コミュニティ [5] 言語イデオロギー [6] 標準化、国民国家、「国語」 [7] レジスター [8] 「方言」(とメタ語用的に呼ばれるもの) [9] 「翻訳」(とメタ語用的に呼ばれるもの) [10] 「言語」(とメタ語用的に呼ばれるもの)(1)</p>		

<p>[11] 「言語」(とメタ語用的に呼ばれるもの)(2)</p> <p>[12] 「会話」(とメタ語用的に呼ばれるもの)(1)</p> <p>[13] 「会話」(とメタ語用的に呼ばれるもの)(2)</p> <p>[14] 研究発表</p> <p>[15] まとめ</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>*変更の可能性</p> <p>指定週の授業前に課題文献を読み、授業中とりあげたい項目・議題や文献についてのコメントを含むレポートの提出が毎回求められる(400字/200 words)</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>*変更の可能性</p> <p>以下の4項目により、到達目標の達成度を評価する</p> <p>課題図書レポートの質:30点 ディスカッション貢献度:30点 研究発表:10点 最終課題:30点</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p> <p>https://www.marxists.org/reference/subject/philosophy/works/us/peirce2.htm</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>「授業計画」、「準備学習」および「成績評価」は変更の可能性あり。この授業は対面で行うが、状況によって適宜オンライン対応も検討する。</p>

科目名 Course Title	日本語教育論演習[Japanese Language Pedagogy]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	近藤 弘 [KONDO Hiromu] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083264
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6320		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 言語コミュニケーション専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	日本語教育研究、理論立ち上げ型の研究、ナラティブアプローチ、インタビュー調査、語りの分析		
授業の目標 Course Objectives	<p>現在海外では 3,794,714 人の人々が様々な動機から日本語を学んでいます(国際交流基金、2023)。また、日本国内でも外国人生活者の増加により、日本語教育のニーズが高まっています。このような日本語教育の多様化を背景に、2000 年代以降、日本語教育研究では国内外の日本語教育現場(学習者、教師、コミュニティなど)の独自性に着目した質的調査・研究が盛んに行われるようになりました。</p> <p>本授業では日本語教育研究としての質的調査・研究の中でも、主に語りを分析対象とするナラティブアプローチを中心に扱います。本授業の目標は様々なナラティブアプローチの理念や分析方法について学び、実際に履修者がインタビュー調査や語りの分析ができるようになることです。この目標を達成するため、本授業で履修者は、興味・関心のあるナラティブアプローチの文献や論文を購読したり、実際にインタビュー調査を行い、語りのデータを分析し、発表したりします。履修者がナラティブアプローチにより日本語教育研究の課題にアプローチできるようになることを目指します。</p> <p>本授業では履修者間でディスカッションする機会を多く設けます。そのため、履修者には研究者としての立場の違いを尊重し合う姿勢、建設的なディスカッションを行う姿勢、そして、他者と学び合う姿勢で授業に臨むことが求められます。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>(1) 日本語教育研究におけるナラティブアプローチの位置づけについて説明することができる</p> <p>(2) ナラティブアプローチの種類とそれぞれの特徴について理解上で、興味・関心があるテーマに取り組むために適切な研究方法を選択することができる。</p> <p>(3) 学術的調査としてインタビュー調査を行うことができる</p> <p>(4) インタビューで得られたデータを文字化し、分析することができる</p> <p>(5) 分析結果をわかりやすく他者に伝えることができる</p> <p>(6) 建設的なコメントを交換することで、分析を深め合うことができる</p> <p>(7) 研究結果の考察を通して日本語教育研究に貢献する知見を示すことができる</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1 セクション 日本語教育研究について(第1回～第5回)</p> <p>以下の項目についての担当者による講義、参加者のディスカッション、授業要約等の活動が中心のセクションである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス ・日本語教育研究とは何か ・実証主義と構成主義 ・量的調査と質的調査 ・フィールドワークとナラティブアプローチ ・日本語教育研究におけるナラティブアプローチ <p>第2 セクション 文献購読(第6～10回)</p> <p>主に基礎的な文献や研究論文の購読を行うセクションである。目標は以下の2点である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナラティブを対象とした研究・分析方法の種類と特徴について理解を深める。 ・日本語教育研究におけるナラティブアプローチの役割について理解を深める。 		

<p>第3 セクション インタビュー調査と分析の実践(第11回~15回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2 セクションで扱った方法の中から各自が用いる研究・分析方法を選択する。 ・それぞれが興味・関心を持つテーマについてインタビュー調査を行う。 ・インタビューで得られたデータを文字化・分析する。 ・調査・分析を行った成果を発表する。 ・ディスカッションを通して分析を深め合う。
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>受講者は授業計画に沿って以下の課題に取り組む。</p> <p>第1 セクション: 講義に関連する文献を読む、振り返りを提出する</p> <p>第2 セクション: 文献を選択する・見つける。文献を読み、その内容の説明とディスカッションの観点を示す資料を作成する。</p> <p>第3 セクション: 実際にインタビュー調査を行う、データを分析する、発表資料・スライドを作成する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>授業参加度(討論、質疑応答、準備学習、授業要約等) 30%</p> <p>文献調査報告 10%</p> <p>調査と分析 20%</p> <p>発表 30%</p> <p>レポート 10%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p> <p>教員が作ったハンドアウトを配付する。</p> <p>Handouts will be delivered in each class when needed.</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	ジェンダー社会文化論演習[Gender, Society and Culture]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	原田 真見 [HARADA Mami] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083266
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6330		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 メディア文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ジェンダー、リプロダクティブ・ジャスティス、フェミニズム、インターセクショナルリティ		
授業の目標 Course Objectives	人種・階級・ジェンダー・セクシュアリティ・年齢等、「さまざまな要素の交差する権力関係と社会的立場の複雑性を捉える概念」であるインターセクショナルリティを理解し、ジェンダーに関わる問題について各受講者なりの考えを深めることを目標とする。		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・インターセクショナルリティの概念を理解し、フェミニズムに関わる問題を客観的に考える視点を持てるようになる ・文献を批判的に読み、自分の意見を分かりやすく説明・論述できる 		
授業計画 Course Schedule	<p>複数の権力構造が絡み合う(現代)社会において、ジェンダーの問題を考えるには、ジェンダーのみならず人種・階級・国籍・セクシュアリティ・障がい等に関わる複数の不正義の交差に目を向ける必要がある。インターセクショナルリティ(交差性)の視点からジェンダーの問題を見直す試みとして今年度はリプロダクティブ・ジャスティスに焦点を当て、この概念成立の歴史や現代的な意味を学ぶ。主要テキストはアメリカ社会の状況に特化しているが、受講生には自分の属するコミュニティに引き付けながら読み、ディスカッションに参加することが求められる。</p> <p>第1セッション(イントロダクション):フェミニズムの系譜・フェミニズムの視座 導入として、フェミニズムの系譜と、何が問題とされてきたのかについて簡単に確認しておく。また、各受講者が興味を持っているジェンダーやフェミニズムに関わる事象・テーマについて意見交換を行う。</p> <p>第2セッション:「インターセクショナルリティ」を学ぶ パトリシア・ヒル・コリンズ、スルマ・ビルゲ 著『インターセクショナルリティ』(2020=2021年)から1、2章を選び、批判的枠組みとしてのインターセクショナルリティを学ぶ。2、3回に分けて輪読・議論する。</p> <p>第3セッション:リプロダクティブ・ジャスティス ロレッタ・ロス、リッキー・ソリンジャー 著『リプロダクティブ・ジャスティス—交差性から読み解く性と生殖・再生産の歴史』(2017=2025年)(邦訳版)を読み、性と生殖、権利と正義、(母)親になること、女性の身体、妊娠と権力等のテーマについて考えを深める。全体を6、7回程度に分けて輪読・議論する。</p> <p>*第2・第3セッションでの各回発表担当者はハンドアウトを準備した上で論文の要点を発表し、ディスカッションをリードする。各自、学期中2回程度の発表担当の予定。</p> <p>第4セッション:自由テーマ発表 各自、第1～3セッションでの学びを踏まえつつ、自分の身の回りにあるジェンダーやインターセクショナルリティに関わる問題について口頭発表を行う。</p>		

<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>毎回指定の文献を読み問題点をまとめた上で、積極的にディスカッションに参加することが求められる。第4セクションの自由テーマ発表の他、学期中に2回は文献の内容をレジュメにまとめ授業内で発表する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>授業への参加貢献度(レジュメ発表・ディスカッションへの参加)50%、第4セクションでの発表・(発表に基づく)期末レポート50%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>リプロダクティブ・ジャスティス—交差性から読み解く性と生殖・再生産の歴史／ロレッタ・ロス、リッキー・ソリンジャー:人文書院, 2025</p> <p>インターセクショナルリティ／パトリシア・ヒル・コリンズ:人文書院, 2021</p> <p>資料は必要に応じて配布する To be provided as handouts</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	芸術社会論演習[Art and Society]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	増田 哲子 [MASUDA Noriko] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083267
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6330		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 メディア文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	視覚文化、映像、画像、イメージ、メディア		
授業の目標 Course Objectives	この授業の目標は、視覚的な素材(写真、絵画、映画、アニメーション等)を分析し、研究するための基礎的な論点と方法論を把握することです。何かを見る(あるいは、見ない)という行為は、社会的な行為であり、意味を生成・伝達したり、何かの行為を喚起したりと多様な効果を生み出します。授業では、視覚文化研究の基礎的なテキストを読みながら、現代社会において視覚文化がどのように成立しているのか、どのような社会的問題や学問的論点と結びつくのかを検討していきます。		
到達目標 Course Goals	視覚文化研究における基本的な論点やキーワードを知り、現代社会における様々な視覚的素材について、批判的に考察することができる。 テキストで学んだテーマを踏まえて、自分なりに関連する事例や作品を見つけ、授業内でのディスカッションのための論点を提供することができる。 専門的なテキストを精読し、適切に意味を把握したうえで、プレゼンテーションにまとめる力をつける。		
授業計画 Course Schedule	文献の情報と授業で扱うテキストとテーマは、以下を予定しています。 Marita Sturken & Lisa Cartwright, Practices of looking: an introduction to visual culture, 3rd ed., Oxford University Press, 2018. Chap. 1. Images, Power, and Politics Chap. 2. Viewers Make Meaning Chap. 3. Modernity: Spectatorship, the Gaze, and Power Chap. 6. Media in Everyday Life 佐々木健一『論文ゼミナール』東京大学出版会, 2014.		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	毎回、指定の部分を読み、ディスカッションに参加する。発表担当者は、内容をまとめたレジュメを作成して、発表する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業への参加態度 30%、発表 40%、期末レポート 30%で評価する。毎回、指定の部分を読み、ディスカッションに参加する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	Practices of looking: an introduction to visual culture, 3rd ed./Marita Sturken & Lisa Cartwright:Oxford University Press, 2018 『論文ゼミナール』/佐々木健一:東京大学出版会, 2014		

なお、テキストの入手方法については初回の授業で指示します。

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

科目名 Course Title	イメージ論演習[Image Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	丁 乙 [DING Yi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083268
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6330		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 メディア文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	イメージ、美学、芸術、感性、東洋		
授業の目標 Course Objectives	「イメージ」の内実について、美学という視点から捉えてみる。つまり、「美」「芸術」「感性」(美学の三大キーワード)の問題に焦点を当ててイメージのあり方を考え直す。近現代以降の理論は西洋由来のものが多いが、本演習では、これら理論に対する東洋の批判的応答をも主題化する。		
到達目標 Course Goals	「イメージ」について様々な文脈において幅広く考え、その内実を捉え直し、更なる議論を学術的に展開できる。学術論文の論点を適切に捉え、自分の言葉で学術的プレゼンテーションや議論を行うことができる。		
授業計画 Course Schedule	以下の文献を中心に読解を行う。 ・テリー・イーグルトン著、大橋洋一訳『文学とは何か——現代批評理論への招待』(上) (岩波文庫、2014) 現代メディア論において自明の前提として用いられてきた現象学、解釈学、受容理論、構造主義、記号論などの理論について、具体的に検討していく。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	毎回指定された箇所を熟読した上で授業に臨むこと。発表者は指定箇所の内容について発表の用意をすること。具体的な発表の仕方については初回の講義で説明を行なう。		
成績評価の基準と方法 Grading System	プレゼンテーションや授業での発言等を含む授業参加度(70%)、期末のレポート(30%)を総合して評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	『文学とは何か 現代批評理論への招待』(上) / テリー・イーグルトン著、大橋洋一訳: 岩波文庫, 2014		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites	https://www.iwanami.co.jp/book/b248511.html		
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	The Body and Gender[The Body and Gender]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	クック エマ [Emma Cook] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083269
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6331		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 メディア文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
Body, Gender, Sexuality, Japan			
授業の目標 Course Objectives			
The purpose of this course is to give a theoretical and empirical overview of gender, the body, sexuality and society, mainly in contemporary Japan. We will consider "body" and "gender" as historical and cultural categories and ask: "What is the body?" "What is gender?" "What is sexuality?" "How does 'culture' shape bodies and gender? We will explore a variety of ethnographic and theoretical materials on how gender, sexuality and the body has been culturally constructed and experienced in the socio-historical context of postwar Japan.			
Please note that an advanced level of English reading, writing and speaking skills are needed to take this course.			
到達目標 Course Goals			
To learn an advanced understanding of theories of the body, gender and sexuality, with a focus on the Japanese context			
授業計画 Course Schedule			
<ol style="list-style-type: none"> 1. Introductions 2. Gender Theories: Nature-Culture Debates 3. Japanese Feminism(s) 4. Gender and Bodies in Reproduction and Technology 5. Gender Commodification and Women's Bodies 6. Masculinities and Men in Japan 7. Power, Resistance and Gender 8. Gender Commodification and Men's Bodies 9. Review Essay 10. Queer Theory 11. Sexualities and Sexual Rights in Japan 12. Gender, Sex and the Body 13. Queer Japan 14. Student Presentations 15. Student Presentations 			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
Please note that this is a reading intensive course. Students are expected to read approximately 40 pages before each class in English and to engage in active discussion during class.			
An advanced level of English reading, writing and speaking skills are consequently needed to take this course.			
成績評価の基準と方法 Grading System			
20% Discussion Questions			
20% Discussion Lead			
30% Essay			

30% Presentation
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information An advanced level of English reading, writing and speaking skills are needed to take this course. Please note that the syllabus is subject to change.

科目名 Course Title	文化実践論演習[Cultural Practice Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	葛西 周 [KASAI Amane] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083270
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6330		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 メディア文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	文化実践／パフォーマンス		
授業の目標 Course Objectives	文化を固定的な対象としてではなく、社会的・歴史的条件のもとで遂行される実践として捉える理論的視座を養う。カルチュラル・スタディーズ、ポストコロナリズム、パフォーマンス研究、メディア論などの理論を横断的に参照しながら、文化実践がいかに関生成・媒介・経験され、政治性を帯びるのかを検討する。		
到達目標 Course Goals	1. 文化実践を考察する上で重要な概念とその文脈について説明できるようになる。 2. 抽象的理論を具体的な文化事象に接続し、分析の視点として運用できるようになる。 3. 理論的系譜を踏まえ、自身の問題意識を位置づけ言語化できるようになる。		
授業計画 Course Schedule	<p>第1段階 イントロダクション～議論の基盤形成 受講生の関心や理論的基礎の習熟度を踏まえ、キーワードとその文脈を確認しつつ導入的な文献を輪読することで、議論の前提を共有する。</p> <p>第2段階 文献講読と事例検討 講読文献の発表と、それに関連する事例分析を組み合わせた形式で進める。受講生の関心を考慮しつつ、原則として毎回異なる図書の抜粋や論文を取り上げ、多様な視座に触れることを重視する。 モビリティ、ディコロニアリティ、参加、場の形成、身体性、ポジショナリティ、エコクリティシズムといった問題系を扱う可能性があり、以下に講読文献候補を例示する。</p> <p>Bhabha, Homi K., The Location of Culture, Routledge, 1994. (本橋哲也他訳『文化の場所:ポストコロナリズムの位相<新装版>』法政大学出版局、2012) Bishop, Claire, Artificial Hells: Participatory Art and the Politics of Spectatorship, Verso, 2012. (大森俊克訳『人工地獄:現代アートと観客の政治学』フィルムアート社、2016) Clifford, James, Routes: Travel and Translation in the Late Twentieth Century, Harvard University Press, 1997. (毛利嘉孝他訳『ルーツ:20世紀後期の旅と翻訳』月曜社、2002) Fischer-Lichte, Erika, Ästhetik des Performativen, Suhrkamp, 2004. (中島裕昭他訳『パフォーマンスの美学』論創社、2009) Jenkins, Henry, Convergence Culture: Where Old and New Media Collide, New York University Press, 2006. (渡部宏樹・北村紗衣・阿部康人訳『コンヴァージェンス・カルチャー:ファンとメディアがつくる参加型文化』晶文社、2021) Turino, Thomas, Music as Social Life: The Politics of Participation, University of Chicago Press, 2008. (野澤豊一・西島千尋訳『ミュージック・アズ・ソーシャルライフ:歌い踊ることをめぐる政治』水声社、2015)</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	自分が発表担当ではない回も、指定された文献を授業までに読み、議論の準備をしておくこと。 発表担当回は、全員が文献を読んで参加している前提で、議論を円滑に進められるよう論点を整理し、レジュメを作成して共有すること。		
成績評価の基準と方法 Grading System			

授業への参加度合い 30% プレゼンテーション 40% 期末レポート 30%
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks 教員が配布する資料を使用する。Materials will be provided by the instructor.
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information

科目名 Course Title	表象文化論演習[Representation and Cultural Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	徐 玉 [JO Gyoku] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083271
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6330		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 メディア文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	映画、ジェンダー、セクシュアリティ、フェミニズム映画理論、精神分析		
授業の目標 Course Objectives	<p>映画と精神分析は、しばしば“相性がよい”と言われてきた。欲望、同一化、無意識といった精神分析の概念は、映画を分析し言語化する際に重要な示唆を与えてきたからである。しかし同時に、フロイトに代表される精神分析は、男性中心的な理論として、フェミニズムやジェンダー研究の分野から批判を受けてきた。</p> <p>他方で、フェミニズム映画理論においては、精神分析は単に否定される対象ではなく、むしろ対峙すべき枠組みとして批判的に読み替えられ、映画研究を行うための理論的資源として積極的に再利用されてきた。</p> <p>本演習では、フェミニズム映画理論を手掛かりに、映画と精神分析の関係をあらためて検討していく。</p>		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・フェミニズム映画理論などの批評理論を学び、理論を手がかりとしながら分析できるようになる ・異なる文化圏・メディアテキストにおけるジェンダー／セクシュアリティ問題にアプローチする視点、方法論を獲得し、主要な概念について説明することができる ・テキストを批判的に読み解き、自らの見解を論理的に論述することができる 		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回: ガイダンス 基礎知識・入門として、下記の文献を事前に読んでおくこと 北村婦美「精神分析とフェミニズム—その対立と融合の歴史」、『精神分析にとって女とは何か』西見奈子編、福村出版、2020年</p> <p>第2回: 『映画理論講義：映像の理解と探究のために』/ J.オーモン [ほか] 著；武田潔訳、勁草書房、2000年 第5章「映画と観客」II 精神分析理論における同一化 III 映画における二重の同一化</p> <p>第3回: 斉藤綾子『撮られる女／撮る女 フェミニズム映画批評の可能性』青弓社、2025年 第1章「映画とジェンダー・セクシュアリティ」；「既成イメージを打ち破るフェミニスト・ヒロイン」</p> <p>第4回: Anneke Smelik “What meets the eye: feminist film studies.” Women’s Studies and Culture: A Feminist Introduction Smelik, Anneke; Buikema, Rosemarie (ed.), Zed Books, 1995</p> <p>第5回: ローラ・マルヴィ「視覚的快楽と物語映画」、岩本憲児ほか(編)『新・映画理論集成 1』フィルムアート社、1998年</p> <p>第6回: Linda Williams “Something else besides a Mother: Stella Dallas and the Maternal Melodrama.” Journal of Cinema and Media Studies, Cinema Journal Retrospective, pp. 2-27</p> <p>第7回: Teresa De Lauretis Alice Doesn’t: Feminism, Semiotics, Cinema, Indiana University Press, 1984 第5章 Desire in Narrative</p>		

<p>第 8 回: M.A.ドーン『欲望への欲望 1940 年代の女性映画』、松田英男監、勁草書房、1994 年 第 5 章「パラノイアと鏡なるもの」</p> <p>第 9 回: タニア・モドゥレスキー『知りすぎた女たち—ヒッチコック映画とフェミニズム』青土社、1992 年 第 3 章 「女と迷宮『レベッカ』」</p> <p>第 10 回: Patricia White Uninvited : Classical Hollywood Cinema and Lesbian Representability, Indiana University Press, 1999 第 3 章 Female Spectator, Lesbian Spectator</p> <p>第 11 回: Barbara Creed The Monstrous-Feminine: Film, Feminism, Psychoanalysis, Routledge,1993 第 8 章. Medusa's Head: the Vagina Dentata and Freudian theory</p> <p>第 12 回: 口頭発表</p> <p>第 13 回: 口頭発表</p> <p>第 14 回: 口頭発表</p> <p>第 15 回: 全体討論</p>
<p>準備学習 (予習・復習)等の内容と分量 Homework 毎回、担当者とファシリテーター (司会)を決めて進行する</p> <p>授業前の予習: 担当者: 指定された文献を要約し、問題点を整理したレジュメを作成する ファシリテーター (司会): ディスカッションをリードする その他の受講者: 文献を精読し、感想や疑問点を考えた上でディスカッションに参加する</p> <p>授業後の復習: ディスカッションを通じ、さらに湧いた疑問点などを整理し、それらと自分の研究との結びつきについて考える</p> <p>第 12 回以降は、それまでの議論を踏まえ、得られた知見を自分の研究にどのように活かせるかについて口頭発表する。発表時に受けたフィードバックを基に、最終的に期末レポートとしてまとめる</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 以下の観点により総合的に評価する。①毎回の討論への参加・貢献度 (50%) ②口頭発表 (25%) ③期末レポート (25%)</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の人数、および受講者の関心やリクエストによっては文献変更の可能性はある ・言及された映画はできるだけ視聴すること ・教科書は使用せず、文献は授業内で適宜提示を行う。 <p>参考書: エリザベス・ライト編『フェミニズムと精神分析事典』多賀出版、2002 年; Shohini Chaudhuri, Feminist Film Theorists: Laura Mulvey, Kaja Silverman, Teresa de Lauretis, Barbara Creed, Routledge, 2006; 中山元『フロイト入門』筑摩書房、2015 年; 堀潤之／木原圭翔編『映画論の冒険者たち』東京大学出版会、2021 年; 片岡 一竹『ゼロから始めるジャック・ラカン——疾風怒濤精神分析入門』(増補改訂版)筑摩書房、2023 年; 岡田温司『映画が恋したフロイト』株式会社 人文書院、2025 年</p>

科目名 Course Title	観光文化論演習[Tourism and Culture]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	石野 隆美 [ISHINO Takayoshi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083272
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 観光文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	文化、観光人類学、観光社会学、消費、モビリティ		
授業の目標 Course Objectives	観光と文化にかかわる議論の展開について観光人類学・観光社会学の観点から学ぶ。「観光のまなざし」「真正性」「表舞台と舞台裏」「表象」「ローカルティ」などの基礎概念と理論を踏まえたうえで、モダニティとポストモダニティ、消費社会、物質性、移動論などの観点から、「観光文化」という概念視座それ自体の有効性や課題をラディカルに問い直していくことを目標とする。		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・文化をめぐる観光研究の議論の展開と基礎的な概念を説明できるようになる。 ・受講者の研究テーマを、観光と文化に関する先行研究や社会理論の展開に文脈づけることができるようになる。 		
授業計画 Course Schedule	<p>毎回 1 名から 2 名の発表者を設け、輪読とディスカッションにより講義を進めていく。輪読予定文献は初回に提示し、受講生の関心に応じて調整する。</p> <p>【第 1 回～第 2 回: ガイダンス、基礎講義】 イントロダクションとして、観光文化論の展開について教員がレビューを行う。文献の発表担当者を定める。</p> <p>【第 3 回～第 10 回: 観光文化論の基礎概念を学ぶ】 観光と文化をめぐる議論の展開と重要概念を文献から学ぶ。取りあげるテーマは「真正性」「観光のまなざし」「表舞台と舞台裏」「パフォーマンス」「表象」「文化の客体化」「伝統の創造」など。</p> <p>【第 11 回～第 12 回】 観光と文化の問題を、消費とグローバル資本主義の論点と結びつけて考察している文献を読む。取りあげるテーマは「消費社会論」「ポストモダニズム」「感情労働」など。</p> <p>【第 13 回～第 14 回】 観光と文化をめぐる文化人類学的な議論の現代的展開を検討する。取りあげるテーマは「モビリティ」「マテリアリティ」「インフラストラクチャー」など。</p> <p>【第 15 回】 講義の総括を行う。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>毎回の講義では、レジュメ担当者は文献の要約と論点をまとめてくる必要がある。また発表者以外の参加者も文献を熟読し質問や意見を用意したうえで当日のディスカッションに参加すること。課題文献を関連文献とともに読み、内容をあらかじめ理解してくることは大前提である。そのうえで、各自の研究関心に引きつけた批判的かつ創造的な読みを全員が準備してくる事が求められる。</p>		

<p>本講義において取り組まれる輪読あるいは議論とは、すでに価値の定まった客観的知識を論文や教員から伝授されることではない。議論とは、文献を読み、受講者各々が自らの経験や知識と結びつけて考えた言葉を紡ぎだし、他者の言葉に触発され、最終的にその場全員で新たな想像力を獲得するための試みであり、それは「知識を得ること」を明らかに超えた営みである。この意味で、本講義において受講者は情報や知識の消費者ではなく、その生産者であることが期待されている。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 授業とディスカッションへの能動的な参加度合い(40%)、レジュメ発表の完成度(30%)、学期末レポート(30%)に基づき、到達目標の達成度を評価する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 文献は基本的には教員が準備・配布する。 Reading materials will be distributed in advance.</p>
<p>講義指定図書 Reading List 現代世界を読み解く観光人類学のススメ／市野澤潤平・山下晋司(編)：ナカニシヤ出版, 2026 よくわかる観光コミュニケーション論／須藤廣・遠藤英樹・高岡文章・松本健太郎(編)：ミネルヴェ書房, 2022 講義指定図書1は2026年度3月までに刊行予定。</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	観光社会学演習[Sociology of Tourism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	岡本 亮輔 [OKAMOTO Ryosuke] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083273
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 観光文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光文化、真正性、伝統、メディア、社会学、文化人類学		
授業の目標 Course Objectives	現代社会において、観光とメディアは密接し、様々な領域と融合しながら変容しています。この授業では、現代の観光とメディアを分析する際に不可欠な観光学・社会学・文化人類学の基本的な知識と理論を身につけることを目標とします。		
到達目標 Course Goals	受講者が、自分自身の研究を学術的文脈の中に理論的に位置づけ、具体的な調査研究の指針を得ることを目標とします。より具体的には以下の3点です。 ①自分の研究分野にどのような先行研究があるのかを把握する。 ②自分の研究の調査法の位置づけを理解する。 ③自分が研究する事例にどのような学術的意義があるのかを説明できるようになる。		
授業計画 Course Schedule	観光社会学・観光文化論・観光メディア論に関わる文献を輪読する。 毎回報告者を決め、2～3本程度の文献を講読する。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	履修者は事前に文献を精読し、報告担当者はレジュメを作成する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業への参加度(50%)と授業内課題(50%)に基づいて総合的に評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	フィールドから読み解く観光文化論——「体験」を「研究」にする 16章／西川克之ほか:ミネルヴァ書房, 2019 教科書は2回目の授業までに入手しておいて下さい。		
講義指定図書 Reading List	いま私たちをつなぐもの——拡張現実時代の観光とメディア／山田義裕・岡本亮輔:弘文堂, 2021		
参照ホームページ Websites	https://gendai.ismedia.jp/list/author/ryosukeokamoto , https://president.jp/list/author/%E5%B2%A1%E6%9C%AC%20%E4%BA%AE%E8%BC%94 , https://news.yahoo.co.jp/byline/okamotoryosuke		
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	観光人類学演習[Anthropology of Tourism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	天田 顕徳 [AMADA Akinori] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083274
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 観光文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光文化、文化人類学、民俗学、モダニティ、伝統、真正性		
授業の目標 Course Objectives	この授業では、人類学の基本的な諸理論を学ぶとともに、それらの理論を受講生各々の研究と結びつけ活用する方法を身につけることを目標とします。		
到達目標 Course Goals	1.人類学の基本的な諸理論についての知識を深め、 2.それらの知識や方法論を受講者自身の研究に応用できるようになること。 以上を到達目標とします。		
授業計画 Course Schedule	授業毎に報告者を1～2名指定し、文献の輪読とディスカッション、必用に応じて講義を行います。 輪読する文献は受講者と相談しながら観光や観光文化と関わる人類学(受講者の関心によっては民俗学)のものを選びます。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	プレゼンターに指名された受講者はプレゼンテーションの準備をして下さい。 また、プレゼンター指名の有無に関わらず、受講者は授業時に指定された文献を読んでから授業に臨んで下さい。		
成績評価の基準と方法 Grading System	発表とディスカッションへの貢献度:70% 期末レポート:30% 以上を基準に総合的に判断します。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	初回授業時に受講者と相談の上、指示します。手に入りにくい文献/論文を使用する場合は担当教員が予め準備します。 References and reading materials necessary will be introduced and/or delivered by the instructor.		
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	北海道文化資源論演習[Cultural Resource Management in Hokkaido]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	山村 高淑 [YAMAMURA Takayoshi] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083275
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 観光文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	フィールドワーク、文化遺産、CRM(文化資源マネジメント)、北海道、先住民文化、歴史、ポップカルチャー、文化的景観、観光資源、産業観光、Heritage tourism(ヘリテージツーリズム)、Contents Tourism(コンテンツツーリズム)、山田秀三		
授業の目標 Course Objectives	<p>ツーリズムの重要な機能は、ホスト社会にとっては、地域の「文化資源」の価値を再確認し、他の人々に開示し伝えること、そしてゲストにとっては、その価値を五感で享受すること、である。そしてこうしたツーリズムの持つ機能を効果的且つ平和裏に発揮させるためには、ホスト・ゲスト両者が共に、歴史と文化の多様性を尊重する姿勢を持ち、人間と風土・環境との関係性としての、そして、人類の多様な交流の歴史の結果としての「文化資源」への理解を深めることが必要不可欠となる。</p> <p>本演習では、北海道における文化資源のあり方を考えるために、北海道内に残るアイヌ語地名や関連する文化資源を実際に「歩く」ことを実行したい。具体的には北海道・東北のアイヌ語地名を 40 年間にわたる詳細なフィールドワークにより整理した故山田秀三氏の著作を主たる参考文献とし、地理学(地形学)と民俗学を融合したその独自のフィールドワーク手法について学ぶとともに、次世代に残すべき文化遺産としてのアイヌ語地名が持つ意義と課題について理解を深める。さらにはそうした先住民文化への敬意とともに、移民文化や現代のポップカルチャーについても検討を加えることで、地域の文化資源を重層的・多声的に学ぶことのできる観光形態のあり方について議論を行う。</p> <p>なお、本演習の目標としては、具体的に以下の三点を掲げておく。</p> <p>①北海道は決して未開の大地だったわけではなく、長く先住民の生活と文化が継承されてきた独自の文化を持つ土地であったことを、フィールドワークを通して理解すること。</p> <p>②それを理解したうえで、現在の北海道の文化とは、a:先史時代、b:アイヌ文化期、c:開拓以降の文化が重層的に重なりあって形成されていることを理解すること。</p> <p>③国連による「先住民の権利宣言」の採択、国による「民族共生の象徴となる空間」の整備等、北海道の歴史・文化自体が大きな見直しを迫られている昨今、我々は北海道の文化をどのように捉え、そして公開しその価値を説明していくのか、考えていくこと。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習において受講者は、以下7点の具体的な学習目標に到達することが期待される。</p> <p>(1) ICOMOS の International Cultural Tourism Charter の枠組みの特徴と課題を理解するとともに、heritage, pop culture, indigenous culture 等、関連する語句の定義を理解し、使い分けられるようになること。</p> <p>(2) 文化資源の意味について自分なりの視点を持ち、文化資源とツーリズム実践との関係性、ツーリズムにおける文化資源マネジメントのあり方について、自らの言葉で取りまとめることができるようになること。</p> <p>(3) フィールドワークに向けた基礎資料の収集と整理の方法について理解し、これを個人で実施することで、自分独自の問題意識、課題設定ができるようになること。</p> <p>(4) フィールドワークのデザイン(日程、旅程、調査手法、記録方法等々)の基本的方法を理解し、これを個人で行えるようになること。</p> <p>(5) 現場での記録の取り方について理解し、実際に現地で有用な情報の記録ができるようになること。</p> <p>(6) 現地で得た情報を整理し、自らの設定した課題に基づき、分析し、取りまとめられるようになること。</p> <p>(7) 2,000 文字程度の日本語小論文を、論文の執筆ルールにしたがって、適切に執筆できるようになること。</p>		
授業計画 Course Schedule	【フィールド実践型演習】		

本演習は実際に野外を歩くことに重点を置きたい。そのために第2・3セクションでは、①基本事項を紹介するための講義、②現地調査準備、③現地踏査の実施、④調査結果の総括・総合討議を繰り返す形態をとる。

なお、フィールドワークの実施に主眼を置くため、天候や諸事情により内容が前後する場合があります。ご承知おき下さい。

第1セクション:文化遺産、ヘリテージ・ツーリズム、先住民族について(第1～4週)

授業の概要、目標、教材、評価法等について周知するとともに、文化遺産の考え方・定義、その価値の踏まえ方、先住民族の権利回復をめぐる国際社会の趨勢、それに対する我が国ならびに北海道の対応と課題について概説する。また地勢図・地形図を用いた調査方法についても紹介する。

第2セクション:北大キャンパス・北大周辺の調査(第5週～8週)

サクシュコトニ川、遺跡保存庭園、植物園、偕楽園等の踏査を行い、北大キャンパス周辺の土地の持つ歴史・文化的価値の再検討を行う。

第3セクション:札幌市内、近郊の調査(第9週～第13週)

札幌市内、周辺地域にも当然のことながら多くのアイヌ語地名が残る。これらの土地を実際に歩き、地形と地名との対応について理解を深める。

第4セクション:総括(第14週～第15週)

現地調査結果の取りまとめ、それをもとにしたツアーコースの検討、総合討議を行う。

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

演習で議論した内容、フィールドワーク内容に沿って、毎週、2,000字程度のレポートを日本語で提出して頂きます。

また、随時、関連参考資料を配布しますので、これらを次週までに必ず読んでおいて下さい。

成績評価の基準と方法 Grading System

以下の各点数を総合し、秀(90点以上)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)として評価を行う。

フィールドワークの取り組み姿勢(20%)

課題への取り組み姿勢、アウトプット(40%)

プレゼンテーション内容(20%)

討議での発言(20%)

以上

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

テキスト・教科書 Textbooks

講義指定図書 Reading List

北海道の地名～アイヌ語地名の研究別巻／山田秀三:草風館, 2000

世界遺産と地域振興／山村高淑・張天新・藤木庸介:世界思想社, 2007

北大歴史散歩／岩沢健蔵:北海道大学図書刊行会, 1986

アイヌ語地名を歩く／山田秀三:北海道新聞社, 1986

麗江フィールドノート／山村高淑:ぶんしけん出版(Kindle版), 2019

参照ホームページ Websites

『先住民文化遺産とツーリズム:アイヌ民族における文化遺産活用の理論と実践』

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/49181>

研究室のホームページ Websites of Laboratory

<http://yamamuratakayoshi.com/>

備考 Additional Information

【重要】本演習は、座学とフィールドワークからなります。また、フィールドワークについては、現場における対面式の演習となります。フィールドワークの際、演習前後の時間を現地への移動に充てる場合があります。

科目名 Course Title	音楽ツーリズム論演習[Music and Tourism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	金 ソンミン [KIM Sungmin] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083276
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 観光文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ツーリズム、音楽、サウンドスケープ、ミュージッキング、空間、移動、コミュニケーション、民族		
授業の目標 Course Objectives	本演習では、以下の二つの問いを探ります:①音楽におけるツーリズムの機能とは何か、②ツーリズムにおける音楽の機能とは何か。授業を通して担当教員の私と学生のみなさんは、音楽とツーリズムが相互作用する様々な現象(たとえばロックフェスや音楽都市観光、クラブ文化など)を探り、実際の音楽とサウンドを聴きながら、この二つの問いに答えを出すための理論的視座と方法論を模索していきます。		
到達目標 Course Goals	①音楽ツーリズムの多面的意味を理解し、実際の現象と結びつけることができる。 ②音楽ツーリズムに関する基礎的な文献を読み、応用できるようになる。 ③文献や現象に関する発表・討論をつうじて、学問的な観点と知識を持つことができる。		
授業計画 Course Schedule	第1回:ガイダンス 第2回 民族/国家の音楽とツーリズム 第3回 民族/国家の音楽とツーリズム 第4回 民族/国家の音楽とツーリズム 第5回 ミュージッキング(Musicking)とツーリズム 第6回 ミュージッキング(Musicking)とツーリズム 第7回 ミュージッキング(Musicking)とツーリズム 第8回 音楽の場所とツーリズム 第9回 音楽の場所とツーリズム 第10回 音楽の場所とツーリズム 第11回 サウンドスケープとツーリズム 第12回 サウンドスケープとツーリズム 第13回 サウンドスケープとツーリズム 第14回 個人研究発表および討論(1) 第15回 個人研究発表および討論(2)		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	主に文献レジュメの作成と個人発表の準備が中心となる。		
成績評価の基準と方法 Grading System	出席状況と議論への参加度(30%)、文献レジュメ報告(30%)、個人研究発表(40%)を総合的に評価する。		

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks ミュージッキング—音楽は“行為”である／クリストファー・スモール:水声社, 2023 K-POP 新感覚のメディア／金成玫:岩波書店, 2018 テキストや指定図書は、授業中に適宜紹介する。Readings will be posted.
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory https://www.kimsungmin.net/
備考 Additional Information

科目名 Course Title	Tourism and Public History[Tourism and Public History]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	BULL JONATHAN EDWARD [BULL JONATHAN EDWARD] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083277
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6401		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 観光文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives			
到達目標 Course Goals			
授業計画 Course Schedule			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
成績評価の基準と方法 Grading System			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	英語版シラバスをご参照ください。		

科目名 Course Title	観光創造論演習[Tourism and Innovation]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	未定 (国際広報メディア・観光学院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083279
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 観光文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光創造／共創(Co-creation)／ダイアログ(対談)型学習／ステークホルダー協働／観光ガバナンス／プレイスメイキング／価値創出／質的探究／半構造化インタビュー		
授業の目標 Course Objectives	<p>本授業の目標は、「観光創造」を既成の概念として受け取るのではなく、受講生が対話・事例・実践者の言葉を素材にしなが、その意味を自ら発見・更新し、説明可能な形へと組み立てることである。観光創造研究コースが重視してきた学際性と実践性(理念と現場の往還)を踏まえ、前半では観光創造をめぐる主要な視点・論点を共有し、観光が「価値」「関係」「場所」「組織」「メディア」など複数の層で生成されるプロセスとして捉えるための共通フレームを形成する。後半は、受講生がコース出身の研究者・実務者・経営者等を自ら調査・連絡し、招聘して実施する「観光創造ダイアログ(ゲスト対談)」を中心に据える。対談の企画・進行・記録・討議を通じて、観光創造が現場でどのように語られ、実装され、また異なる領域間で翻訳されるのかを具体的に検討する。各回で得られた知見は、クラス全体で“Living Definition”として反復的に更新し、最終的に Glossary/Map として可視化することで、観光創造を「説明できる共同知」として共有・提示することを目指す。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>① 観光創造を価値・関係・場所・実践・ガバナンス・メディア等の多層的概念として説明できる。 ② 対談／討議のための問いを設計し、論点を整理して知見を概念化できる。 ③ ゲスト対談の内容を根拠に、観光創造の定義を批判的に更新し文章化できる。 ④ 共同成果物(Glossary/Map)に貢献し、個人の省察を論理的に提示できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回: ガイダンス/「観光創造とは?」仮説定義/授業設計の共有 第2回: 観光創造研究コースの視点共有/観光創造の射程と層位の討議 第3回: 事例討議(観光創造が生成される局面)/Living Definition 更新 第4回: ゲスト候補マッピング(研究・実務・経営・行政等)/グループ編成・候補リスト作成 第5回: 問いの設計(半構造化インタビューの感覚)/質問バンク構築 第6回: 依頼文書・連絡作法/役割分担(司会・運営・記録・広報等)/倫理確認 第7回: 模擬対談(リハーサル)/運営テンプレ確定(進行-討議-定義更新) 第8回: 観光創造ダイアログ #1(ゲスト対談)+討議+定義更新 第9回: 観光創造ダイアログ #2+討議+定義更新 第10回: 観光創造ダイアログ #3+討議+定義更新 第11回: 観光創造ダイアログ #4+討議+定義更新 第12回: 観光創造ダイアログ #5+討議+定義更新 第13回: 対談記録の統合(概念・パターン・緊張点の整理)/Glossary 草案 第14回: 成果物制作(観光創造 Map)+ミニフォーラム 第15回: 最終提出/個人定義文/共同定義の最終確定と振り返り ※ゲスト日程等により順序・形式は一部調整の可能性あり</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>予習: 配布資料(または事例)を読み、討議用質問を1～2点作成。 復習: 授業内容の要点整理と“Living Definition”更新のためのメモ作成。 ダイアログ回: ゲストの事前調査(所属・活動・プロジェクト等)と質問票の準備。</p>		

リフレクション・メモ:各回 400～800 字程度(指示回のみ)。
成績評価の基準と方法 Grading System 参加・討議への貢献:20% リフレクション・メモ(計 4～5 回):25% グループプロジェクト(連絡・招聘・運営パッケージ+要約/分析):35% 最終個人課題(「私の観光創造定義」300～500 字+根拠):20%
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks 指定教科書なし。資料(リーディング/事例/ゲスト関連資料)は授業内で配布(ELMS)する。
講義指定図書 Reading List 指定図書なし(配布資料中心)。参考文献・追加文献は回ごとに提示する。
参照ホームページ Websites 観光創造研究コース(概要・方針): https://www.imc.hokudai.ac.jp/academics/studies_courses/tourism_creation.html
研究室のホームページ Websites of Laboratory 観光学高等研究センター: http://www.cats.hokudai.ac.jp
備考 Additional Information

科目名 Course Title	観光地理学演習[Seminar on Tourism Geography]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	吉沢 直 [YOSHIKAWA Nao] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083290
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6400		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 観光文化専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光地理学、観光目的地、レポート、サステナブル・トランジション、スキー観光		
授業の目標 Course Objectives	多様な観光目的地の形成や空間構造、観光客行動の空間的特性などに関する観光地理学の基本概念や事例研究を取り上げ、理解を深める。また、持続可能なツーリズム形態への移行について、スキー観光を事例に議論していく。その際、分析方法など実践的な手法も紹介することで、総合的な知識と思考力を身につける。		
到達目標 Course Goals	さまざまな観光地域の構造やツーリズムの現代的な課題を理解し、持続可能な形態への移行について考えることができるようになる。		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと観光地理学的思考法 2. 海岸リゾートの地域構造 3. 温泉地の地域構造 4. フィールドワーク(北海道の温泉地) 5. 日本のスキーリゾートの発展プロセス(黎明～衰退期) 6. 日本のスキーリゾートの発展プロセス(衰退～国際期) 7. フランスのスキーリゾートの発展プロセス 8. スキーリゾートの気候変動への対応 9. ツーリズムの気候変動への対応 10. ツーリズムの気候変動への対応 11. フィールドワーク(北海道のスキーリゾート) 12. フィールドワーク(北海道のスキーリゾート) 13. グループ課題(リゾートの将来シナリオを考える) 14. グループ課題(リゾートの将来シナリオを考える) 15. 授業の総括 		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	受講者は授業へ積極的に参加し、関心の観光地域やテーマの文献・学術論文を読み、他のメンバーとディスカッションを行う。		
成績評価の基準と方法 Grading System	最終レポート(50%)とディスカッション(50%)		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List	スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究／呉羽正昭：二宮書店、2017		
参照ホームページ Websites			

研究室のホームページ Websites of Laboratory**備考 Additional Information**

フィールドワーク(北海道の温泉地)は10月23日(金)午後に定山溪温泉(予定)にて行う。

フィールドワーク(北海道のスキーリゾート)は1月16日土曜日(午後)に倶知安町(ニセコ地域)にて行う。

どちらも現地集合・現地解散で2時間程度の活動時間を予定している。

やむをえない事情で、実習に参加できない場合は観光地理に関するオンデマンド授業を用意する。

科目名 Course Title	多文化共生論演習[Multicultural Coexistence]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	PAICHADZE SVETLANA [PAICHADZE SVETLANA] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083291
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6410		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 交流共創専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	多民族・多文化共生、帝国、国民国家、多文化政策		
授業の目標 Course Objectives	この授業では、多文化共生の実態や、多文化共生を各地域、各時代において国家がどのように管理をしていたのかを学ぶ。帝国から国民国家へ、また国民国家から多民族国家への歴史的な経緯を追いながら検討する。国境線と民族、民族の強制移動(deportation)や帰国政策(repatriation)についても学習する。		
到達目標 Course Goals	1) 多民族・多文化社会に関する理解を深める。 2) 国家の多民族政策の在り方やその歴史的な変遷の分析をとおして現代社会を考察する力を身につける。		
授業計画 Course Schedule	第1 セクション(第1回～2回): 世界の多文化社会のタイポロジー、多文化・多言語政策を検討する。第1回と第2回はイントロダクションとして講義を行う。その後、学生とディスカッションを行う。 第2 セクション(第3回～10回): 世界のさまざまな地域における多文化主義の政策についても探求する。講師による講義を行い、その後、学生とディスカッションを行う。 第3 セクション(第11回～14回): 自分が興味を持つ地域、自分の研究テーマに関連するエリアについて学生が個人発表を行う。 第4 セクション(15回目): 最後の授業において全体的なディスカッションを行う。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	講義を聞き、時々提示された文献を事前に読み、ディスカッションに参加する。一つのテーマを選んで、発表し、最後に同じテーマについてのレポートを提出する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業への出席、発表、討論への参加によって総合的に評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List	Language Rights and Political Theory/Will Kymlicka and Alan Patten:Oxford Univ Press, 2003 辺境から眺める―アイヌが経験する近代/テッサ・モーリス=鈴木:みすず書房, 2000 多文化共生政策へのアプローチ/近藤 敦編著(著):明石書店, 2011 The Age of Migration/Stephen Castles, Hein de Haas and Mark J. Miller:Palgrav, 2013		

受講者決定後に文献を変更する可能性もある。初回の授業で提示する。

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

科目名 Course Title	コンテンツツーリズム論演習[Contents Tourism Planning & Management]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	山村 高淑 [YAMAMURA Takayoshi] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083292
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6410		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 交流共創専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	コンテンツ・ツーリズム、文化資源、文化の多様性、文化交流、メディア、ポピュラーカルチャー、サブカルチャー、聖地巡礼		
授業の目標 Course Objectives	<p>人は物語を求めて旅をします。そしてある物語を共有したとき、人と人は交流をすることができます。このことは「旅」の持つ文化的な本質のひとつです。</p> <p>現在、旅行市場は成熟し、人々の趣味や嗜好の多様化にあわせて、旅行市場自体も細分化してきています。それに従って、旅行者や自治体も、コンテンツを求めるといふ旅の本質に気づき始めています。文化資源とは単なる“モノ”ではなく、その奥にある、地域の“物語性”であるということに気づき始めたのです。言い替えば、その土地の持つ世界観や、その土地を舞台にした作品や歴史の“物語性”に浸る旅のあり方、そしてそうした“物語性”を他者と共有することで生まれる交流のあり方に注目が集まっているのです。</p> <p>本演習では、こうした旅のあり方を「コンテンツ・ツーリズム」と呼び、内外事例の研究を通して、文化資源としてのコンテンツ、文化交流・地域振興のあり方としてのコンテンツ・ツーリズムの可能性について検討していきます。</p> <p>具体的には、アニメ、マンガ、小説、映画等のコンテンツ(作品)が地域資源とどのように結びつき、特定の場所に人々を惹き付けるのか、そのプロセスについて見ていきたいと思ひます。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習において受講者は、以下3点の学習目標に到達することが期待されます。</p> <p>(1)2005年に国土交通省・経済産業省・文化庁が共同で作成した「映像等コンテンツの製作・活用による地域振興のあり方に関する調査報告書」における「コンテンツ・ツーリズム」の定義を踏まえ、「地域に関わるコンテンツ(映画、テレビドラマ、小説、マンガ、ゲームなど)」が、文化資源・観光資源として、政策的に重視されつつある背景を理解すること。</p> <p>(2)近年国内で注目されているアニメやマンガを活用したまちおこし事例を整理し、これら事例がそれまでの観光振興・地域振興とどう異なるのか、その特性と課題を理解すること。</p> <p>(3)こうしたコンテンツをきっかけとしたインバウンド誘致の可能性について、関連する事例を調査し、コンテンツの国際的な観光資源化プロセスについて理解すること。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1～3のセクションは最初の週に講義を行い、次週以降は関連する作品の舞台地へのフィールドワーク、受講者による調査結果のプレゼンテーション、ならびにそれらに基づく総合討議を行ないます。講義・プレゼンテーションともに、画像や映像資料を多用します。</p> <p>導入:文化資源としてのメディアコンテンツとは(第1週) 授業の概要、目標、教材、評価法等について周知するとともに、文化資源、コンテンツ・ツーリズムの考え方・定義、思想的背景と現在の意義について概説します。</p> <p>第1セクション:コンテンツ・ツーリズムの歴史・事例の把握(第2週～6週) 国内外の観光開発事例から、地域に関わるコンテンツ(映画、テレビドラマ、小説、マンガ、ゲームなど)を活用した事例を取り上げ、コンテンツ・ツーリズムの歴史と事例を整理し、コンテンツの観光資源化プロセスについて明らかにするとともに、コンテンツの種別と観光開発のあり方の関係性について検討を行います。</p>		

第2 セクション:地域づくりのツールとしてのコンテンツ・ツーリズムの可能性の検討(第7週～第12週)
近年特に注目を集めている、マンガ・アニメ・ゲーム・キャラクターを活用した観光開発の先駆的な事例を取り上げ、各事例について、コンテンツ・ツーリズムを成立させる背景、地域社会・著作権者・来訪者の協働方式について検討します。

第3 セクション:地域振興・コンテンツ産業振興の新たな可能性に関する検討(第13週～第15週)
実際にコンテンツ・ツーリズム開発に関わった方の話を聞くことで、現場の苦勞を学びます。そしてそれを踏まえたうえで、これまでの演習内容を総合し、地域振興・コンテンツ産業振興の新たな手法としてのコンテンツ・ツーリズムの可能性について検討します。

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

指定した教科書・参考文献に関して授業の前に該当部分を指示するので熟読しておいてください。また随時、参考資料も配布します。また随時、自らの論点を明確にするための小論文、エッセイを課しますので、復習を兼ねて執筆をお願いします。

成績評価の基準と方法 Grading System

以下の各点数を総合し、秀(90点以上)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)として評価を行う。

小論文(10%)

最終課題(30%)

プレゼンテーション(30%)

ディスカッション(30%)

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

テキスト・教科書 Textbooks

コンテンツツーリズム:メディアを横断するコンテンツと 越境するファンダム/山村高淑・フィリップシートン編著:北海道大学出版会, 2021

普及版 アニメ・マンガで地域振興 ～まちのファンを生むコンテンツツーリズム開発法～(電子版)/山村高淑:PARUBOOKS, 2018

講義指定図書 Reading List

Contents Tourism in Japan: Pilgrimages to "Sacred Sites" of Popular Culture/Philip Seaton, Takayoshi Yamamura, Akiko Sugawa-Shimada, and Kyungjae Jang: Cambria press, 2017

Mediating the Tourist Experience: From Brochures to Virtual Encounters/Jo-Anne Lester and Caroline Scarles: Ashgate, 2013

Japanese Popular Culture and Contents Tourism/Philip Seaton and Takayoshi Yamamura: Routledge, 2017

コンテンツが拓く地域の可能性: コンテンツ製作者・地域社会・ファンの三方良しをかなえるアニメ聖地巡礼/大谷尚之, 松本淳, 山村高淑著: 同文館出版, 2018

Contents Tourism and Pop Culture fandom: Transnational Tourist Experiences./Yamamura, Takayoshi and Seaton, Philip. (Eds.): Channel View Publications, 2020

湯涌ぼんぼり祭り 2011-2021～アニメ「花咲くいろは」と歩んだ10年～/湯涌ぼんぼり祭り実行委員会・間野山研究学会編: parubooks, 2021

参照ホームページ Websites

IJCT: International Journal of Contents Tourism: <https://contents-tourism.press/>

研究室のホームページ Websites of Laboratory

<http://yamamuratakayoshi.com/>

備考 Additional Information

本演習は、座学とフィールドワークからなります。また、フィールドワークの際、演習前後の時間を現地への移動に充てる場合があります。

科目名 Course Title	森林美学演習[Forest Aesthetics]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	上田 裕文 [UEDA Hirofumi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083294
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6410		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 交流共創専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	森林美学、森林風致、自然資源マネジメント、地域社会、ランドスケープ計画		
授業の目標 Course Objectives	森林美学の系譜とその今日的意義、実践手法としての森林風致計画の理念を学ぶ。森林の多面的機能や生態系サービス、森林サービス産業について、実習を通して実践的に学ぶ。		
到達目標 Course Goals	本演習を受講した学生は、以下の学習目標に到達することが期待される。 (1) 森林美学の概念を理解し、持続可能な森林管理のあり方を説明できる。 (2) 国内外における森林サービス産業の現状と課題について、自ら分析・評価することができる。 (3) 地域の課題を解決する森林サービス産業を構想し、説得力のあるプレゼンテーションができる。		
授業計画 Course Schedule	<p>座学と実習の2セッションに大別し、授業を行う。</p> <p>第1セッション: 森林美学の概要 第1回 6/17 座学 森林美学の概要 第2回 6/24 座学 ドイツの森林美学 第3回 7/1 座学 日本の森林美学 第4回 7/8 座学 景観把握 第5回 7/15 座学 景観評価の事例 第6回 7/29 座学 森林サービス産業</p> <p>第2セッション: 森林に関するフィールド実習 第7-15回 フィールド実習 北海道大学苫小牧研究林または東京大学富良野演習林(8月前半2泊3日)</p> <p>なお、授業の実施順序やフィールド実習地を都合により変更する場合は適宜、事前に通知する。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	文献調査やフィールド実習の事前準備、データのとりまとめやプレゼンテーション作成など、授業時間内で終わらなかった分は宿題となる		
成績評価の基準と方法 Grading System	以下の内容を総合して評価を行う。 (1) 議論とフィールド実習への積極的な取り組み姿勢 30% (2) レポート課題 20% (2) 最終プレゼンテーション 50%		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	森林生態系の保全管理 / 上田裕文・梶光一・宮本敏澄・小池孝良編著: 共立出版, 2025		

講義指定図書 Reading List

森林風景計画学／塩田 敏志 編:地球社, 2008

森林美学／小池孝良・清水裕子・伊藤太一・芝 正己・伊藤精悟 監訳:海青社, 2018

森への働きかけ: 森林美学の新体系構築に向けて／湊克之 編:海青社, 2010

復刻版・森林美学／新島善直・村山醸造:北大図書刊行会, 1991

参照ホームページ Websites**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

<https://www.imc.hokudai.ac.jp/imcts/teacher/001170.html>

備考 Additional Information

講義は6月17日よりスタートし、フィールド実習(8月前半2泊3日の予定)を含みます。

科目名 Course Title	コミュニティ・ベースド・ツーリズム論演習[Community Based Tourism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	岡田 真弓 [OKADA Mayumi] (アイヌ共生推進本部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083295
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6410		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 交流共創専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	コミュニティ・ベースド・ツーリズム(CBT)、ヘリテージ・マネジメント、インタープリテーション、先住民観光、アイヌ民族と北海道観光		
授業の目標 Course Objectives	<p>コミュニティ・ベースド・ツーリズム(CBT)は包括的な用語であり、各地域の実践によって定義はことなるものの、基本的には持続可能な生活を支援し、価値ある社会・文化的伝統と自然・文化遺産を保護することにより、コミュニティの幸福に貢献する、コミュニティが主体となって運営、管理、調整される観光活動のことを示す。CBT は 1970 年代にマストツーリズムに抗する理念として登場し、その他のオルタナティブ・ツーリズムとも相互に影響しあいながら発展していった。日本でも、住民が地域社会に対して興味や関心を抱き、地域資源を発掘し、よりよいまちづくりのための創意工夫がされ、そのことが外部の興味関心をよぶことで観光(交流・関係人口増加)振興につなげる「持続的な観光まちづくり」として様々な取組が展開されている。また、経済成長が著しい新興国や発展途上国においては、地域社会による主体的な観光が貧困の克服や経済の向上といった社会的課題に抗する手段として用いられている。</p> <p>本演習では、CBT を理解するための基礎的な理論や方法論を学んだ後、CBT の中でも先住民観光(先住民が主体的に観光を企画、運営、管理、調整する)の世界的動向および日本におけるアイヌ民族と北海道観光に着目し、その先行事例やフィールドワークを通して、今日の観光における CBT の意義と課題を理解する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習では、次の 3 点の学習目標に到達することが期待される。</p> <p>(1)コミュニティ・ベースド・ツーリズム(CBT)の基本的概念、関連する観光形態との相違、および方法論を説明することができる。</p> <p>(2)CBT におけるヘリテージの管理およびその価値の発信(インタープリテーション)の重要性を位置づけることができる。</p> <p>(3)今日の観光における CBT および先住民観光の意義、課題、展望を論じることができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>本演習は、3 つのセッションに大別して行う。</p> <p>第 1 セクション:イントロダクションと基本的理論を理解する(第 1 週～第 6 週) 第 1 回目のイントロダクションで本演習の目標、授業内容、フィールドワーク内容、評価方法を説明する。第 2 回目以降は、コミュニティ・ベースド・ツーリズム(CBT)に関する基本的概念、関連する観光形態との相違、および CBT の方法論を学ぶ。</p> <p>第 2 セクション:先住民観光の実践を学ぶ(第 7 週～第 12 週) 国内外で実践されている先住民観光の取組を、先行研究およびフィールドワークを通じて学ぶ。フィールドワークは阿寒湖アイヌコタン、阿寒湖温泉、阿寒摩周国立公園といった多様な地域資源を擁し、現在アイヌ民族が主体的に参画する観光振興事業を展開している北海道釧路市阿寒町を予定している。第 8 回～第 9 回にフィールドワークに向けた事前講義を行い、第 10 回～第 12 回に集中講義としてフィールドワーク(2 泊 3 日を予定)を行う。</p> <p>※1 フィールドワークは 2026 年 12 月 11 日(金)～13 日(日)2 泊 3 日の予定です。 ※2 フィールドワークでは、旅費および関連施設入館費等の実費がかかります。 ※3 都合によりフィールドワーク地および日程が変更になる場合があります。</p>		

<p>第3 セクション:グループワークとプレゼンテーション(第13 週～第15 週) 第13 週と14 週で実習の振り返りおよびこれまでの講義内容を踏まえたグループ・ディスカッションを行い、その成果を第15 週にプレゼンテーションする。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 各回のテーマに応じて、授業日までに指定された文献資料を読み、関連する情報収集を行うことが期待される。フィールドワーク前後には、訪問地の概要に関する情報収集や現地でも得られた情報をまとめる作業がある。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 次の点を総合的に評価して成績を決める。 1. 授業(フィールドワーク含む)での発言、ディスカッションへの参画 60% 2. 最終課題・プレゼンテーション 40%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements フィールドワーク先の受入状況等を鑑みて総合的に判断する。</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks The Routledge Handbook of Community-Based Tourism Management: Concepts, Issues, Implications:Routledge, 2021 The Routledge Handbook of Tourism and Indigenous Peoples, 2024 Sustainable Community-based Tourism: Planning, Management, and Sustainability, 2025 各授業に必要な参考文献等は事前に配布する。授業内容によって指定図書の一部が変更になる場合もある。 Book of readings (articles and book chapters) will be provided in advance. Reading list might be modified due to kinds of students' interests.</p>
<p>講義指定図書 Reading List コミュニティ・ベースド・ツーリズム事例研究(CATS 叢書3号)／山村高淑、小林英俊、小川弘孝、石森秀三編, 2010 Sustainable Tourism and Indigenous Peoples, 2019 エコツーリズムの民族誌：北タイ山地民カレンの生活世界, 2012</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information ・本演習ではフィールドワークを実施することから、受講生は必ず学生教育研究災害障害保険に加入すること。加入方法については、学務部学生支援課(課外活動支援担当:011-706-7467)まで問い合わせてください。 ・フィールドワークに際し、旅費および関連施設入館費等の実費がかかります。詳細はガイダンス授業でお知らせします。</p>

科目名 Course Title	アドベンチャーツーリズム論演習[Adventure Tourism Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	木村 宏 [KIMURA Hiroshi] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083297
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6420		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 観光地域経営専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光ビジネスプロデュース・コーディネーション、広報、ライフスタイルツーリズム		
授業の目標 Course Objectives	<p>「スポーツを通じて、豊かで健やかな暮らしを実現する」という企業理念を掲げるスポーツアパレル企業(株)ゴールドウインが、国策となったアドベンチャーツーリズム(AT)について、どのような関係性を持ち地域や社会に貢献しているのかを検証する。</p> <p>ATの要件であるアクティビティ、自然、文化体験を融合した体験プログラムや企画に加え、地域におけるアウトドア関連施設・店舗の運営、商品の開発やスポーツを通じたライフスタイルの提案等の具体的なノウハウを習得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツアパレル業界が果たすATへの貢献を理解する。 ・デスティネーションそのものが暮らしの場所であり、旅することが日常生活の延長にある旅のスタイル(ライフスタイルツーリズム)を深堀する。 		
授業計画 Course Schedule	<p>※土曜日(4日間)の集中開催及びフィールドワーク(2泊3日)、公开发表(シンポジウム)で構成される。</p> <p>第1～2回 イン트로ダクション アドベンチャーツーリズム(AT)の展開について 国及び北海道のATの戦略 株式会社ゴールドウインの歩みと地球環境の改善に挑戦する企業戦略</p> <p>第3～4回 ATのツアー商品戦略 スポーツの原点を追求したPLAY EARTH事業の展開 ライフスタイルツーリズムの展望</p> <p>第5～6回 国立公園や地域におけるATの実践 フィールドワークの事前準備</p> <p>第7～11回 フィールドワーク(企業と連携した観光地創造の検証と考察) 民間事業者と自治体との連携により展開している、道内の国立公園の魅力や価値の向上・環境保全のための取り組み、アウトドア・アクティビティの促進、未来を背負う子供たちの自然体験活動の場の創出、地域産業との連携および、その目標を達成するための、マーケティング、ブランディング及びプロモーションについて、企業のトップや地域の関係者から直接話を聞き、また、実践現場を訪問し産官連携による地域活性化のプロセスと実践を検証する。</p> <p>第12、13回 フィールドワークのまとめとシンポジウムの発表準備</p>		

<p>第 14、15 回 産官学連携による AT の推進に向けて(公開発表方式を予定)</p> <p>※スケジュール及び講義内容の詳細は変更となる場合があるので留意すること。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 初回の講義にて説明する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 出席は授業回数の70%を評価条件とし、授業への参加態度(発言や討議についての積極性)40%、フィールドワークにおける提案・参加姿勢30%、レポート、発表の内容30%とし総合的に判断する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information フィールドワークは 10～11 月週末(金土日)の 2 泊 3 日を予定している。旅費については原則自己負担となるので留意されたい。</p>

科目名 Course Title	観光地域マネジメント論演習[Destination Management Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小泉 大輔 [KOIZUMI Daisuke] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083298
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6420		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 観光地域経営専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光地域づくり、観光計画、観光推進組織(DMO、観光協会)、着地型観光(着地型旅行商品)、地域連携、観光交通マネジメント、地域交流拠点、観光人材、観光財源、環境保全		
授業の目標 Course Objectives	<p>観光を通じて地域をいかにマネジメント(地域経営、協働、連携と言った広範な概念を含む言葉として捉える)していくかについて実践的に考察、検証することを目標とし、そのために必要な基礎知識を習得し、実際の地域で生じている多様な課題を把握しその解決方法を提示するために求められる視点の獲得を目指す。</p> <p>なお、本演習は、主として社会人等を対象とした履修証明プログラム(デスティネーション・マネージャー育成プログラム)の必修科目と兼ねて開講される。</p>		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地域マネジメントの多面的な役割について理解し、説明ができる。 ・地域の特性を踏まえ、新たな観光関連事業を立案、実現することができる。 ・地域の観光推進体制を評価、分析し、望ましいビジョンを構想することができる。 		
授業計画 Course Schedule	<p>I ガイダンス(第1回)</p> <p>講義の目的、構成、進め方、評価方法、フィールドワークについての詳細を説明する。</p> <p>II 観光地域マネジメントに関する現状と課題(第2～6回)</p> <p>観光地域マネジメントの有する多面的な役割を理解するため、具体的なテーマを設定して講義、考察する。例として以下のものを挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体による観光地域マネジメントとそれに関係するモノ、人、コト ・地域資源の発掘と体験プログラムの開発方法を地域住民とともに発掘し、商品化するプロセス ・着地型旅行商品の定義や旅行会社と地域の関連性、催行の方法やその課題 ・観光協会や観光案内所の運営や地域づくりの主体となる観光推進組織や道の駅の役割 ・地域における宿泊施設の果たす役割や交通事業者の経営戦略など ・「農泊」事業の展開 <p>III フィールドワーク(第7回～第12回)</p> <p>観光地域づくりに取り組む北海道内の特定地域を訪ね、その実態を調査し検証する。事前に情報収集を行った上で、現地では行政や観光関連事業者、地域住民等へのヒアリングや意見交換を行い、グループワークを通じて具体的な政策立案や事業企画を模擬的に作成し、現地関係者に対して提案する。</p> <p>IV 総括(第13回～第15回)</p> <p>観光地域マネジメントのあり方について、講義やフィールドワークを通じて学び得たことを基に議論し、グループごとに取りまとめる。最終回にはその成果発表を講演会形式で実施する。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			

<ul style="list-style-type: none"> ・本演習はグループワークを基本とし、討議や発表を行う。 ・フィールドワークでは、事前に訪問地の概要について下調べをしておくことを前提とし、終了後には、課題に沿ったレポートや提案書、企画書等の提出をグループ毎に求める。
成績評価の基準と方法 Grading System 出席は授業回数の70%を評価条件とし、授業への参加態度(発言や討議についての積極性)40%、フィールドワークにおける提案・参加姿勢30%、レポート、発表の内容30%とし総合的に判断する。
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information フィールドワークについては、開講曜日とは別日程にて2泊3日を実施する計画である(道内を予定)。旅費については原則自己負担となるので留意されたい。本科目の根幹をなす内容となるため必ず参加すること。 詳細については、ガイダンス時に示す。

科目名 Course Title	ランドスケープ・デザイン論演習[Landscape Design]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	上田 裕文 [UEDA Hirofumi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083299
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6420		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 観光地域経営専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ランドスケープ, デザイン, 造園, 庭園, まちづくり, 地域環境マネジメント		
授業の目標 Course Objectives	<p>観光の楽しみの一つは、様々な地域を訪れ、その土地のランドスケープを楽しむことです。観光開発において、ランドスケープをどのようにデザインするかは、必要不可欠なテーマと言えます。</p> <p>この講義では、自然景観、文化的景観や都市景観といったランドスケープを様々なスケールで捉え、その成り立ちや歴史から計画設計や保安全管理方法を含めた理論的・実践的な理解を深めます。その上で、デザイン思考について学び、創造的な問題解決スキルを磨くことが本講義の目標です。グループ学習、ディスカッション、そして二種類のデザイン課題を含むアクティブラーニング形式の演習に参加することで、問題発見からコンセプトづくり、図面やスケッチによるプレゼンテーション作成までの基本的なスキルを身につけます。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>(1) ランドスケープとデザインについての基本的な概念を自らの言葉で説明できる。</p> <p>(2) 文献調査やフィールドワークなどから得られたデータを分析・評価し、計画立案することができる。</p> <p>(3) アイディアを形にしたり、実現のための仕組みをデザインしたりすることができる。</p> <p>(4) メンバーと協力して、グループワークに従事することができる。</p> <p>(5) 人に伝わるプレゼンテーションができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>本演習は、理論と実践を学ぶ、2つのセッションから構成される。</p> <p>●第1セッション ランドスケープデザインの理論と技法(第1～8週)</p> <p>第1回 ランドスケープの基本的な概念 第2回 日本の庭園、世界の庭園 第3回 デザインの基本的な概念 第4, 5, 6回 サービスデザイン演習 第7回 プレゼンテーションと討論</p> <p>●第2セッション 道内地域を対象としたランドスケープの実践(第8～15週)</p> <p>第8-13回 フィールドワーク、計画立案とデザイン検討 第14回 プレゼンテーション準備 第15回 プレゼンテーションと討論</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	データのとりまとめやプレゼンテーション作成など、授業時間内で終わらなかった分は宿題となる		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>1 第1セッションレポート 20点</p> <p>2 グループワーク中の議論 30点</p> <p>3 最終成果物とプレゼンテーション 50点</p>		

個人評価(1, 2)50点、グループ評価(3)50点の合計100点満点で点数をつける。
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List 実践風景計画学：読み取り・目標像・実施管理／古谷勝則 [ほか] 編集：朝倉書店，2019 こんな樹木葬で眠りたい：自分も家族も幸せになれるお墓を求めて／上田裕文：旬報社，2018 『林苑計画書』から読み解く 明治神宮一〇〇年の森／明治神宮とランドスケープ研究会：東京都公園協会，2020
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory https://www.imc.hokudai.ac.jp/imcts/teacher/001170.html
備考 Additional Information 道内地域を対象としたフィールドワークは、受講者と日時を相談して連続で行う予定。

科目名 Course Title	Tourism and Regional Revitalization[Tourism and Regional Revitalization]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	Susanne Klien [SUSANNE Klien] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083300
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6421		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 観光地域経営専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	1 英語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
授業の目標 Course Objectives			
到達目標 Course Goals			
授業計画 Course Schedule			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
成績評価の基準と方法 Grading System			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information	英語版シラバスをご参照ください。		

科目名 Course Title	地域経済論演習[Seminar on endogenous rural Development]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	東山 寛 [HIGASHIYAMA Kan] (大学院農学研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083301
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6420		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 観光地域経営専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	農山村、限界集落、地域づくり、田園回帰、農村政策		
授業の目標 Course Objectives	本授業は、農山村問題と地域づくり・農山村再生に関する入門的な位置づけをもつ。この領域の研究の最新動向にも目を配りながら、関連文献の精読を通じて理解を深める。		
到達目標 Course Goals	農山村が抱える地域問題に関する概括的な知識を修得し、農山村再生の課題と展望に対する問題意識を深める。		
授業計画 Course Schedule	日本の農山村問題入門 限界集落問題 田園回帰の潮流 農山村再生と地域づくり 農村政策		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	予習は必要ないが、配布資料の復習を求める。		
成績評価の基準と方法 Grading System	授業への積極的参加度を50%、期末試験を50%として総合評価する。成績評価は11段階の絶対評価とする。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	テキストは使用しない。適宜、資料を配布する。		
講義指定図書 Reading List	農山村は消滅しない(岩波新書)/小田切徳美:岩波書店, 2014 農山村からの地方再生/小田切徳美ほか:筑波書房, 2018 農村政策の変貌/小田切徳美:農文協, 2021 にぎやかな過疎をつくる/小田切徳美:農文協, 2024		
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	インバウンド・ツーリズム論演習[Inbound Tourism to Japan]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	石黒 侑介 [ISHIGURO Yusuke] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083302
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6430		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 国際観光開発専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	インバウンド・ツーリズム、訪日外国人旅行、観光政策、国際観光、観光マーケティング、プロモーション、デスティネーション・マネジメント、デスティネーション・マーケティング		
授業の目標 Course Objectives	<p>インバウンド・ツーリズムへの社会的関心は、我が国を訪れる外国旅行者数の増加に相まってかつてない水準にまで高まっている。しかしながら、議論の中心は旅行者数の増減やその経済効果に関するものに限られており、国や地域がインバウンド・ツーリズムの推進に取り組む意義や観光政策におけるインバウンド・ツーリズムの位置づけについては、学術・実務の世界において論じられることは極めて少ない。</p> <p>以上の点を踏まえ、本演習ではデスティネーションとしての我が国を俯瞰し国際観光市場におけるその競争力を客観的に評価するための視点を養うとともに、実際に外国人旅行者の誘致・受入のために多様な関係者との合意形成を図りながら試行錯誤を繰り返す、その正負両面の影響を直接的に受ける地域の現状や課題を理解することをその目標とする。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習において受講者は、以下3点の具体的な学習目標に到達することが期待される。</p> <p>(1) 国際観光の動向を踏まえた日本のインバウンド市場の現状と課題について、自らの論点を提示しながら説明できる。</p> <p>(2) 他国の国際観光政策の概要・趨勢を近いし、日本の国際観光政策の特徴を説明できる。</p> <p>(3) インバウンド観光振興のあり方について多角的な視点から論じ、特定の地域におけるインバウンド観光振興策のあり方について具体的な施策の提案ができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>本講義は、大きく3編から構成される。</p> <p>まず、インバウンド・ツーリズムをめぐる様々な事象・テーマを多面的に理解し、学術的な検討を行うための基礎的知識を学ぶ「導入編」、事例研究を通じインバウンド・ツーリズム政策の理論と実践的側面を理解・議論する「事例編」、数人一組のグループによるフィールド・ワークとその成果の取りまとめ・発表を通じた「グループ・ワーク」である。</p> <p><導入編></p> <p>第1週: 講義ガイダンス、講義で扱う題材・問題意識の共有</p> <p>第2週: 国際観光市場の動向と我が国のインバウンド・ツーリズム政策</p> <p>第3週: ツーリズムにおけるインバウンド・ツーリズムの特性</p> <p><事例編></p> <p>第4週: デスティネーションのライフサイクルと分散化</p> <p>第5週: デスティネーションのライフサイクルと分散化__事例: 高山市</p> <p>第6週: イメージの形成</p> <p>第7週: イメージの形成_事例: 山ノ内町(地獄谷野猿公苑)、直島、山崎蒸溜所</p> <p>第8週: デスティネーションと都市_東京都、福岡市</p> <p>第9週: デスティネーションと持続可能性</p> <p>第10週: インバウンド観光と自然遺産(ゲスト講師)</p> <p>第11週: インバウンド観光と文化遺産(ゲスト講師)</p>		

<グループワーク編>

第12週～第13週:現地調査 5月16日-17日(美瑛町を予定)

第14週～15週:成果発表

*現地実習(5月16日-17日)への参加を必須とする。なお、現地調査の旅費として20000円程度の負担(往復のJR、宿泊費、体験料)が生じる。その点、予め留意の上、履修すること。

【注意】例年、国際広報メディア・観光学院の講義スケジュールが他学部と異なる場合があるので、履修を検討する場合は予めメディア・観光学事務部教務担当または担当教員に初回の講義日程を確認すること。

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

講義の内容を踏まえたレポート1枚を作成することを課す

成績評価の基準と方法 Grading System

- ①レポート 20点
- ②プレゼンテーション 40点
- ③講義へのコミットメント 40点

合計100点満点で点数をつける。

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

【注意】例年、国際広報メディア・観光学院の講義スケジュールが他学部と異なる場合があるので、履修を検討する場合は予めメディア・観光学事務部教務担当または担当教員に初回の講義日程を確認すること。

テキスト・教科書 Textbooks

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

英語の文献や資料を利用することもあるので、一定の英語運用能力を前提として講義を進める。

履修者の数に応じて講義の順番や構成を変更することがある。

現地実習は5月24日-25日の1泊2日を予定しています。

科目名 Course Title	文化遺産国際協力論演習[International Cooperation for Cultural Heritage]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	田代 亜紀子 [TASHIRO Akiko] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083304
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6432		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 国際観光開発専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	2 日本語及び英語のバイリンガル授業、受講者決定後に使用言語(日本語又は英語)を決定する授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	ヘリテージ、文化遺産、国際協力、観光、世界遺産		
授業の目標 Course Objectives	<p>現代社会において、過去がどのように扱われているか、取捨選択されているか、いかに「ヘリテージ(遺産)」が創造されていくのか。そして、ヘリテージに対する国際協力はどのように実施されるものなのか。授業では、考古学、文化人類学、社会学、歴史学、政治学、様々な学問分野においてとり扱われるヘリテージの議論をとらえたうえで、ヘリテージを対象とする文化遺産国際協力に焦点を当て、文献と事例研究から検討する。</p> <p>ヘリテージの創造と、その観光活用の背景や過程は地域や国によって大きく違ってくる。また、ユネスコを中心とした国際社会による文化遺産国際協力活動は、観光とヘリテージの関係にも強い影響を与えてきた。本授業では、ヘリテージと観光、文化遺産国際協力が抱える課題を明らかにし、学際的視野をもって検討することを目指す。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>以下の論点について、受講学生が研究に必要な国際的視座をもち、個々の研究に応用できる。</p> <p>(1) ヘリテージと国家の関係 (2) 国際社会、国家、地域社会とヘリテージの関係 (3) 文化遺産国際協力の実践と課題 (4) 文化遺産保存活用における観光の役割と課題</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回 講読 ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体』</p> <p>第3回 講読 エリック・ホブズボウム、テレンス・レンジャー編『創られた伝統』</p> <p>第4回 講読 塩路有子『英国カントリーサイドの民族誌—イングリッシュユネスコの創造と文化遺産』</p> <p>第5回 講読 三浦恵子『アンコール遺産と共に生きる』</p> <p>第6回 講読 荻野昌弘編『文化遺産の社会学』</p> <p>以降は、受講者の研究テーマにより決定 第15回 受講生による研究発表</p> <p>講読予定文献の中で取り上げられる事例は、アジアのものが多くなる。受講者は、それら視座や事例を通し、自らの研究対象地域について分析、考察することが求められる。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	受講者は文献を事前に読んだうえで、授業までに1000字で要約をまとめ、授業で発表し討論することを求められる。		
成績評価の基準と方法 Grading System	各授業での発表レポート(1000字程度)80%、授業に取り組む姿勢(発言の積極性)20%を基準として評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			

詳しい講読文献情報は、授業時に指示する。手に入りにくいものは、教員が用意する。また、受講者決定後に受講者の専門性に考慮して、文献が変更される可能性もある。

No textbook required. Handouts will be distributed.

講義指定図書 Reading List

定本想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行／ベネディクト・アンダーソン著；白石隆，白石さや訳：書籍工房早山，2007

創られた伝統／E・ホブズボウム，T・レンジャー編；前川啓治，梶原景昭他訳：紀伊國屋書店，1992

英国カントリーサイドの民族誌：イングリッシュネスの創造と文化遺産／塩路有子著：明石書店，2003

アンコール遺産と共に生きる／三浦恵子著：めこん，2011

文化遺産の社会学：ルーヴル美術館から原爆ドームまで／荻野昌弘編：新曜社，2002

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

科目名 Course Title	ヘリテージ論演習[Heritage Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	田中 英資 [TANAKA Eisuke] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083305
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6430		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 国際観光開発専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	ヘリテージ、ヘリテージ化、批判的アプローチ、過去の構築、未来創造、情動、場所、物質性、記憶		
授業の目標 Course Objectives	<p>近年のヘリテージ研究では、ヘリテージ(heritage)とは、過去から残ってきたなにかが現在の文脈においてヘリテージとみなされていく社会的な過程、つまり「遺産化(heritagization)」(Walsh 1992)の過程として捉えられるようになっていく。それらの研究の焦点は、いかにヘリテージが人、モノや場所がつくりだす関係性のなかに生じているかに当てられている。この点で、遺産化のプロセスは、それ自身が広義のコミュニケーションとみることができる。</p> <p>本演習の目的は、過程としてのヘリテージという捉え方についての理解を深め、観光の文脈における人、モノ、場所のインタラクションを生み出す要素としてのヘリテージの役割を考えることである。近年のヘリテージについての研究動向を概観し、観光と遺産化の関係の背後にある文化的、社会的なファクターとその相互作用を理論的に考察するための知見を習得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習の到達目標は、以下のとおりである。</p> <p>① ヘリテージに関する近年の研究動向についての基本的な理解を得ること</p> <p>② 過程としてヘリテージという発想(遺産化)から、観光とヘリテージの関係性を考えられるようになること</p> <p>③ 学んだ理論を受講者自身の研究に応用できるようになること</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回 インTRODクシヨン</p> <p>第2回-第8回 テキストの講読: "Heritage: Critical Approaches" (R. Harrison)</p> <p>第9回-第11回 テキストの講読: "Cultural Heritage and the Future" (C. Holtorf & A. Högberg eds.)</p> <p>第12回-第14回 テキストの講読: "Heritage, Affect and Emotion" (D. P. Tolia-Kelly, E. Waterton, & S. Watson eds.)</p> <p>第15回 授業のまとめ</p> <p>前半は "Heritage: Critical Approaches" を講読し、内容について議論する。後半の講読予定文献については、参加者の研究関心によって適宜変更する。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>受講者は文献を事前に読んだうえで、授業中に発表し討論することを求められる。リーディングリストは、初回の授業で配布する。</p>		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>授業への参加態度、発表の内容、学期末レポートに基づき評価する。</p> <p>授業への参加態度(発言の積極性等): 40%</p> <p>プレゼンテーション: 40%</p> <p>期末レポート: 20%</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

テキスト・教科書 Textbooks

詳しい講読文献情報は、授業時に指示する。手に入りにくいものは、教員が用意する。また、受講者決定後に受講者の専門性に考慮して、文献が変更される可能性もある。

No textbook required. Reading materials will be distributed.

講義指定図書 Reading List

Heritage: Critical Approaches./Harrison, R:Oxford and New York: Routledge., 2013

文化遺産(ヘリテージ)といかに向き合うのか―「対話的モデル」から考える持続可能な未来/ハリソン, ロドニー【著】/木村 至聖他【訳】:ミネルヴァ書房, 2023

The Palgrave Handbook of Contemporary Heritage Research/Waterton, E and Watson, S:Palgrave Macmillan, 2015

The Heritage Reader/Fairclough, G., Harrison, R. , Jameson Jr., J. H., and Schofield, J. (eds):Routledge, 2008

Cultural heritage and the future/Cornelius, H and Högberg, A (eds):Routledge, 2021

文化遺産(ヘリテージ)との関わり方がつくる未来―保存/活用の二元論の先に/平井健文・田中英資(編):ミネルヴァ書房, 2026

参照ホームページ Websites**研究室のホームページ Websites of Laboratory****備考 Additional Information**

科目名 Course Title	文化資源マネジメント論演習[Cultural Resource Management]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	未定 (国際広報メディア・観光学院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083307
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6430		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	3 国際観光開発専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information	R7 入学者は【世界遺産マネジメント論演習】に読み替え		
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	文化資源／文化資源マネジメント／ヘリテージ・マネジメント／フィールドワーク／観察と記録／価値／解釈／利用管理／リスクと脆弱性／ステークホルダー／有形・無形文化資源／都市・産業・制度・生活文化／保全と活用のバランス		
授業の目標 Course Objectives	<p>本授業は、世界遺産に限られない広い射程で「文化資源」を捉え、現地観察と比較を通じて、文化資源がどのように成立し、語られ、利用され、管理されているのかを実践的に理解することを目標とする。授業では、都市的景観、産業・開発の記憶、博物館・アーカイブ等の制度的資源、生活文化やイベント等の無形資源、自然-文化の境界にある空間など、複数タイプの文化資源を対象にフィールドワークを重ねる。観察結果をもとに、資源要素の整理、価値の言語化、利用の把握、リスクの診断、管理上の選択肢の検討を段階的に行い、タイプ別の管理の観点(チェックポイント)としてまとめる。最終的には、根拠にもとづいて文化資源を説明し、管理課題を明確化し、現実的かつ倫理に配慮した提案へとつなげる力を養う。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>① 文化資源を有形・無形／制度・生活／自然-文化境界など複数の観点から説明できる。 ② 現地観察にもとづき、資源要素の棚卸し(何が資源か)を作成できる。 ③ 価値と利用を整理し、管理課題として言語化できる。 ④ リスク・脆弱性を指摘し、実現可能性と倫理に配慮した管理の選択肢を提案できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回(教室): ガイダンス／文化資源の射程(有形・無形・景観・記憶・制度) 第2回(教室): 現地調査の基本(観察・記録・写真ログ・地図化)／安全・倫理 第3回(フィールド①): 都市的景観・近代的環境の観察 第4回(フィールド②): 産業・開発の記憶をもつ空間の観察 第5回(教室): 整理①(事例カード作成／価値の言語化／次回の観察問い設定) 第6回(フィールド③): 博物館・アーカイブ等(制度的資源)の観察 第7回(教室): 整理②(制度型資源の管理課題／ステークホルダー整理) 第8回(フィールド④): 自然-文化境界の空間観察①(動線・利用・ルール of の働き) 第9回(フィールド⑤): 自然-文化境界の空間観察②(情報・解釈・サイン等の点検) 第10回(教室): 整理③(価値の衝突／利用管理の論点／優先課題の確定) 第11回(フィールド⑥): 近郊の歴史的環境(産業・交通・港湾等の記憶)の観察と比較 第12回(フィールド⑦): 無形／生活文化(イベント・実践・食など)の運営・秩序の観察 第13回(教室): 統合(タイプ別チェックポイント作成／比較マトリクス作成) 第14回(フィールド⑧): 検証回(提案・チェックポイントを現地に当てて最終修正) 第15回(教室): 最終発表／成果物提出／振り返り ※天候・行事等により一部調整の可能性あり。場所名は年度ごとに設定</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>予習: 配布資料(各フィールドの背景)を読み、観察ポイントを2～3点準備。 フィールド後: 写真ログ整理＋観察メモ(600～900字程度)＋事例カード下書き。 統合回(第13～15回): 比較マトリクス更新、チェックポイント文章化、発表準備。</p>		

<p>成績評価の基準と方法 Grading System 参加・討議・現地活動への貢献:25% フィールド記録(写真ログ+観察メモ)・小課題:25% 成果物(事例カード集/比較マトリクス/タイプ別チェックポイント+提案):40% 最終発表(質疑応答を含む):10%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 指定教科書なし。資料は授業内で配布(ELMS)。</p>
<p>講義指定図書 Reading List 指定図書なし(回ごとに参考文献・資料を提示)。</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory UNESCO/ICOMOS等のヘリテージ関連機関 文化政策・文化財関連の公的情報(国内外) 自治体の文化資源・公園・施設運営に関する情報(年度対象に応じて)</p>
<p>備考 Additional Information 観光学高等研究センター: http://www.cats.hokudai.ac.jp</p>

科目名 Course Title	社会調査法 I (定性・フィールドワーク)[Social Research Methods : Qualitative, Fieldwork]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	張 ジュヒョク [JANG Juhyeok] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083308
期間 Semester	1 学期 (春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5100		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 基礎共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	社会調査、インタビュー、参与観察、フィールドワーク、エスノグラフ、まちづくり、地域づくり、公共人類学、企業、インターネット技術、マルチメディア技術、社会学、人類学、観光学、宗教学、生活文化、環境問題、地域社会、理論と仮説、研究類型、データの記述、データからの推測、検定、相関、単回帰、重回帰		
授業の目標 Course Objectives	この授業では、「人間とその行動」を対象とする観光、広報メディア、コミュニケーション、言語教育などの学問領域で必要とされる定性的および定量的研究の基礎を習得することを目指す。まず、質的社会調査の基本概念を理解し、フィールドワークを含む定性的データの収集・分析・活用プロセスを学ぶことで、具体的な研究対象に対して社会調査を実施するために必要な知識と技術を身につける。また、研究論文を理解するための方法論を学びながら、定量的なデータ分析の基礎を実践的に身につける。		
到達目標 Course Goals	この授業では、以下の目標を達成することを到達目標とする。 ①社会調査法の基本概念を理解し、社会調査のプロセスを把握して、適切な先行研究の調査を通じて自らの研究計画を立案し、実践できるようになる。 ②質的データの収集・分析・利用・保存に関する技法を理解し、修士論文研究において社会調査を有効に実施し活用できるようになる。 ③平均の差や変数間の関連性を分析し、母集団における関連や影響を検討できるようになる。		
授業計画 Course Schedule	この授業は、前半 4 回分は定性調査、後半 4 回分は定量調査に関する内容を取り扱う。 ① 観光まちづくりにおける質的研究(上田裕文、4/9) 観光まちづくりにおける質的研究のデザインとプロセスについて学ぶ。 ②観光地における地域イメージの分析(上田裕文、4/16) 地域における空間認識や、場所のイメージ形成について、その調査手法と分析手法を学ぶ。 ③フィールドワークと民族誌(天田顕徳、4/23) 民族学および民俗学の歴史を概観しながら、研究方法としての「フィールドワーク」や「民族誌」の特性や課題について学ぶ ④マルチメディア技術を用いた社会調査(田邊鉄、5/7) 質的データの収集・利用・保存について、生成 AI を含む情報技術の進歩を視野に入れながら検討する。 ⑤統計基礎と記述統計(于海春、5/14) 帰無仮説、対立仮説、記述統計量、有意確率など、定量研究の基礎概念について学ぶ。また、量的データの特徴をまとめる記		

<p>述統計の標準的方法と、母集団の特徴を標本の観測データから推論する推測統計の基本的仕組みを学ぶ。具体的には、代表値、散布度、正規分布、母集団とサンプリング、統計的検定の手続き等が講義される。</p> <p>⑥検定(于海春、5/21) 2 群間の平均の差の検討方法(t 検定)を学習し、母集団における関連や影響を検討する方法を学ぶ。</p> <p>⑦分散分析と相関分析(張ジュヒョク、5/28) 3 群間以上の平均の差の検討方法(分散分析)を学習し、母集団における関連や影響を検討する方法を学ぶ。なお、変数間の線形関係を確認する方法である相関分析について学ぶ。</p> <p>⑧回帰分析(張ジュヒョク、6/4) 独立変数が従属変数へ及ぼす影響を確認する回帰分析について学ぶ。具体的には、単回帰分析、重回帰分析等が講義される。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 各回の講義テーマに応じて、各担当者教員が受講者に読むべき参考文献・資料をアナウンスするので、必要に応じて予習・復習を行うこと。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System ※ 全 8 回の授業で各担当教員が課す小課題によって評価を行う(12.5 点×8 回=100 点)。 ※ 小課題の内容および提出方法については、各回の担当教員が指示する。 ※ 授業を欠席した場合は、各担当教員の指示に従うこと。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 各担当教員が、資料や PDF を事前に Moodle で配布する予定 Each instructor plans to distribute materials and PDFs in advance via Moodle.</p>
<p>講義指定図書 Reading List 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方／脇田貴文・浦上昌則：東京図書，2011</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	社会調査法Ⅱ(定量・データマイニング)[Social Research Methods : Quantative, Data Mining]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	張 ジュヒョク [JANG Juhyeok](大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083309
期間 Semester	1学期(春ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5100		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 基礎共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	社会調査、インタビュー、参与観察、フィールドワーク、エスノグラフ、まちづくり、地域づくり、公共人類学、企業、インターネット技術、マルチメディア技術、社会学、人類学、観光学、宗教学、生活文化、環境問題、地域社会、理論と仮説、研究類型、データの記述、データからの推測、検定、相関、単回帰、重回帰		
授業の目標 Course Objectives	この授業では、「人間とその行動」を対象とする観光、広報メディア、コミュニケーション、言語教育などの学問領域で必要とされる定性的および定量的研究の基礎を習得することを目指す。まず、質的社会調査の基本概念を理解し、フィールドワークを含む定性的データの収集・分析・活用プロセスを学ぶことで、具体的な研究対象に対して社会調査を実施するために必要な知識と技術を身につける。また、研究論文を理解するための方法論を学びながら、定量的なデータ分析の基礎を実践的に身につける。		
到達目標 Course Goals	この授業では、以下の目標を達成することを到達目標とする。 ①社会調査法の基本概念を理解し、社会調査のプロセスを把握して、適切な先行研究の調査を通じて自らの研究計画を立案し、実践できるようになる。 ②質的データの収集・分析・利用・保存に関する技法を理解し、修士論文研究において社会調査を有効に実施し活用できるようになる。 ③平均の差や変数間の関連性を分析し、母集団における関連や影響を検討できるようになる。		
授業計画 Course Schedule	この授業は、前半4回分は定性調査、後半4回分は定量調査に関する内容を取り扱う。 ①観光まちづくりにおける質的研究(上田裕文、4/9) 観光まちづくりにおける質的研究のデザインとプロセスについて学ぶ。 ②観光地における地域イメージの分析(上田裕文、4/16) 地域における空間認識や、場所のイメージ形成について、その調査手法と分析手法を学ぶ。 ③フィールドワークと民族誌(天田顕徳、4/23) 民族学および民俗学の歴史を概観しながら、研究方法としての「フィールドワーク」や「民族誌」の特性や課題について学ぶ ④マルチメディア技術を用いた社会調査(田邊鉄、5/7) 質的データの収集・利用・保存について、生成AIを含む情報技術の進歩を視野に入れながら検討する。 ⑤統計基礎と記述統計(于海春、5/14) 帰無仮説、対立仮説、記述統計量、有意確率など、定量研究の基礎概念について学ぶ。また、量的データの特徴をまとめる記		

<p>述統計の標準的方法と、母集団の特徴を標本の観測データから推論する推測統計の基本的仕組みを学ぶ。具体的には、代表値、散布度、正規分布、母集団とサンプリング、統計的検定の手続き等が講義される。</p> <p>⑥検定(于海春、5/21) 2 群間の平均の差の検討方法(t 検定)を学習し、母集団における関連や影響を検討する方法を学ぶ。</p> <p>⑦分散分析と相関分析(張ジュヒョク、5/28) 3 群間以上の平均の差の検討方法(分散分析)を学習し、母集団における関連や影響を検討する方法を学ぶ。なお、変数間の線形関係を確認する方法である相関分析について学ぶ。</p> <p>⑧回帰分析(張ジュヒョク、6/4) 独立変数が従属変数へ及ぼす影響を確認する回帰分析について学ぶ。具体的には、単回帰分析、重回帰分析等が講義される。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 各回の講義テーマに応じて、各担当者教員が受講者に読むべき参考文献・資料をアナウンスするので、必要に応じて予習・復習を行うこと。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System ※ 全 8 回の授業で各担当教員が課す小課題によって評価を行う(12.5 点×8 回=100 点)。 ※ 小課題の内容および提出方法については、各回の担当教員が指示する。 ※ 授業を欠席した場合は、各担当教員の指示に従うこと。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 各担当教員が、資料や PDF を事前に Moodle で配布する予定 Each instructor plans to distribute materials and PDFs in advance via Moodle.</p>
<p>講義指定図書 Reading List 心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方／脇田貴文・浦上昌則：東京図書，2011</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	情報メディアと観光[Information Media and Tourism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	山村 高淑 [YAMAMURA Takayoshi] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083310
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 5110		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	5 大学院(修士・専門職)専門科目(基礎的な内容の科目)、大学院共通授業科目		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	1 共通科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 専門共通科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information	R7 より「メディア文化と観光」に統合		
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	メディア文化、観光、観光のまなざし、語り、自己と他者、ヘリテージ、音楽、観光空間、メディア表象、場所性、展示とインタープリテーション、ツーリストアート、メディアコンテンツ、場所と体験のメディア化、モビリティ、空港		
授業の目標 Course Objectives	本科目では、人や情報のモビリティがますます高まる現代社会における、メディア文化と観光との関係性を多角的に捉える基本的視座を修得することを目的として、分野横断的研究を行なっている 8 名の教員によるオムニバス形式の講義を行なう。具体的には、観光現象を、メディアをとりまく文化現象、すなわちメディア文化の文脈から捉えなおすことで、ボーダレスなコミュニケーションや文化越境の進展が具体的場所に結びつきながら展開している現代の状況を読み解く力を身に付けることを目標とする。		
到達目標 Course Goals	講義を通して、受講者が以下の 3 項目を身に付けることを到達目標とする。 1) 多様な観光現象を、メディアをとりまく文化現象(メディア文化)の文脈から理解し、言語化して説明できること。 2) メディアと観光の関連性について、実生活の中にあるボーダレスなコミュニケーションや文化越境の具体例を通して、わかりやすく説明できること。 3) 授業で紹介した様々な概念を用いて、メディア文化と観光の接合領域における諸現象について、その将来展望と課題について、論じることができること。		
授業計画 Course Schedule	授業はオムニバスによる講義、及び、質疑応答、ディスカッションにより双方向的に進めます。講義の順序は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。 第 1 回 インTRODクシヨン(山村)……6 月 9 日(火) ・本講義の目的、内容を受講者に説明するとともに、メディア文化と観光との関係性に注目することの意義を社会文化史的に概説する。 第 2 回 メディア表象と場所性(岡本)……6 月 16 日(火) ・メディアによる表象やその背後にある社会政治的な文脈が場所性にいかなる影響を与えるのかについて、宗教観光論の観点から概説する。 第 3 回 音楽とツーリズム(金)……6 月 23 日(火) ・音(楽)とツーリズムの相互作用が、いかなるモノと実践、風景と場所性、世界観と感覚、移動と関係性を生み出すのかについて、音楽ツーリズム論の観点から考える。 第 4 回 展示とインタープリテーション、ツーリストアート(山崎)……6 月 30 日(火) ・観光における重要なコンテンツのひとつである博物館等における展示やインタープリテーションについて、メディアと観光との関わりから考察する。また、観光地におけるお土産品(ツーリストアート)に着目し、メディアとしての視点から、モノおよび、それを		

<p>媒介にして生み出される現象について考察する。</p> <p>第5回 メディアとしてのヘリテージ(田中)……7月7日(火) ・本講義では、保護・保全の対象としてというよりも社会的過程としてヘリテージ(遺産)を捉える近年の研究動向をふまえ、観光の文脈においてヘリテージが過去、現在、未来をつなぐメディアとしていかに機能しているかについて検討する。</p> <p>第6回 情報メディアと歴史(天田)……7月14日(火) ・歴史を題材とした観光と新しい情報メディアの関係に光を当て、現状と課題を整理する。</p> <p>第7回 観光の「経路」とメディア(石野)……7月21日(火) ・空港ターミナル内にて近年展開している商業広告、アート作品、案内表示板やサインシステムなどの「空港メディア」に着目し、移動／観光の「経路」におけるメディアと文化表象、まなざし、旅行者の経験について批判的モビリティ・スタディーズの観点から検討する。</p> <p>第8回 ソーシャルメディアとデスティネーション・マーケティング(ONG)……7月28日(火) ・ソーシャルメディアにおけるデスティネーションマーケティングの情報の影響を説得的コミュニケーションモデルに基づいて検討する。また、ソーシャルメディアにおけるデスティネーションの情報の影響について、消費者の感知や態度と意図に注目して検討する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 各回の講義テーマに応じて、適宜、受講者が読むべき参考文献・資料を通知するので、必要に応じて予習・復習を行なうこと。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 各担当教員ごとに提出するレスポンスペーパー(講義内容へのコメント等)80%、授業に取り組む姿勢(発言の積極性等)20%を基準として評価する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements 他学部履修を希望するものは担当教員の内諾が必要。</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory 北海道大学観光学高等研究センター: https://www.cats.hokudai.ac.jp/ 北海道大学メディア・コミュニケーション研究院: https://www.imc.hokudai.ac.jp/rfinc/ 北海道大学アイヌ・先住民研究センター: https://www.cais.hokudai.ac.jp/</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	メディア観光表象論演習[Media and Tourism Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	中山 千尋 [NAKAYAMA Chihiro] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083311
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6202		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	2 コース融合専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	0 コース融合専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	2 日本語及び英語のバイリンガル授業、受講者決定後に使用言語(日本語又は英語)を決定する授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information	科目名変更。2025年度以降入学者は「メディア観光論演習」		
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	マーケティング、ビジネス、価値共創、ケーススタディ、国際マーケティング、メディア、観光、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズム		
授業の目標 Course Objectives	本コースでは、観光マーケティング、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズムのプロセス、およびこれらの分野の基盤となる理論と枠組みの理論的基礎を理解します。様々な研究リソースを通じて、批判的思考力と評価力を養い、マーケティングの原則を複数の実世界のビジネス事例に応用します。		
到達目標 Course Goals	本コース修了後、以下の能力を身につけます。 —観光マーケティング、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズムの特徴を分析できる —実社会における観光マーケティングの理解を示すことができる —様々なビジネスにおけるマーケティング事例に関連フレームワークを適用できる		
授業計画 Course Schedule	本コースは目標達成のため、以下のセクションに分類されます： 1. 観光マーケティングの理論的理解：学生は観光マーケティング、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズムを評価する理論と枠組みに関する知識を習得します。 2. 観光マーケティング研究の応用：学生は観光マーケティング、フィルムツーリズム、持続可能な観光といった異なる研究分野において、理論がどのように応用・実施されてきたかを示します。 3. 観光マーケティング研究の評価：学生は研究と実践のスキルを習得し、観光マーケティング、デスティネーション・マーケティング、フィルムツーリズムに関する研究を創造・評価する。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	関連文献の読解と復習を強く推奨する。		
成績評価の基準と方法 Grading System	文献レビュー論文 30%、出席・授業内活動 30%、プレゼンテーション 40%		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	※特になし。講義ごとに資料やPDFが指示もしくは配布される。		
講義指定図書 Reading List	授業中に随時紹介。		
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			
備考 Additional Information			

科目名 Course Title	観光デザイン論演習[Creative Tourism Design]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	木村 宏 [KIMURA Hiroshi] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083313
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6420		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	2 観光地域経営専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information	2025 年度以降入学者は「アドベンチャーツーリズム論演習」		
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光ビジネスプロデュース・コーディネーション、広報、ライフスタイルツーリズム		
授業の目標 Course Objectives	<p>「スポーツを通じて、豊かで健やかな暮らしを実現する」という企業理念を掲げるスポーツアパレル企業(株)ゴールドウインが、国策となったアドベンチャーツーリズム(AT)について、どのような関係性を持ち地域や社会に貢献しているのかを検証する。</p> <p>ATの要件であるアクティビティ、自然、文化体験を融合した体験プログラムや企画に加え、地域におけるアウトドア関連施設・店舗の運営、商品の開発やスポーツを通じたライフスタイルの提案等の具体的なノウハウを習得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツアパレル業界が果たすATへの貢献を理解する。 ・デスティネーションそのものが暮らしの場所であり、旅することが日常生活の延長にある旅のスタイル(ライフスタイルツーリズム)を深堀する。 		
授業計画 Course Schedule	<p>※土曜日(4日間)の集中開催及びフィールドワーク(2泊3日)、公开发表(シンポジウム)で構成される。</p> <p>第1～2回 インTRODクシヨン アドベンチャーツーリズム(AT)の展開について 国及び北海道のATの戦略 株式会社ゴールドウインの歩みと地球環境の改善に挑戦する企業戦略</p> <p>第3～4回 ATのツアー商品戦略 スポーツの原点を追求したPLAY EARTH事業の展開 ライフスタイルツーリズムの展望</p> <p>第5～6回 国立公園や地域におけるATの実践 フィールドワークの事前準備</p> <p>第7～11回 フィールドワーク(企業と連携した観光地創造の検証と考察) 民間事業者と自治体との連携により展開している、道内の国立公園の魅力や価値の向上・環境保全のための取り組み、アウトドア・アクティビティの促進、未来を背負う子供たちの自然体験活動の場の創出、地域産業との連携および、その目標を達成するための、マーケティング、ブランディング及びプロモーションについて、企業のトップや地域の関係者から直接話を聞き、また、実践現場を訪問し産官連携による地域活性化のプロセスと実践を検証する。</p> <p>第12、13回 フィールドワークのまとめとシンポジウムの発表準備</p>		

<p>第 14、15 回 産官学連携による AT の推進に向けて(公開発表方式を予定)</p> <p>※スケジュール及び講義内容の詳細は変更となる場合があるので留意すること。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 初回の講義にて説明する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 出席は授業回数の70%を評価条件とし、授業への参加態度(発言や討議についての積極性)40%、フィールドワークにおける提案・参加姿勢30%、レポート、発表の内容30%とし総合的に判断する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information フィールドワークは 10～11 月週末(金土日)の 2 泊 3 日を予定している。旅費については原則自己負担となるので留意されたい。</p>

科目名 Course Title	エコツーリズム論演習[Ecotourism Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	上田 裕文 [UEDA Hirofumi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083314
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6410		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	4 観光創造研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 交流共創専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information	2025 年度以降入学者は「森林美学演習」		
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
森林美学、森林風致、自然資源マネジメント、地域社会、ランドスケープ計画			
授業の目標 Course Objectives			
森林美学の系譜とその今日的意義、実践手法としての森林風致計画の理念を学ぶ。森林の多面的機能や生態系サービス、森林サービス産業について、実習を通して実践的に学ぶ。			
到達目標 Course Goals			
本演習を受講した学生は、以下の学習目標に到達することが期待される。			
(1) 森林美学の概念を理解し、持続可能な森林管理のあり方を説明できる。			
(2) 国内外における森林サービス産業の現状と課題について、自ら分析・評価することができる。			
(3) 地域の課題を解決する森林サービス産業を構想し、説得力のあるプレゼンテーションができる。			
授業計画 Course Schedule			
座学と実習の2セッションに大別し、授業を行う。			
第1セッション: 森林美学の概要			
第1回 6/17 座学 森林美学の概要			
第2回 6/24 座学 ドイツの森林美学			
第3回 7/1 座学 日本の森林美学			
第4回 7/8 座学 景観把握			
第5回 7/15 座学 景観評価の事例			
第6回 7/29 座学 森林サービス産業			
第2セッション: 森林に関するフィールド実習			
第7-15回 フィールド実習 北海道大学苫小牧研究林または東京大学富良野演習林(8月前半2泊3日)			
なお、授業の実施順序やフィールド実習地を都合により変更する場合は適宜、事前に通知する。			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
文献調査やフィールド実習の事前準備、データのとりまとめやプレゼンテーション作成など、授業時間内で終わらなかった分は宿題となる			
成績評価の基準と方法 Grading System			
以下の内容を総合して評価を行う。			
(1) 議論とフィールド実習への積極的な取り組み姿勢 30%			
(2) レポート課題 20%			
(2) 最終プレゼンテーション 50%			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
森林生態系の保全管理 / 上田裕文・梶光一・宮本敏澄・小池孝良編著: 共立出版, 2025			

講義指定図書 Reading List

森林風景計画学／塩田 敏志 編:地球社, 2008

森林美学／小池孝良・清水裕子・伊藤太一・芝 正己・伊藤精悟 監訳:海青社, 2018

森への働きかけ: 森林美学の新体系構築に向けて／湊克之 編:海青社, 2010

復刻版・森林美学／新島善直・村山醸造:北大図書刊行会, 1991

参照ホームページ Websites**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

<https://www.imc.hokudai.ac.jp/imcts/teacher/001170.html>

備考 Additional Information

講義は6月17日よりスタートし、フィールド実習(8月前半2泊3日の予定)を含みます。

科目名 Course Title	ソーシャルメディア論演習[Social Media]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	于 海春 [YU Haichun] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083315
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	1～
対象学科・クラス Eligible Department/Class	国際広報メディア・観光学専攻		
ナンバリングコード Numbering Code	IMC_MCTS 6310		
大分類コード・名 Major Category Code, Title	IMC_MCTS International Media, Communication_Media, Communication and Tourism Studies		
開講部局	国際広報メディア・観光学院(国際広報メディア・観光学専攻)		
レベルコード・レベル Level Code, Level	6 大学院(修士・専門職)専門科目(発展的な内容の科目、研究指導科目)		
中分類コード・名 Middle Category Code, Title	3 国際広報メディア研究コース専門科目		
小分類コード・名 Small Category Code, Title	1 公共ジャーナリズム専門科目		
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information	2025 年度以降入学者は「政治コミュニケーション論演習」		
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
マスメディア、ソーシャルメディア、量的テキスト分析、内容分析			
授業の目標 Course Objectives			
本演習では、修士論文および博士論文の作成に必要な実証分析の方法論を学びます。近年、インターネットを中心とするニューメディアの発展により、情報伝達のあり方が大きく変容しています。本授業では、政治と情報環境の変化・多様化を踏まえ、政治コミュニケーション研究における実証的な分析力の習得を目指します。特に、メディアデータの量的分析に焦点を当て、その基本的な手法と応用について解説します。			
到達目標 Course Goals			
本演習の到達目標は、受講者がメディアデータを実証的に分析する手法を習得することです。特に、テキストデータの収集・整理・分析のスキルを身につけることを重視します。具体的な到達目標は以下の3点です。			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 実証分析手法の基本概念とその特徴を理解する 2. メディアデータを適切に収集し、体系的かつ数量的に処理・分析できる 3. 政治コミュニケーション研究において、量的テキスト分析の手法を適用し、実証的な研究を展開できる 			
授業計画 Course Schedule			
導入編			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業全体のイントロダクション 2. メディア効果論 3. メディアと政治の関係 4. 権威主義体制とメディア 			
方法論編			
<ol style="list-style-type: none"> 5. 内容分析の基礎 6. 量的テキスト分析の基礎 7. 量的テキスト分析最新の研究動向と課題 			
実践編(Rを用いた分析演習)			
<ol style="list-style-type: none"> 8. データ収集と前処理 9. Rの基本操作とデータの取り扱い 10. 形態素解析と単語の抽出 11. 頻度分析と単語の出現パターン 12. スケーリング 13. LDAトピックモデルによるトピックの抽出 			
成果発表編			
<ol style="list-style-type: none"> 14. 研究発表とフィードバック(1) 15. 研究発表とフィードバック(2) 			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
授業前には、指定された資料を読んで予習すること。 講義毎に宿題を出すので期限までに提出すること。			

<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>(1) 平常点評価(40%): 講義への参加状況、講義への貢献度、宿題をもとに評価する。</p> <p>(2) 期末課題(60%): 講義終了時に短いレポートを提出してもらう。受講者が講義で学んだ量的テキスト分析の手法を活かして、各自で関心を持つテーマで分析を実行できているか、分析結果を適切に解釈できているかを中心に評価する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p> <p>内容分析の方法／有馬明恵:ナカニシヤ, 2021</p> <p>中国のメディア統制—地域間の「不均等な自由」を生む政治と市場／于海春:勁草書房, 2023</p> <p>内容分析の進め方:メディア・メッセージを読み解く／ダニエル・リフ他、日野愛郎監訳:勁草書房, 2018</p> <p>社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して／樋口耕一:ナカニシヤ出版, 2014</p> <p>はじめての RStudio: エラーメッセージなんかこわくない／浅野正彦・中村公亮:オーム社, 2018</p> <p>リーディングス政治コミュニケーション／谷藤悦史・大石裕:一藝社, 2022</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>講義の後半にパソコンによる実習という形式で進行します。実習ではフリーソフトの「R」を利用します。</p>

科目名 Course Title	観光地域マネジメント論演習【履修証明プログラム】[Destination Management Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小泉 大輔 [KOIZUMI Daisuke] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083401
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光地域づくり、観光計画、観光推進組織 (DMO、観光協会)、着地型観光 (着地型旅行商品)、地域連携、観光交通マネジメント、地域交流拠点、観光人材、観光財源、環境保全		
授業の目標 Course Objectives	<p>観光を通じて地域をいかにマネジメント (地域経営、協働、連携と言った広範な概念を含む言葉として捉える) していくかについて実践的に考察、検証することを目標とし、そのために必要な基礎知識を習得し、実際の地域で生じている多様な課題を把握しその解決方法を提示するために求められる視点の獲得を目指す。</p> <p>なお、本演習は、主として社会人等を対象とした履修証明プログラム (デスティネーション・マネージャー育成プログラム) の必修科目と兼ねて開講される。</p>		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地域マネジメントの多面的な役割について理解し、説明ができる。 ・地域の特性を踏まえ、新たな観光関連事業を立案、実現することができる。 ・地域の観光推進体制を評価、分析し、望ましいビジョンを構想することができる。 		
授業計画 Course Schedule	<p>I ガイダンス (第 1 回)</p> <p>講義の目的、構成、進め方、評価方法、フィールドワークについての詳細を説明する。</p> <p>II 観光地域マネジメントに関する現状と課題 (第 2～6 回)</p> <p>観光地域マネジメントの有する多面的な役割を理解するため、具体的なテーマを設定して講義、考察する。例として以下のものを挙げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な主体による観光地域マネジメントとそれに関係するモノ、人、コト ・地域資源の発掘と体験プログラムの開発方法を地域住民とともに発掘し、商品化するプロセス ・着地型旅行商品の定義や旅行会社と地域の関連性、催行の方法やその課題 ・観光協会や観光案内所の運営や地域づくりの主体となる観光推進組織や道の駅の役割 ・地域における宿泊施設の果たす役割や交通事業者の経営戦略など ・「農泊」事業の展開 <p>III フィールドワーク (第 7 回～第 12 回)</p> <p>観光地域づくりに取り組む北海道内の特定地域を訪ね、その実態を調査し検証する。事前に情報収集を行った上で、現地では行政や観光関連事業者、地域住民等へのヒアリングや意見交換を行い、グループワークを通じて具体的な政策立案や事業企画を模擬的に作成し、現地関係者に対して提案する。</p> <p>IV 総括 (第 13 回～第 15 回)</p> <p>観光地域マネジメントのあり方について、講義やフィールドワークを通じて学び得たことを基に議論し、グループごとに取りまとめる。最終回にはその成果発表を講演会形式で実施する。</p>		
準備学習 (予習・復習) 等の内容と分量 Homework			

<ul style="list-style-type: none"> ・本演習はグループワークを基本とし、討議や発表を行う。 ・フィールドワークでは、事前に訪問地の概要について下調べをしておくことを前提とし、終了後には、課題に沿ったレポートや提案書、企画書等の提出をグループ毎に求める。
成績評価の基準と方法 Grading System 出席は授業回数の70%を評価条件とし、授業への参加態度(発言や討議についての積極性)40%、フィールドワークにおける提案・参加姿勢30%、レポート、発表の内容30%とし総合的に判断する。
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements
テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information フィールドワークについては、開講曜日とは別日程にて2泊3日を実施する計画である(道内を予定)。旅費については原則自己負担となるので留意されたい。本科目の根幹をなす内容となるため必ず参加すること。 詳細については、ガイダンス時に示す。

科目名 Course Title	観光マーケティング論演習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	神山 裕之 [KAMIYAMA Hiroyuki] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083402
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	<p>デスティネーションマーケティング、ツーリズムマーケティング、デジタルマーケティング、地域マーケティング、地域ブランディング、デスティネーションマーケティング・プラン、ツーリズムマーケティング・プラン、マーケティング・フレームワーク、観光統計、財務会計</p>		
授業の目標 Course Objectives	<p>本演習では世界的に進化しつつある観光にかかわるマーケティングの基礎理論・手法・フレームワークを学び、それに基づく観光(デスティネーション)マーケティングのマネジメント方法を理解する。それらを踏まえて、受講生は、国内の観光地域を想定した観光(デスティネーション)マーケティング・プランをグループならびに個人によって作成・発表する。</p> <p>以上を通して、受講生は観光(地域)におけるマーケティングをプランニングし、マネジメントするための基礎的知識とノウハウを身に着けることができる。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習における、受講生の到達目標を以下のとおりとする。</p> <p>(1) 各種マーケティング理論・手法についての基礎的な知識を、観光分野のマーケティングに適用できる。</p> <p>(2) マーケティング理論に基づいた、観光(デスティネーション)マーケティングのフレームワークと内容を理解し、実践に応用できる。</p> <p>(3) 特定の観光地域における観光(デスティネーション)マーケティング・プランのひな形を策定することができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>前半のセッションでは、マーケティングの理論・手法・フレームワークを演習を通じて学ぶ。</p> <p>後半のセッションでは、それらの知識・知見をもとに、国内の観光地域を想定した観光(デスティネーション)マーケティング・プランをグループによって作成し、発表する。</p> <p>第1セッション:観光マーケティングの理論・手法を学ぶ(概ね1～7週)</p> <p>マーケティングの定義、マーケティングの各種手法やフレームワークを観光分野に当てはめて、演習を通じて実践的に学ぶ。あわせて各種観光統計、戦略策定のフレームワーク・考え方等についても学び、どのように理論的なフレームを実務に活用するのかといったことを学ぶ。</p> <p>第2セッション:グループワークを通じて、実際にデスティネーション・マーケティングプランを作成する(概ね8～15週)</p> <p>第1セッションで得た知識・知見を踏まえて、受講生がグループの作業によって、国内の観光地域を想定した観光(デスティネーション)マーケティング・プランを作成する。</p> <p>マーケティング・プランの構成にあたって必要な項目や手法等については、講師からその都度知見を提供する。</p> <p>作成した観光(デスティネーション)マーケティング・プランを、演習の場で発表し、それに対する質疑・討議を行う。</p> <p>なお、3回程度外部の講師による特別講演を実施する可能性がある。</p>		

<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 学生には、最終発表に備えて、その準備をグループごとに行うことが求められる。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 次の点を総合的に評価する。試験は行わない。</p> <p>演習の成果として、グループワークにより観光(デスティネーション)マーケティングプランを作成・発表するがその際に到達目標の各視点がどの程度反映されているのかといった点で評価を行う。またこれとは別に個人で作成するレポートも評価対象となる。</p> <p>(1)グループワーク・レポート(マーケティングや戦略立案に関するフレームワークの理解力と応用力、観光統計等の定量分析の理解力と応用力) (2)個人レポート(マーケティングや戦略立案に関するフレームワークの理解力と応用力、観光統計等の定量分析の理解力と応用力)</p> <p>評価の基準は以下のとおりである。</p> <p>上記項目の評価の比率は(1)=50%、(2)=50%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 演習時に指示を行う。To be announced at the class room.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information 場合によってゲストによる特別講演を実施する。また、教員が出張時には遠隔授業等を実施する場合がある。</p>

科目名 Course Title	DMO 運営実践講習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小泉 大輔 [KOIZUMI Daisuke] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083403
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
経営戦略、事業計画、法務管理、財務管理、労務管理、知的財産管理、危機管理			
授業の目標 Course Objectives			
主として実践的な組織経営の視点に立ち、DMO に必要とされる①組織の立ち上げに求められる経営戦略・事業計画の立案・策定手法、②組織運営に求められる法務、財務、労務、知的財産管理、③感染症や災害に対する危機管理に関する知識の習得を目指す。特に専門性の高い分野についてはゲスト講師を招聘し具体事例を交えた議論を行うほか、履修者は自ら関わる地域を想定しながら考察を深めるとともに、実際にDMO 運営の現場を訪問して事業計画案を策定する。 本講習は履修証明プログラム(デスティネーション・マネージャー育成プログラム)の履修生向けに開講される。			
到達目標 Course Goals			
観光推進組織の中核人材として、組織マネジメントにおいて必要な組織運営のノウハウを習得し、経営戦略を練る力を培う。目的達成に向け、安定した財政基盤をもとに戦略的な事業推進を展開するための組織のあり方を、リーダーとして適切に判断・実行するためには、組織のあらゆる業務に精通する必要があるため、法務、財務、労務管理、知的財産管理、危機管理など組織の根幹をなす分野についての知識を得ることを目標とする。			
授業計画 Course Schedule			
本講習は、集中講義 6 回とフィールドワークで構成される。			
<p>■講義編(第 1～12 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DMO 概説 ・経営戦略、事業計画の立案、策定 ・会計と財務、労働環境整備、人事・労務 ・組織運営に関する法律、法務 ・危機管理 ・知的財産管理 <p>■フィールドワーク編(第 13～15 回)</p> <p>DMO 実践現場への訪問と事業計画案の策定(宿泊を伴うフィールドワークを予定)</p> <p>※毎回テーマに合わせて専門家を招聘し講義します。 ※順番については前後する場合があります。</p>			
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework			
初回の講義にて説明する。			
成績評価の基準と方法 Grading System			
出席は授業回数の 70%を評価条件とし、授業への参加態度(発言や討議についての積極性)40%、レポート、発表の内容 60%とし総合的に判断する。			
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information フィールドワークの旅費については自己負担となるので留意されたい。(詳細は講義中に示す。)

科目名 Course Title	観光ファシリティマネジメント実践講習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	乃村工藝社（観光学高等研究センター）		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083404
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	道の駅、観光地の屋外公共空間、無電柱化、ウォークアブル、景観計画、屋外広告物、再エネ施設と景観対策、道路・街路景観、街路樹管理、ドライブ観光、空間デザイン、ミュージアム、展示、イベント、事業創造		
授業の目標 Course Objectives	観光地やその周辺のアクセス環境を含め、観光の魅力に影響する公共空間・公共施設に着目し、景観・デザインや利活用の視点から、地域の観光振興に資するまちづくり手法を学ぶ。また、現役的空間デザイン会社のプランナーがゲスト講師をつとめ、地域創造をミッションとした各種ミュージアム、商業空間等、観光創造へと結びつく場づくりについて、国内外の最新事例について学ぶ。		
到達目標 Course Goals	観光まちづくりにおける公共空間・公共施設の重要性を理解し、観光資源マネジメントとしてのそれらの利活用を促進するための景観・デザインの考え方や管理運営の手法を修得する。また、これらの実現に必要な関連法令の理解と、制度を効果的に活用するための実務的な知識を身につける。また、近年の公共文化施設運営における PPP を軸にした新たな官民連携の在り方や、これらの担い手となる地域コミュニティとの連携、こうした公共施設及び文化財、遊休資産等を活用した地域の賑わいづくりについて実践的なノウハウを習得する。		
授業計画 Course Schedule	<p>第 1,2 回＜観光まちづくり効果を高める公共空間の景観・デザインと利活用の方法＞ 講義ガイダンスのあと、景観に見方や理解の仕方を学んだ上で、観光の魅力に影響する公共空間（観光・眺望スポット、広場・駅前、街路・道路、駐車場など）を対象に、景観・空間のデザインおよび快適性の向上を通じて、観光まちづくりの効果を高めるための具体的な手法を学ぶ。</p> <p>第 3,4 回＜観光・地域開発におけるミュージアムの企画＞（乃村工藝社ゲスト講師） 地域創造をミッションとした各種ミュージアム、商業空間、イベント等、観光創造へと結びつくさまざまな場づくりについて、主に企画から運営に関する基礎理論から、国内外の最新事例について学ぶ。近年の公共文化施設運営における PPP を軸にした新たな官民連携の在り方や、こうした公共施設及び文化財、遊休資産等を活用した地域の賑わいづくりについて実践的なノウハウを習得することを目的とする。</p> <p>第 5,6 回＜持続可能な「道の駅」とまちづくりについて考える―課題とにぎわいの創出に向けて―＞ 「道の駅」および類似の観光施設を対象に、構想・計画段階から運営・管理に至るまでのプロセスを通じて、地域における持続可能なにぎわいの創出に向けた課題と成功・失敗要因を分析し、観光まちづくりの実効性を高める手法を学ぶ。</p> <p>第 7 回＜法令・制度を活用した持続可能な観光資源マネジメント＞ 観光資源の持続可能な活用に向けて、景観法、都市計画法、屋外広告物法、再生可能エネルギー関連条例、無電柱化推進法などの関連法令・制度をポイントを理解し、それらを効果的に活用するための実践的な手法を学ぶ。</p> <p>第 8 回＜研究発表と討議＞ 第 1 回～第 7 回の講義等を踏まえ、一人一人のアイデアを総合的に発表し、討議を行う。</p>		

<p>※ゲスト講師 渡邊創、亀山裕市:乃村工藝社クリエイティブ本部プランニングセンター所属 ※講義の順番、開催方法(オンライン、対面)等は変更の可能性あり</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework ・指定する施設等の見学。毎回の課題への企画立案/回答作成。 ・内容については第1回の講義ですべて指示するのでそれ以前は不要。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 毎回の小レポート(発表)と授業時間内の参画態度を評価する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites https://www.nomurakougei.co.jp/(乃村工藝社 HP), https://www.nomlab.jp/jp/nomlog/(乃村工藝社オウンドメディア「ノムログ」) 未来創造研究所 乃村工藝社 / NOMURA Co.,Ltd.</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	MICE・イベントマネジメント実践講習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	土田 史郎 [TSUCHIDA Shiro] (国際広報メディア・観光学院)		
担当教員 Other Instructors	札幌国際プラザ(メディア・観光学院)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083405
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	イベント、観光協会、札幌市、MICE、会議報奨・研修旅行、国際会議、展示会・見本市、イベント、Meeting、Incentive Travel、Convention、Exhibition、Event、コンベンション・ビューロー		
授業の目標 Course Objectives	<p>デスティネーション・マネジメント政策・施策の中でも、イベントとMICEは特に重要性の高いものである。</p> <p>イベントは短期的な需要喚起だけでなく、デスティネーション・イメージの形成、季節偏重の是正、旅行消費の喚起などに貢献する一方、開催に莫大な費用と労力を要するため、効率的、戦略的なマネジメントが必要となる。またMICEは、デスティネーションにおける滞在期間の拡大や季節偏重の是正、経済効果の拡大に寄与するとともに、近年では、社会効果やサステナビリティなど、その誘致と効果の最大化には一層の戦略性が求められている。</p> <p>以上の点を踏まえ、本講習ではイベントとMICEのマネジメントについて、基礎的な知識と実践的なマネジメント・スキルを身につけることを目標とする。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本講習において受講者は、以下2点の具体的な学習目標に到達することが期待される。</p> <p>(1) イベントの企画、立案、運営等に関する基礎知識を有し、その具体的なマネジメントのあり方を説明できる。</p> <p>(2) MICEの誘致、運営等に関する基礎知識を有し、その具体的なマネジメントのあり方を説明できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>本講義は、大きく2編から構成される。</p> <p>【イベント・マネジメント編】担当：土田史郎（一般社団法人札幌観光協会事務局長）</p> <p>第1回：一般社団法人札幌観光協会について</p> <p>第2回：イベントの企画・立案・運営</p> <p>第3回：イベント事務局の管理・財務</p> <p>第4回：イベントのコンプライアンス・リスク管理</p> <p>【MICE編】担当：公益財団法人札幌国際プラザ</p> <p>第1回：札幌国際プラザについて、MICEとは、世界情勢の変化とMICE、ブランド</p> <p>第2回：マーケティング、プロモーション、開催支援・受入基盤整備</p> <p>第3回：サステナビリティ、レガシー・インパクト、ケーススタディ</p> <p>第4回：課題発表</p> <p>10月～11月末の平日6講時で開講する(決定次第通知)。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	前回の講義で適宜指示を行う。		
成績評価の基準と方法 Grading System	<p>①講義内での課題・発表 50%</p> <p>②講義へのコミットメント 50%</p> <p>で成績を評価する。</p>		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			

テキスト・教科書 Textbooks
講義指定図書 Reading List
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information 原則オンラインで開講する予定(一部対面及びハイフレックスの可能性もあり)。

科目名 Course Title	北海道観光研究【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	小泉 大輔 [KOIZUMI Daisuke] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083406
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	北海道 北海道遺産 観光創造 観光デザイン CBT=community based tourism 官民協働=PPP 地域資源マネジメント 観光施設運営 地域協働 ロングトレイル DMO=Destination Management Organization 観光戦略 明日の日本を支える観光ビジョン DMO 政策 インバウンド政策 国立公園 野生生物 サステイナブル・ツーリズム アイヌ民族 UGC(ユーザー生成コンテンツ) 感情的デスティネーション・イメージ プラットフォーム・ガバナンス		
授業の目標 Course Objectives	北海道の観光は、亜寒帯の気象条件によって形成される自然環境や、農業景観、冷涼な気候ならではの食文化や先住民アイヌが育んできた文化や景観など、北海道独自の観光資源が支え、第一次産業に並ぶ主要な産業としての成長を遂げてきた。本講義はその北海道観光を多角的に分析し、少子高齢化が進み地方の衰退が危ぶまれる状況下、観光の力を再認識し、北海道経済への貢献と新たな観光地創造を模索することを目的とする。		
到達目標 Course Goals	北海道観光を「価値共創」「地域協働」「インバウンド政策」の3つの視点でその重要性やプロセスについて理解し、説明することができる。		
授業計画 Course Schedule	(オムニバス方式/全8回)※講義の順番は変更の場合がある		
	6/8 北海道観光概観(小泉大輔) 戦後の国土復興と高度成長域以降の北海道観光に焦点を当て、その変遷と特徴を解説、北海道の基幹産業に成長した観光の姿を概観し今後の展望について学ぶ。		
	6/15 北海道の観光を地域で支える観光協会とDMO(石黒侑介) 北海道に所在する170を超える観光協会に対する悉皆調査の結果を見ながら、北海道観光を地域で支える観光協会の現状、DMOとしての特徴について解説する。		
	6/22 北海道の地域を支える官民の中間団体(今井太志) 行政政策としての観光政策の位置づけの変遷を確認するとともに、前週で行った北海道観光を地域で支える観光協会・DMOに関する考察を踏まえ、より広い観点から地域活性化の文脈における官民の中間団体の意義や課題について考える。		
	6/29 環境・観光政策の北海道における展開(中島尚子) 国立公園、世界遺産、野生生物等の自然観光資源に関する制度や施策の北海道における展開について学ぶ。		
	7/6 北海道遺産と観光(田代亜紀子) 北海道遺産は、2001年の第1回選定から始まり2022年の第4回選定までで全74件が登録されている。本講義では、北海道遺産を通して「遺産」と「観光」の関係性を考える。		

<p>7/13 感情と UGC がつくる北海道の観光イメージ: 価値共創・地域協働・インバウンド(張慶在) 観光地イメージは制度的な PR だけでなく、レビューや SNS などの UGC によって「感情」を伴いながら生成・拡散される。本講義では、北海道を事例に、UGC が地域の価値共創と協働実践、そしてインバウンド需要形成にどう関与するのかを、簡単なデータ読解演習とともに考察する。</p>
<p>7/27 ボーダー地域としての北海道(パイチャゼ スヴェトラナ) 国境地域である北海道では時代によって人の移動がさまざまな形式で行われた。本講義では北海道を事例にして、国際危機とその解消がボーダー地域在住者にどのような影響を与えてきたのかを考える。</p>
<p>8/3 アイヌ民族と北海道観光の過去・現在・未来(岡田真弓) 北海道観光とアイヌ民族とのかかわりを歴史的にひもときながら、現在のアイヌ文化観光の現状を理解し、その課題や展望について先住民族観光の概念に基づきながら議論する。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 指示する図書、関連 HP、事前配布プリントの精読。 内容は第 1 回の講義で全て指示するのでそれ以前は不要。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 毎回の授業で行う小レポートにより評価する。 期末レポートは課さない。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	メディア文化と観光【履修証明プログラム】[Special Lecture on Media Culture and Tourism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	山村 高淑 [YAMAMURA Takayoshi] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083407
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words			
メディア文化、観光、観光のまなざし、語り、自己と他者、ヘリテージ、音楽、観光空間、メディア表象、場所性、展示とインタープリテーション、ツーリストアート、メディアコンテンツ、場所と体験のメディア化、モビリティ、空港			
授業の目標 Course Objectives			
本科目では、人や情報のモビリティがますます高まる現代社会における、メディア文化と観光との関係性を多角的に捉える基本的視座を修得することを目的として、分野横断的研究を行なっている 8 名の教員によるオムニバス形式の講義を行なう。具体的には、観光現象を、メディアをとりまく文化現象、すなわちメディア文化の文脈から捉えなおすことで、ボーダレスなコミュニケーションや文化越境の進展が具体的場所に結びつきながら展開している現代の状況を読み解く力を身に付けることを目標とする。			
到達目標 Course Goals			
講義を通して、受講者が以下の 3 項目を身に付けることを到達目標とする。 1) 多様な観光現象を、メディアをとりまく文化現象 (メディア文化) の文脈から理解し、言語化して説明できること。 2) メディアと観光の関連性について、実生活の中にあるボーダレスなコミュニケーションや文化越境の具体例を通して、わかりやすく説明できること。 3) 授業で紹介した様々な概念を用いて、メディア文化と観光の接合領域における諸現象について、その将来展望と課題について、論じることができること。			
授業計画 Course Schedule			
授業はオムニバスによる講義、及び、質疑応答、ディスカッションにより双方向的に進めます。 講義の順序は変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。			
第 1 回 インTRODクション(山村)……6 月 9 日(火) ・本講義の目的、内容を受講者に説明するとともに、メディア文化と観光との関係性に注目することの意義を社会文化史的に概説する。			
第 2 回 メディア表象と場所性(岡本)……6 月 16 日(火) ・メディアによる表象やその背後にある社会政治的な文脈が場所性にいかなる影響を与えるのかについて、宗教観光論の観点から概説する。			
第 3 回 音楽とツーリズム(金)……6 月 23 日(火) ・音(楽)とツーリズムの相互作用が、いかなるモノと実践、風景と場所性、世界観と感覚、移動と関係性を生み出すのかについて、音楽ツーリズム論の観点から考える。			
第 4 回 展示とインタープリテーション、ツーリストアート(山崎)……6 月 30 日(火) ・観光における重要なコンテンツのひとつである博物館等における展示やインタープリテーションについて、メディアと観光との関わりから考察する。また、観光地におけるお土産品(ツーリストアート)に着目し、メディアとしての視点から、モノおよび、それを媒介にして生み出される現象について考察する。			

<p>第5回 メディアとしてのヘリテージ(田中)……7月7日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義では、保護・保全の対象としてというよりも社会的過程としてヘリテージ(遺産)を捉える近年の研究動向をふまえ、観光の文脈においてヘリテージが過去、現在、未来をつなぐメディアとしていかに機能しているかについて検討する。
<p>第6回 情報メディアと歴史(天田)……7月14日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史を題材とした観光と新しい情報メディアの関係に光を当て、現状と課題を整理する。
<p>第7回 観光の「経路」とメディア(石野)……7月21日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港ターミナル内にて近年展開している商業広告、アート作品、案内表示板やサインシステムなどの「空港メディア」に着目し、移動／観光の「経路」におけるメディアと文化表象、まなざし、旅行者の経験について批判的モビリティ・スタディーズの観点から検討する。
<p>第8回 ソーシャルメディアとデスティネーション・マーケティング(ONG)……7月28日(火)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルメディアにおけるデスティネーションマーケティングの情報の影響を説得的コミュニケーションモデルに基づいて検討する。また、ソーシャルメディアにおけるデスティネーションの情報の影響について、消費者の感知や態度と意図に注目して検討する。
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <p>各回の講義テーマに応じて、適宜、受講者が読むべき参考文献・資料を通知するので、必要に応じて予習・復習を行なうこと。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>各担当教員ごとに提出するレスポンスペーパー(講義内容へのコメント等)80%、授業に取り組む姿勢(発言の積極性等)20%を基準として評価する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p> <p>他学部履修を希望するものは担当教員の内諾が必要。</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p> <p>北海道大学観光学高等研究センター: https://www.cats.hokudai.ac.jp/</p> <p>北海道大学メディア・コミュニケーション研究院: https://www.imc.hokudai.ac.jp/rfinc/</p> <p>北海道大学アイヌ・先住民研究センター: https://www.cais.hokudai.ac.jp/</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	広報とマーケティング【履修証明プログラム】[Topics of Public Relations and Marketing]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	辻本 篤 [TSUJIMOTO Atsushi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083408
期間 Semester	1 学期 (夏ターム)	単位数 Number of Credits	1
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	広報、マーケティング、広告		
授業の目標 Course Objectives	広報とマーケティングに関する基本知識を事例を通じて獲得する。		
到達目標 Course Goals	生産する商品やサービスをいかに市場にひろめていくのか(マーケティング)、そのために情報という領域においていかに消費者を含めたステークホルダーとの関係構築をはかっていくのか(広報)は、組織運営にとって死活問題だ。現代においては、営利を目的とする組織のみならず、非営利組織にとっても、マーケティングと広報は必須の課題である。本演習では 3 人の教員により、マーケティングと広報、そして広告の基礎を学び、組織の市場戦略の基本知識を獲得する。この演習を受講することにより、広報とマーケティングの実際についての知識を得、現実のビジネスに応用することが可能となる。		
授業計画 Course Schedule	<p>(授業は1学期(夏学期)の木曜・6 講時(18:15-19:45)、教室はメディア棟・105)</p> <p>第一セッション:(6/11(木)、6/18(木)) 中川理 企業の様々な活動の中で、広報とマーケティングがどのような位置づけなのか?を理解する上で、まずは企業の存在意義に関連する「企業理念」の重要性を学ぶ。</p> <p>第二セッション:(6/25(木)、7/2(木)) 神山裕之 パブリックセクターとはどのような概念かということをはっきりとした上で、その広報の特性と課題ならびにその解決の方向性について、事例も参照しつつ学ぶ。</p> <p>第三セッション:(7/9(木)、7/16(木)) 平本健太 観光やメディア関係の事例も用いつつ、マーケティングの基本的フレームワークおよびマーケティング戦略について学ぶ。</p> <p>第四セッション:(7/23(木)、7/30(木)) 辻本篤 広報活動には「社内広報」(組織構成員に向けた広報)と「社外広報」(株主や顧客などのステークホルダーに向けた広報)がある。これらの概念を理解し、それぞれがどのような目的で実践されるのかを学ぶ。さらに当科目の講義内容全体を振り返る。</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	各セッションでレポートを課すので、関連する資料、書籍の閲読が必要となる。		
成績評価の基準と方法 Grading System	各セッションのレポートが全体の 80%、授業での討論を 20%として評価する。		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List			

参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information <ol style="list-style-type: none">1. 当科目全 8 回の授業のうち、3 回以上欠席した者は成績評価の対象としない2. 30 分を超える遅刻は欠席扱いとする3. 一度も出席していないセッションに対してレポートを提出することはできない4. レポート作成において、その大部分において AI を使用したと判断された場合、そのレポートは評価の対象としない(ただしレポート作成に際して、事前の情報収集等に AI を使用するのは問題視しない)5. 提出されたレポートに深刻な剽窃が認められた場合、そのレポートは評価の対象としない

科目名 Course Title	アドベンチャーツーリズム論演習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	木村 宏 [KIMURA Hiroshi] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083409
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光ビジネスプロデュース・コーディネーション、広報、ライフスタイルツーリズム		
授業の目標 Course Objectives	<p>「スポーツを通じて、豊かで健やかな暮らしを実現する」という企業理念を掲げるスポーツアパレル企業(株)ゴールドウインが、国策となったアドベンチャーツーリズム(AT)について、どのような関係性を持ち地域や社会に貢献しているのかを検証する。</p> <p>ATの要件であるアクティビティ、自然、文化体験を融合した体験プログラムや企画に加え、地域におけるアウトドア関連施設・店舗の運営、商品の開発やスポーツを通じたライフスタイルの提案等の具体的なノウハウを習得する。</p>		
到達目標 Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツアパレル業界が果たすATへの貢献を理解する。 ・デスティネーションそのものが暮らしの場所であり、旅することが日常生活の延長にある旅のスタイル(ライフスタイルツーリズム)を深堀する。 		
授業計画 Course Schedule	<p>※土曜日(4日間)の集中開催及びフィールドワーク(2泊3日)、公开发表(シンポジウム)で構成される。</p> <p>第1～2回 インTRODクシヨン アドベンチャーツーリズム(AT)の展開について 国及び北海道のATの戦略 株式会社ゴールドウインの歩みと地球環境の改善に挑戦する企業戦略</p> <p>第3～4回 ATのツアー商品戦略 スポーツの原点を追求したPLAY EARTH事業の展開 ライフスタイルツーリズムの展望</p> <p>第5～6回 国立公園や地域におけるATの実践 フィールドワークの事前準備</p> <p>第7～11回 フィールドワーク(企業と連携した観光地創造の検証と考察) 民間事業者と自治体との連携により展開している、道内の国立公園の魅力や価値の向上・環境保全のための取り組み、アウトドア・アクティビティの促進、未来を背負う子供たちの自然体験活動の場の創出、地域産業との連携および、その目標を達成するための、マーケティング、ブランディング及びプロモーションについて、企業のトップや地域の関係者から直接話を聞き、また、実践現場を訪問し産官連携による地域活性化のプロセスと実践を検証する。</p> <p>第12、13回 フィールドワークのまとめとシンポジウムの発表準備</p>		

<p>第 14、15 回 産官学連携による AT の推進に向けて(公開発表方式を予定)</p> <p>※スケジュール及び講義内容の詳細は変更となる場合があるので留意すること。</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 初回の講義にて説明する。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 出席は授業回数の70%を評価条件とし、授業への参加態度(発言や討議についての積極性)40%、フィールドワークにおける提案・参加姿勢30%、レポート、発表の内容30%とし総合的に判断する。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information フィールドワークは 10～11 月週末(金土日)の 2 泊 3 日を予定している。旅費については原則自己負担となるので留意されたい。</p>

科目名 Course Title	インバウンド・ツーリズム論演習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	石黒 侑介 [ISHIGURO Yusuke] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083410
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	インバウンド・ツーリズム、訪日外国人旅行、観光政策、国際観光、観光マーケティング、プロモーション、デスティネーション・マネジメント、デスティネーション・マーケティング		
授業の目標 Course Objectives	<p>インバウンド・ツーリズムへの社会的関心は、我が国を訪れる外国旅行者数の増加に相まってかつてない水準にまで高まっている。しかしながら、議論の中心は旅行者数の増減やその経済効果に関するものに限られており、国や地域がインバウンド・ツーリズムの推進に取り組む意義や観光政策におけるインバウンド・ツーリズムの位置づけについては、学術・実務の世界において論じられることは極めて少ない。</p> <p>以上の点を踏まえ、本演習ではデスティネーションとしての我が国を俯瞰し国際観光市場におけるその競争力を客観的に評価するための視点を養うとともに、実際に外国人旅行者の誘致・受入のために多様な関係者との合意形成を図りながら試行錯誤を繰り返し、その正負両面の影響を直接的に受ける地域の現状や課題を理解することをその目標とする。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習において受講者は、以下3点の具体的な学習目標に到達することが期待される。</p> <p>(1) 国際観光の動向を踏まえた日本のインバウンド市場の現状と課題について、自らの論点を提示しながら説明できる。</p> <p>(2) 他国の国際観光政策の概要・趨勢を近いし、日本の国際観光政策の特徴を説明できる。</p> <p>(3) インバウンド観光振興のあり方について多角的な視点から論じ、特定の地域におけるインバウンド観光振興策のあり方について具体的な施策の提案ができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>本講義は、大きく3編から構成される。</p> <p>まず、インバウンド・ツーリズムをめぐる様々な事象・テーマを多面的に理解し、学術的な検討を行うための基礎的知識を学ぶ「導入編」、事例研究を通じインバウンド・ツーリズム政策の理論と実践的側面を理解・議論する「事例編」、数人一組のグループによるフィールド・ワークとその成果の取りまとめ・発表を通じた「グループ・ワーク」である。</p> <p><導入編></p> <p>第1週: 講義ガイダンス、講義で扱う題材・問題意識の共有</p> <p>第2週: 国際観光市場の動向と我が国のインバウンド・ツーリズム政策</p> <p>第3週: ツーリズムにおけるインバウンド・ツーリズムの特性</p> <p><事例編></p> <p>第4週: デスティネーションのライフサイクルと分散化</p> <p>第5週: デスティネーションのライフサイクルと分散化_事例: 高山市</p> <p>第6週: イメージの形成</p> <p>第7週: イメージの形成_事例: 山ノ内町(地獄谷野猿公苑)、直島、山崎蒸溜所</p> <p>第8週: デスティネーションと都市_東京都、福岡市</p> <p>第9週: デスティネーションと持続可能性</p>		

第10週: インバウンド観光と自然遺産(ゲスト講師)

第11週: インバウンド観光と文化遺産(ゲスト講師)

<グループワーク編>

第12週～第13週: 現地調査 5月16日-17日(美瑛町を予定)

第14週～15週: 成果発表

*現地実習(5月16日-17日)への参加を必須とする。なお、現地調査の旅費として20000円程度の負担(往復のJR、宿泊費、体験料)が生じる。その点、予め留意の上、履修すること。

【注意】例年、国際広報メディア・観光学院の講義スケジュールが他学部と異なる場合があるので、履修を検討する場合は予めメディア・観光学事務部教務担当または担当教員に初回の講義日程を確認すること。

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

講義の内容を踏まえたレポート1枚を作成することを課す

成績評価の基準と方法 Grading System

- ①レポート 20点
- ②プレゼンテーション 40点
- ③講義へのコミットメント 40点

合計100点満点で点数をつける。

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

【注意】例年、国際広報メディア・観光学院の講義スケジュールが他学部と異なる場合があるので、履修を検討する場合は予めメディア・観光学事務部教務担当または担当教員に初回の講義日程を確認すること。

テキスト・教科書 Textbooks

講義指定図書 Reading List

参照ホームページ Websites

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

英語の文献や資料を利用することもあるので、一定の英語運用能力を前提として講義を進める。

履修者の数に応じて講義の順番や構成を変更することがある。

現地実習は5月24日-25日の1泊2日を予定しています。

科目名 Course Title	観光創造論演習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	未定（国際広報メディア・観光学院）		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083411
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光創造／共創 (Co-creation)／ダイアログ (対談) 型学習／ステークホルダー協働／観光ガバナンス／プレイスメイキング／価値創出／質的探究／半構造化インタビュー		
授業の目標 Course Objectives	<p>本授業の目標は、「観光創造」を既成の概念として受け取るのではなく、受講生が対話・事例・実践者の言葉を素材にしなが、その意味を自ら発見・更新し、説明可能な形へと組み立てることである。観光創造研究コースが重視してきた学際性と実践性（理念と現場の往還）を踏まえ、前半では観光創造をめぐる主要な視点・論点を共有し、観光が「価値」「関係」「場所」「組織」「メディア」など複数の層で生成されるプロセスとして捉えるための共通フレームを形成する。後半は、受講生がコース出身の研究者・実務者・経営者等を自ら調査・連絡し、招聘して実施する「観光創造ダイアログ(ゲスト対談)」を中心に据える。対談の企画・進行・記録・討議を通じて、観光創造が現場でどのように語られ、実装され、また異なる領域間で翻訳されるのかを具体的に検討する。各回で得られた知見は、クラス全体で“Living Definition”として反復的に更新し、最終的に Glossary/Map として可視化することで、観光創造を「説明できる共同知」として共有・提示することを目指す。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>① 観光創造を価値・関係・場所・実践・ガバナンス・メディア等の多層的概念として説明できる。 ② 対談／討議のための問いを設計し、論点を整理して知見を概念化できる。 ③ ゲスト対談の内容を根拠に、観光創造の定義を批判的に更新し文章化できる。 ④ 共同成果物 (Glossary/Map) に貢献し、個人の省察を論理的に提示できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回: ガイダンス／「観光創造とは？」仮説定義／授業設計の共有 第2回: 観光創造研究コースの視点共有／観光創造の射程と層位の討議 第3回: 事例討議 (観光創造が生成される局面)／Living Definition 更新 第4回: ゲスト候補マッピング (研究・実務・経営・行政等)／グループ編成・候補リスト作成 第5回: 問いの設計 (半構造化インタビューの感覚)／質問バンク構築 第6回: 依頼文書・連絡作法／役割分担 (司会・運営・記録・広報等)／倫理確認 第7回: 模擬対談 (リハーサル)／運営テンプレ確定 (進行-討議-定義更新) 第8回: 観光創造ダイアログ #1 (ゲスト対談) + 討議 + 定義更新 第9回: 観光創造ダイアログ #2 + 討議 + 定義更新 第10回: 観光創造ダイアログ #3 + 討議 + 定義更新 第11回: 観光創造ダイアログ #4 + 討議 + 定義更新 第12回: 観光創造ダイアログ #5 + 討議 + 定義更新 第13回: 対談記録の統合 (概念・パターン・緊張点の整理)／Glossary 草案 第14回: 成果物制作 (観光創造 Map) + ミニフォーラム 第15回: 最終提出／個人定義文／共同定義の最終確定と振り返り ※ゲスト日程等により順序・形式は一部調整の可能性あり</p>		
準備学習 (予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>予習: 配布資料 (または事例) を読み、討議用質問を 1～2 点作成。 復習: 授業内容の要点整理と“Living Definition”更新のためのメモ作成。</p>		

<p>ダイアログ回: ゲストの事前調査(所属・活動・プロジェクト等)と質問票の準備。 リフレクション・メモ: 各回 400～800 字程度(指示回のみ)。</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System 参加・討議への貢献:20% リフレクション・メモ(計 4～5 回):25% グループプロジェクト(連絡・招聘・運営パッケージ+要約/分析):35% 最終個人課題(「私の観光創造定義」300～500 字+根拠):20%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 指定教科書なし。資料(リーディング/事例/ゲスト関連資料)は授業内で配布(ELMS)する。</p>
<p>講義指定図書 Reading List 指定図書なし(配布資料中心)。参考文献・追加文献は回ごとに提示する。</p>
<p>参照ホームページ Websites 観光創造研究コース(概要・方針): https://www.imc.hokudai.ac.jp/academics/studies_courses/tourism_creation.html</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory 観光学高等研究センター: http://www.cats.hokudai.ac.jp</p>
<p>備考 Additional Information</p>

科目名 Course Title	コミュニティ・ベースド・ツーリズム論演習【履修証明プログラム】[Community Based Tourism]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	岡田 真弓 [OKADA Mayumi] (アイヌ共生推進本部)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083412
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	3 条件付き可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	2 対面授業科目《一部遠隔》		
キーワード Key Words	コミュニティ・ベースド・ツーリズム(CBT)、ヘリテージ・マネジメント、インタープリテーション、先住民族観光、アイヌ民族と北海道観光		
授業の目標 Course Objectives	<p>コミュニティ・ベースド・ツーリズム(CBT)は包括的な用語であり、各地域の実践によって定義はことなるものの、基本的には持続可能な生活を支援し、価値ある社会・文化的伝統と自然・文化遺産を保護することにより、コミュニティの幸福に貢献する、コミュニティが主体となって運営、管理、調整される観光活動のことを示す。CBTは1970年代にマストツーリズムに抗する理念として登場し、その他のオルタネイティブ・ツーリズムとも相互に影響しあいながら発展していった。日本でも、住民が地域社会に対して興味や関心を抱き、地域資源を発掘し、よりよいまちづくりのための創意工夫がされ、そのことが外部の興味関心をよぶことで観光(交流・関係人口増加)振興につなげる「持続的な観光まちづくり」として様々な取組が展開されている。また、経済成長が著しい新興国や発展途上国においては、地域社会による主体的な観光が貧困の克服や経済の向上といった社会的課題に抗する手段として用いられている。</p> <p>本演習では、CBTを理解するための基礎的な理論や方法論を学んだ後、CBTの中でも先住民族観光(先住民族が主体的に観光を企画、運営、管理、調整する)の世界的動向および日本におけるアイヌ民族と北海道観光に着目し、その先行事例やフィールドワークを通して、今日の観光におけるCBTの意義と課題を理解する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習では、次の3点の学習目標に到達することが期待される。</p> <p>(1)コミュニティ・ベースド・ツーリズム(CBT)の基本的概念、関連する観光形態との相違、および方法論を説明することができる。</p> <p>(2)CBTにおけるヘリテージの管理およびその価値の発信(インタープリテーション)の重要性を位置づけることができる。</p> <p>(3)今日の観光におけるCBTおよび先住民族観光の意義、課題、展望を論じることができる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>本演習は、3つのセッションに大別して行う。</p> <p>第1セッション:イントロダクションと基本的理論を理解する(第1週～第6週)</p> <p>第1回目のイントロダクションで本演習の目標、授業内容、フィールドワーク内容、評価方法を説明する。第2回目以降は、コミュニティ・ベースド・ツーリズム(CBT)に関する基本的概念、関連する観光形態との相違、およびCBTの方法論を学ぶ。</p> <p>第2セッション:先住民族観光の実践を学ぶ(第7週～第12週)</p> <p>国内外で実践されている先住民族観光の取組を、先行研究およびフィールドワークを通じて学ぶ。フィールドワークは阿寒湖アイヌコタン、阿寒湖温泉、阿寒摩周国立公園といった多様な地域資源を擁し、現在アイヌ民族が主体的に参画する観光振興事業を展開している北海道釧路市阿寒町を予定している。第8回～第9回にフィールドワークに向けた事前講義を行い、第10回～第12回に集中講義としてフィールドワーク(2泊3日を予定)を行う。</p> <p>※1 フィールドワークは2026年12月11日(金)～13日(日)2泊3日の予定です。</p> <p>※2 フィールドワークでは、旅費および関連施設入館費等の実費がかかります。</p> <p>※3 都合によりフィールドワーク地および日程が変更になる場合があります。</p> <p>第3セッション:グループワークとプレゼンテーション(第13週～第15週)</p> <p>第13週と14週で実習の振り返りおよびこれまでの講義内容を踏まえたグループ・ディスカッションを行い、その成果を第15週</p>		

にプレゼンテーションする。
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework 各回のテーマに応じて、授業日までに指定された文献資料を読み、関連する情報収集を行うことが期待される。フィールドワーク前後には、訪問地の概要に関する情報収集や現地で得られた情報をまとめる作業がある。
成績評価の基準と方法 Grading System 次の点を総合的に評価して成績を決める。 1. 授業(フィールドワーク含む)での発言、ディスカッションへの参画 60% 2. 最終課題・プレゼンテーション 40%
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements フィールドワーク先の受入状況等を鑑みて総合的に判断する。
テキスト・教科書 Textbooks The Routledge Handbook of Community-Based Tourism Management: Concepts, Issues, Implications: Routledge, 2021 The Routledge Handbook of Tourism and Indigenous Peoples, 2024 Sustainable Community-based Tourism: Planning, Management, and Sustainability, 2025 各授業に必要な参考文献等は事前に配布する。授業内容によって指定図書の一部が変更になる場合もある。 Book of readings (articles and book chapters) will be provided in advance. Reading list might be modified due to kinds of students' interests.
講義指定図書 Reading List コミュニティ・ベースド・ツーリズム事例研究(CATS 叢書3号)／山村高淑、小林英俊、小川弘孝、石森秀三編、2010 Sustainable Tourism and Indigenous Peoples, 2019 エコツーリズムの民族誌：北タイ山地民カレンの生活世界、2012
参照ホームページ Websites
研究室のホームページ Websites of Laboratory
備考 Additional Information ・本演習ではフィールドワークを実施することから、受講生は必ず学生教育研究災害障害保険に加入すること。加入方法については、学務部学生支援課(課外活動支援担当:011-706-7467)まで問い合わせてください。 ・フィールドワークに際し、旅費および関連施設入館費等の実費がかかります。詳細はガイダンス授業でお知らせします。

科目名 Course Title	観光地域ビジネス論演習【履修証明プログラム】[Tourism Destination Business and Marketing]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	JTBグループ企業派遣講師（国際広報メディア・観光学院）		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083413
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光ビジネス、観光マーケティング、地域マネジメント、DMO、地域活性化		
授業の目標 Course Objectives	<p>2006年、観光を21世紀の日本の政策の柱とする「観光立国推進基本法」が成立、2008年には観光庁が発足した。短期的には、新型コロナウイルスの影響を受けたものの、国連世界観光機関（UNWTO）の長期予測では2030年の間には18億人もの世界の海外旅行者数まで増加すると見込まれている。このような環境下で、観光庁は観光業を「日本が力強い経済を取り戻すための重要な成長分野」と位置づけ、アジア圏をはじめとした世界の観光需要を取り込むため、様々な取り組みを行っている。その中核の役割を担う「旅行業」は、観光産業が抱える構造的な課題として、高齢化社会の到来による国内市場の縮小、テクノロジーの進展による購買行動の変化及びデジタル化の遅れ、生産性の低さなどが指摘されている。</p> <p>本科目では、従来の「旅行業」のビジネスモデルを産業論、流通視点で解説し、「時代」や「社会」から求められる持続可能なビジネスのあり方を探っていく。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>(1) 旅行産業の歴史・構造を理解することが出来る。</p> <p>(2) 旅行業におけるビジネスモデル、観光産業の産業上の位置付けを理解することが出来る。</p> <p>(3) 今後のビジネスモデルの方向性、事業開発視点にて課題の抽出、仮説設計が出来る。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>JTBグループ関係者の教員による講義とディスカッション、及び受講者による課題発表で構成される。土日6日間の集中講義形式とし、具体的な講義内容等についてはガイダンス時に案内する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクション 2. 旅行業のビジネスモデル「個人リテール・仕入事業」 3. 旅行業のビジネスモデル「OTA/Web 販売事業」 4. 旅行業のビジネスモデル「法人事業、教育旅行、M&E 事業」 5. 旅行業のビジネスモデル「エアソリューション事業」 6. 旅行業のビジネスモデル「グローバル事業」 7. 旅行業のビジネスモデル「スポーツ&エンタメ領域」 8. 旅行業のビジネスモデル「訪日 IB 領域」 9. 旅行業のビジネスモデル「地域交流領域」 10. 旅行業のビジネスモデル「観光地経営領域」 11. ビジネス提案準備 12-14. ビジネス提案発表 15. ビジネス提案発表・まとめ <p>※スケジュールや実施内容の詳細等に変更になる場合がある。</p>		
準備学習（予習・復習）等の内容と分量 Homework	<p>・準備学習すべき内容は授業の中で指示する。</p> <p>・各テーマでディスカッション等を実施するため、受講者の積極的な発言が求められる。</p>		

<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>授業での積極性や演習提案を総合的に評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義時の授業への参加度:50% ・ディスカッション時における積極性、発言内容:20% ・提案発表・質疑応答:30%
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>JTB グループの事例等を紹介したオリジナル教材を使用する。 JTB group's destination revitalization and case examples will be distributed.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>本科目は株式会社 JTB との包括連携協定にもとづき開講されます。新たな観光ビジネスの創造に意欲のある学生の受講を歓迎します。</p> <p>講義日程は以下のとおり 5/30、31、6/13、14、7/25、26</p>

科目名 Course Title	コンテンツツーリズム論演習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	山村 高淑 [YAMAMURA Takayoshi] (観光学高等研究センター)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083414
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	2 不可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	コンテンツ・ツーリズム、文化資源、文化の多様性、文化交流、メディア、ポピュラーカルチャー、サブカルチャー、聖地巡礼		
授業の目標 Course Objectives	<p>人は物語を求めて旅をします。そしてある物語を共有したとき、人と人は交流をすることができます。このことは「旅」の持つ文化的な本質のひとつです。</p> <p>現在、旅行市場は成熟し、人々の趣味や嗜好の多様化にあわせて、旅行市場自体も細分化してきています。それに従って、旅行者や自治体も、コンテンツを求めるといふ旅の本質に気付き始めています。文化資源とは単なる“モノ”ではなく、その奥にある、地域の“物語性”であるということに気付き始めたのです。言い替えば、その土地の持つ世界観や、その土地を舞台にした作品や歴史の“物語性”に浸る旅のあり方、そしてそうした“物語性”を他者と共有することで生まれる交流のあり方に注目が集まっているのです。</p> <p>本演習では、こうした旅のあり方を「コンテンツ・ツーリズム」と呼び、内外事例の研究を通して、文化資源としてのコンテンツ、文化交流・地域振興のあり方としてのコンテンツ・ツーリズムの可能性について検討していきます。</p> <p>具体的には、アニメ、マンガ、小説、映画等のコンテンツ(作品)が地域資源とどのように結びつき、特定の場所に人々を惹き付けるのか、そのプロセスについて見ていきたいと思えます。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本演習において受講者は、以下3点の学習目標に到達することが期待されます。</p> <p>(1)2005年に国土交通省・経済産業省・文化庁が共同で作成した「映像等コンテンツの製作・活用による地域振興のあり方に関する調査報告書」における「コンテンツ・ツーリズム」の定義を踏まえ、「地域に関わるコンテンツ(映画、テレビドラマ、小説、マンガ、ゲームなど)」が、文化資源・観光資源として、政策的に重視されつつある背景を理解すること。</p> <p>(2)近年国内で注目されているアニメやマンガを活用したまちおこし事例を整理し、これら事例がそれまでの観光振興・地域振興とどう異なるのか、その特性と課題を理解すること。</p> <p>(3)こうしたコンテンツをきっかけとしたインバウンド誘致の可能性について、関連する事例を調査し、コンテンツの国際的な観光資源化プロセスについて理解すること。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1～3のセクションは最初の週に講義を行い、次週以降は関連する作品の舞台地へのフィールドワーク、受講者による調査結果のプレゼンテーション、ならびにそれらに基づく総合討議を行ないます。講義・プレゼンテーションともに、画像や映像資料を多用します。</p> <p>導入:文化資源としてのメディアコンテンツとは(第1週)</p> <p>授業の概要、目標、教材、評価法等について周知するとともに、文化資源、コンテンツ・ツーリズムの考え方・定義、思想的背景と現在の意義について概説します。</p> <p>第1セクション:コンテンツ・ツーリズムの歴史・事例の把握(第2週～6週)</p> <p>国内外の観光開発事例から、地域に関わるコンテンツ(映画、テレビドラマ、小説、マンガ、ゲームなど)を活用した事例を取り上げ、コンテンツ・ツーリズムの歴史と事例を整理し、コンテンツの観光資源化プロセスについて明らかにするとともに、コンテンツの種別と観光開発のあり方の関係性について検討を行います。</p>		

第2 セクション:地域づくりのツールとしてのコンテンツ・ツーリズムの可能性の検討(第7週～第12週)
近年特に注目を集めている、マンガ・アニメ・ゲーム・キャラクターを活用した観光開発の先駆的な事例を取り上げ、各事例について、コンテンツ・ツーリズムを成立させる背景、地域社会・著作権者・来訪者の協働方式について検討します。

第3 セクション:地域振興・コンテンツ産業振興の新たな可能性に関する検討(第13週～第15週)
実際にコンテンツ・ツーリズム開発に関わった方の話を聞くことで、現場の苦勞を学びます。そしてそれを踏まえたうえで、これまでの演習内容を総合し、地域振興・コンテンツ産業振興の新たな手法としてのコンテンツ・ツーリズムの可能性について検討します。

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

指定した教科書・参考文献に関して授業の前に該当部分を指示するので熟読しておいてください。また随時、参考資料も配布します。また随時、自らの論点を明確にするための小論文、エッセイを課しますので、復習を兼ねて執筆をお願いします。

成績評価の基準と方法 Grading System

以下の各点数を総合し、秀(90点以上)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)として評価を行う。

小論文(10%)

最終課題(30%)

プレゼンテーション(30%)

ディスカッション(30%)

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

テキスト・教科書 Textbooks

コンテンツツーリズム:メディアを横断するコンテンツと 越境するファンダム/山村高淑・フィリップシートン編著:北海道大学出版会, 2021

普及版 アニメ・マンガで地域振興 ～まちのファンを生むコンテンツツーリズム開発法～(電子版)/山村高淑:PARUBOOKS, 2018

講義指定図書 Reading List

Contents Tourism in Japan: Pilgrimages to "Sacred Sites" of Popular Culture/Philip Seaton, Takayoshi Yamamura, Akiko Sugawa-Shimada, and Kyungjae Jang: Cambria press, 2017

Mediating the Tourist Experience: From Brochures to Virtual Encounters/Jo-Anne Lester and Caroline Scarles: Ashgate, 2013

Japanese Popular Culture and Contents Tourism/Philip Seaton and Takayoshi Yamamura: Routledge, 2017

コンテンツが拓く地域の可能性: コンテンツ製作者・地域社会・ファンの三方良しをかなえるアニメ聖地巡礼/大谷尚之, 松本淳, 山村高淑著: 同文館出版, 2018

Contents Tourism and Pop Culture fandom: Transnational Tourist Experiences./Yamamura, Takayoshi and Seaton, Philip. (Eds.): Channel View Publications, 2020

湯涌ぼんぼり祭り 2011-2021～アニメ「花咲くいろは」と歩んだ10年～/湯涌ぼんぼり祭り実行委員会・間野山研究会編: parubooks, 2021

参照ホームページ Websites

IJCT: International Journal of Contents Tourism: <https://contents-tourism.press/>

研究室のホームページ Websites of Laboratory

<http://yamamuratakayoshi.com/>

備考 Additional Information

本演習は、座学とフィールドワークからなります。また、フィールドワークの際、演習前後の時間を現地への移動に充てる場合があります。

科目名 Course Title	世界遺産マネジメント論演習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	未定（国際広報メディア・観光学院）		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083415
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information	【文化資源マネジメント論演習】と合同開講		
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	文化資源／文化資源マネジメント／ヘリテージ・マネジメント／フィールドワーク／観察と記録／価値／解釈／利用管理／リスクと脆弱性／ステークホルダー／有形・無形文化資源／都市・産業・制度・生活文化／保全と活用のバランス		
授業の目標 Course Objectives	本授業は、世界遺産に限られない広い射程で「文化資源」を捉え、現地観察と比較を通じて、文化資源がどのように成立し、語られ、利用され、管理されているのかを実践的に理解することを目標とする。授業では、都市的景観、産業・開発の記憶、博物館・アーカイブ等の制度的資源、生活文化やイベント等の無形資源、自然-文化の境界にある空間など、複数タイプの文化資源を対象にフィールドワークを重ねる。観察結果をもとに、資源要素の整理、価値の言語化、利用の把握、リスクの診断、管理上の選択肢の検討を段階的に行い、タイプ別の管理の観点(チェックポイント)としてまとめる。最終的には、根拠にもとづいて文化資源を説明し、管理課題を明確化し、現実的かつ倫理に配慮した提案へとつなげる力を養う。		
到達目標 Course Goals	<p>① 文化資源を有形・無形／制度・生活／自然-文化境界など複数の観点から説明できる。</p> <p>② 現地観察にもとづき、資源要素の棚卸し(何が資源か)を作成できる。</p> <p>③ 価値と利用を整理し、管理課題として言語化できる。</p> <p>④ リスク・脆弱性を指摘し、実現可能性と倫理に配慮した管理の選択肢を提案できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>第1回(教室):ガイダンス／文化資源の射程(有形・無形・景観・記憶・制度)</p> <p>第2回(教室):現地調査の基本(観察・記録・写真ログ・地図化)／安全・倫理</p> <p>第3回(フィールド①):都市的景観・近代的環境の観察</p> <p>第4回(フィールド②):産業・開発の記憶をもつ空間の観察</p> <p>第5回(教室):整理①(事例カード作成／価値の言語化／次回の観察問い設定)</p> <p>第6回(フィールド③):博物館・アーカイブ等(制度的資源)の観察</p> <p>第7回(教室):整理②(制度型資源の管理課題／ステークホルダー整理)</p> <p>第8回(フィールド④):自然-文化境界の空間観察①(動線・利用・ルール of の働き)</p> <p>第9回(フィールド⑤):自然-文化境界の空間観察②(情報・解釈・サイン等の点検)</p> <p>第10回(教室):整理③(価値の衝突／利用管理の論点／優先課題の確定)</p> <p>第11回(フィールド⑥):近郊の歴史的環境(産業・交通・港湾等の記憶)の観察と比較</p> <p>第12回(フィールド⑦):無形／生活文化(イベント・実践・食など)の運営・秩序の観察</p> <p>第13回(教室):統合(タイプ別チェックポイント作成／比較マトリクス作成)</p> <p>第14回(フィールド⑧):検証回(提案・チェックポイントを現地に当てて最終修正)</p> <p>第15回(教室):最終発表／成果物提出／振り返り</p> <p>※天候・行事等により一部調整の可能性あり。場所名は年度ごとに設定</p>		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	<p>予習:配布資料(各フィールドの背景)を読み、観察ポイントを2～3点準備。</p> <p>フィールド後:写真ログ整理+観察メモ(600～900字程度)+事例カード下書き。</p> <p>統合回(第13～15回):比較マトリクス更新、チェックポイント文章化、発表準備。</p>		

<p>成績評価の基準と方法 Grading System 参加・討議・現地活動への貢献:25% フィールド記録(写真ログ+観察メモ)・小課題:25% 成果物(事例カード集/比較マトリクス/タイプ別チェックポイント+提案):40% 最終発表(質疑応答を含む):10%</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks 指定教科書なし。資料は授業内で配布(ELMS)。</p>
<p>講義指定図書 Reading List 指定図書なし(回ごとに参考文献・資料を提示)。</p>
<p>参照ホームページ Websites</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory UNESCO/ICOMOS等のヘリテージ関連機関 文化政策・文化財関連の公的情報(国内外) 自治体の文化資源・公園・施設運営に関する情報(年度対象に応じて)</p>
<p>備考 Additional Information 観光学高等研究センター: http://www.cats.hokudai.ac.jp</p>

科目名 Course Title	観光地理学演習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	吉沢 直 [YOSHIKAWA Nao] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083416
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	観光地理学、観光目的地、リゾート、サステナブル・トランジション、スキー観光		
授業の目標 Course Objectives	多様な観光目的地の形成や空間構造、観光客行動の空間的特性などに関する観光地理学の基本概念や事例研究を取り上げ、理解を深める。また、持続可能なツーリズム形態への移行について、スキー観光を事例に議論していく。その際、分析方法など実践的な手法も紹介することで、総合的な知識と思考力を身につける。		
到達目標 Course Goals	さまざまな観光地域の構造やツーリズムの現代的な課題を理解し、持続可能な形態への移行について考えることができるようになる。		
授業計画 Course Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと観光地理学的思考法 2. 海岸リゾートの地域構造 3. 温泉地の地域構造 4. フィールドワーク(北海道の温泉地) 5. 日本のスキーリゾートの発展プロセス(黎明～衰退期) 6. 日本のスキーリゾートの発展プロセス(衰退～国際期) 7. フランスのスキーリゾートの発展プロセス 8. スキーリゾートの気候変動への対応 9. ツーリズムの気候変動への対応 10. ツーリズムの気候変動への対応 11. フィールドワーク(北海道のスキーリゾート) 12. フィールドワーク(北海道のスキーリゾート) 13. グループ課題(リゾートの将来シナリオを考える) 14. グループ課題(リゾートの将来シナリオを考える) 15. 授業の総括 		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	受講者は授業へ積極的に参加し、関心の観光地域やテーマの文献・学術論文を読み、他のメンバーとディスカッションを行う。		
成績評価の基準と方法 Grading System	最終レポート(50%)とディスカッション(50%)		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks			
講義指定図書 Reading List	スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストリアの比較研究／吳羽正昭：二宮書店，2017		
参照ホームページ Websites			
研究室のホームページ Websites of Laboratory			

備考 Additional Information

フィールドワーク(北海道の温泉地)は10月23日(金)午後に定山溪温泉(予定)にて行う。

フィールドワーク(北海道のスキーリゾート)は1月16日土曜日(午後)に倶知安町(ニセコ地域)にて行う。

どちらも現地集合・現地解散で2時間程度の活動時間を予定している。

やむをえない事情で、実習に参加できない場合は観光地理に関するオンデマンド授業を用意する。

科目名 Course Title	森林美学演習【履修証明プログラム】□		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	上田 裕文 [UEDA Hirofumi] (大学院メディア・コミュニケーション研究院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083417
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	森林美学、森林風致、自然資源マネジメント、地域社会、ランドスケープ計画		
授業の目標 Course Objectives	森林美学の系譜とその今日的意義、実践手法としての森林風致計画の理念を学ぶ。森林の多面的機能や生態系サービス、森林サービス産業について、実習を通して実践的に学ぶ。		
到達目標 Course Goals	本演習を受講した学生は、以下の学習目標に到達することが期待される。 (1) 森林美学の概念を理解し、持続可能な森林管理のあり方を説明できる。 (2) 国内外における森林サービス産業の現状と課題について、自ら分析・評価することができる。 (3) 地域の課題を解決する森林サービス産業を構想し、説得性のあるプレゼンテーションができる。		
授業計画 Course Schedule	座学と実習の2セクションに大別し、授業を行う。 第1セクション: 森林美学の概要 第1回 6/17 座学 森林美学の概要 第2回 6/24 座学 ドイツの森林美学 第3回 7/1 座学 日本の森林美学 第4回 7/8 座学 景観把握 第5回 7/15 座学 景観評価の事例 第6回 7/29 座学 森林サービス産業 第2セクション: 森林に関するフィールド実習 第7-15回 フィールド実習 北海道大学苫小牧研究林または東京大学富良野演習林(8月前半2泊3日) なお、授業の実施順序やフィールド実習地を都合により変更する場合は適宜、事前に通知する。		
準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework	文献調査やフィールド実習の事前準備、データのとりまとめやプレゼンテーション作成など、授業時間内で終わらなかった分は宿題となる		
成績評価の基準と方法 Grading System	以下の内容を総合して評価を行う。 (1) 議論とフィールド実習への積極的な取り組み姿勢 30% (2) レポート課題 20% (2) 最終プレゼンテーション 50%		
他学部履修の条件 Other Faculty Requirements			
テキスト・教科書 Textbooks	森林生態系の保全管理／上田裕文・梶光一・宮本敏澄・小池孝良編著: 共立出版, 2025		

講義指定図書 Reading List

森林風景計画学／塩田 敏志 編:地球社, 2008

森林美学／小池孝良・清水裕子・伊藤太一・芝 正己・伊藤精悟 監訳:海青社, 2018

森への働きかけ: 森林美学の新体系構築に向けて／湊克之 編:海青社, 2010

復刻版・森林美学／新島善直・村山醸造:北大図書刊行会, 1991

参照ホームページ Websites**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

<https://www.imc.hokudai.ac.jp/imcts/teacher/001170.html>

備考 Additional Information

講義は6月17日よりスタートし、フィールド実習(8月前半2泊3日の予定)を含みます。

科目名 Course Title	広報・広告産業論演習【履修証明プログラム】[PR Service Industry Studies]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	電通 [DENTSU] (国際広報メディア・観光学院)		
担当教員 Other Instructors			
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083418
期間 Semester	1学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	<p>広告、広報、広告業界、PR産業、広告会社、PR会社、経営戦略、マーケティング、CSR、危機管理広報、マス・メディア、インターネット、デジタル、ソーシャルメディア、イベント、スポーツイベント、ライセンス、グローバル、クリエイティブ、消費者行動、ブランド体験</p>		
授業の目標 Course Objectives	<p>広報・広告産業の活動・役割に関し、国内外での実態を分析、主要な機能である広告制作と効果把握のための関連調査・分析手法、広報・広告制作、地域社会の経済との連携の実態と課題をケースを通して把握する。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>1. 広報・広告業界における具体的なビジネスの仕組みを説明できる。 2. 企業の広報・広告活動の役割や意義を整理し、適切に表現できる。 3. 広報・広告に関する基本的なリテラシーを活用し、業界の動向や実務について考察できる。 4. 具体的な事例をもとに、企業の広報・広告活動を分析し、その特徴や影響を論理的に説明できる。</p>		
授業計画 Course Schedule	<p>株式会社電通の現役担当者による連続集中講義</p> <p>第1セッション：電通業・広告業の全体論・概要(4/10 - 水上)</p> <p>1. 広告とは： 広告の社会的な機能や意義を考察する 2. 広告業界概観： 広告業界のトレンドを概観する 3. 広告会社の仕事： 広告会社における実際の仕事の流れを確認する 4. マーケティング： 広告会社で取り組むマーケティング業務について概観する 5. クリエイティブ： 広告会社で取り組むクリエイティブ業務について概観する 6. メディア・コンテンツ： 広告会社で取り組むメディア業務コンテンツ業務について概観する 7. ビジネストラנסフォーメーション：電通で取り組むビジネストラנסフォーメーションについて概観する 8. これからの広告・広告会社・広告人：これから求められる広告や広告会社、広告人について考察・議論する</p> <p>第2セッション： 広報とPR(5/8 - 河南)</p> <p>1. PR 業界の変遷からPRの本質と社会的機能を考察する。 2. PR 業務の広がりについて確認する。 3. 広報戦略の立て方とプロセスについて議論する。 4. 広報事例について学ぶ。</p> <p>第3セッション：日本と世界のクリエイティブ 2026(5/29 - 嶋野)</p>		

1. 最近の広告表現の傾向:世界の広告表現の動向を作品を通して見る。
2. 広告表現技法:メディア変化による広告表現技法の多様化と拡張を探る。
3. クリエイティブトライ:広告クリエイティブのスキルで課題解決に挑戦。

第4セクション:北海道の地域社会と地域経済の共成長(6/19 - 横澤)

1. 北海道は社会課題の最先端地域。少子高齢化の時代の持続可能な地域社会を考える。
2. 北海道の新たな産業(「観光」「GX」「半導体」…)と、地域の暮らしや環境。北海道の新たな産業と地域社会の幸せな関係性。

第5セクション:デジタル、AI、テクノロジーとクリエイティブ(7/10 - 佐々木)

1. デジタル化の本質(広告のあり方を変えた、生活者の変化と表現手法の変化)
2. AI時代のコミュニケーション(世界の事例をもとにしたクリエイティブ手法の分類)
3. テクノロジーとブランド体験創造(生活者とブランドの新しい関係性づくり)

※講師および講演内容は変更になる場合があります。

準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

事前に、新聞やテレビなどでの広告をよく見ておくことが望ましい。また、企業の発信する情報内容について常に興味を持つこと。

期末にレポートが課されるので、講義内容と実際の広告・広報を常に意識し、復習することが望まれる。

成績評価の基準と方法 Grading System

成績評価は、(1)クラスディスカッションへの参加、貢献の度合いを30%、(2)課題レポートの内容を70%として総合的に評価する。

他学部履修の条件 Other Faculty Requirements

テキスト・教科書 Textbooks

特に教科書は定めないが、講義プリント、ビデオなどにより進められる。

講義指定図書 Reading List

The Dentsu way / K.Sugiyama, T.Andree: 講談社, 2002

広報・PR概説 / 公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会: 電通, 2005

:McGrawHill, 2011

参照ホームページ Websites

<http://www.dentsu.co.jp/>

研究室のホームページ Websites of Laboratory

備考 Additional Information

1. 当科目全5回の授業のうち、2回以上欠席した者は成績評価の対象としない
2. 30分を超える遅刻は欠席扱いとする
3. 一度も出席していないセッションに対してレポートを提出することはできない
4. レポート作成において、AIを使用したと判断された場合、そのレポートは評価の対象としない
5. 提出されたレポートに深刻な剽窃が認められた場合、そのレポートは評価の対象としない

講義運営担当者: オン・イーシュエン(メディア・コミュニケーション研究院、yixuan.ong@imc.hokudai.ac.jp)

他学部等の履修は可とするが、事前に運営担当教員に連絡・相談のこと。開講日に注意のこと。

科目名 Course Title	デジタル・コミュニケーション論演習【履修証明プログラム】[Strategic Digital Communication]		
講義題目 Subtitle	□		
責任教員 Instructor	田口 孝紀 [TAGUCHI Takanori] ((株)野村総合研究所)		
担当教員 Other Instructors	中川 理 [NAKAGAWA Satoru](メディア・コミュニケーション)		
科目種別 Course Type			
開講年度 Year	2026	時間割番号 Course Number	083419
期間 Semester	2学期	単位数 Number of Credits	2
授業形態 Type of Class		対象年次 Year of Eligible Student	～
対象学科・クラス Eligible Department/Class			
ナンバリングコード Numbering Code			
大分類コード・名 Major Category Code, Title			
開講部局			
レベルコード・レベル Level Code, Level			
中分類コード・名 Middle Category Code, Title			
小分類コード・名 Small Category Code, Title			
言語コード・言語 Language Code, Language Type	0 日本語で行う授業		
他学部履修等の可否 Availability of other faculties	1 可		
補足事項 Other Information			
授業実施方式 Class Method	1 対面授業科目《対面のみ》		
キーワード Key Words	戦略的コミュニケーション、コーポレートガバナンス(企業統治)、経営戦略、意思決定メカニズム(株主総会・取締役会)、スマートシティ、地域創生、観光 DX、コンテンツツーリズム(メディア・ツーリズム)、価値共創、DX 推進(業務変革)、生成 AI 活用、AI ガバナンス(ハルシネーション対策・著作権リスク)、レピュテーション管理、ロジカル・コミュニケーション(論理的思考)		
授業の目標 Course Objectives	<p>本演習は、野村総合研究所(NRI)にて国内外での経営コンサルティング、海外拠点でのマネジメント、全社のコーポレートガバナンス、そしてコンサル業務における AI 活用・DX 推進を歴任した実務家教員による、経営とメディアを統合する実践講座です。組織がミッションを遂行するためには、対外的な広報活動だけではなく、「会社の仕組み」を深く理解した上での意思決定と、株主を始めとしたステークホルダーとの戦略的な対話が不可欠です。本講義では、以下の4つの視点からデジタル・コミュニケーションについて再定義します。</p> <p>第一に「会社の仕組みの視点」です。会社がどのように計画を立て、意思決定しているかについてメカニズムを分かりやすく解説し、社内でのコミュニケーションのあり方を学びます。第二に「グローバルの視点」です。日本国内の地域創生や海外のスマートシティ等の事例を通じ、都市機能のデジタル化が観光体験や地域経営に与える影響を考察します。第三に「AI 活用の攻めと守りの視点」です。DX 推進による業務変革(攻め)と、ハルシネーション等のリスクに対するレピュテーションリスクへの対応(守り)について、実務経験を基に議論します。第四に「観光・文化の視点」です。アニメ等のコンテンツツーリズム(メディア・ツーリズム)を題材に、デジタル空間におけるファンとの価値共創について考えます。</p> <p>また、これらを支える基礎能力として、コンサルタントの実務に裏打ちされた「ロジカル・コミュニケーション」のトレーニングを毎回実施し、論理的かつ創造的なリーダーを育成します。</p>		
到達目標 Course Goals	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営メカニズムの理解: 会社の基本的な成り立ちと意思決定のメカニズムを理解し、会社経営の視点からステークホルダーに対する戦略的なコミュニケーションのあり方を説明できる。 2. デジタル・地域戦略の立案: スマートシティやコンテンツツーリズムの国内外の事例を参照しながら、地域の価値を高めるための構想やアイデアを構想できる。 3. AI リスクと推進のバランス: 業務効率化に向けた AI 活用(攻め)と、ハルシネーションや著作権侵害といった AI リスクへの対応(守り)について、社会人として求められるマナーを理解し、正しく AI を活用できる。 4. 実践的スキルの習得: 複雑な課題に対し、論理的な構成(ロジカルシンキング)を用いて解決策を提示し、プレゼンテーションによって相手を納得させる能力を身につける。 		
授業計画 Course Schedule	<p><授業の方法></p> <p>本演習は5回の集中講義形式で行います。</p> <p>演習は、基礎知識を得るための講義と、具体的な事例やテーマをもとにしたグループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションによって構成されます。講義の中ではグループワークでのアウトプットに対する講評に加え、スキルアップのためのフィードバックを一人ずつに丁寧に行います。</p> <p><授業計画></p> <p>◇第一講: 日本の会社はどう動いているのか?</p> <p>(1) 会社の仕組みと意思決定(一般的な会社組織の構造や内部でのコミュニケーションのあり方)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習①(構造化と論理のピラミッド)</p> <p>◇第二講: グローバル経営と地域創生(都市と観光のDX)</p>		

<p>(1) 海外のスマートシティと日本の地域創生(都市 OS・データ活用と観光への影響)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習②(文脈設計と異文化理解)</p> <p>◇第三講:AI 活用の攻めと守り(DX 推進とリスク管理)</p> <p>(1) DX 推進と AI ガバナンスの実務(コンサルタントの働き方・AI 活用とリスク)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習③(日常生活における AI 活用策とリスク対策)</p> <p>◇第四講:コンテンツツーリズムと価値共創(観光・文化の視点)</p> <p>(1) メディア・ツーリズムとデジタル・エンゲージメント(聖地巡礼とファン共創のメカニズム)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習④(ストーリーテリングと企画提案)</p> <p>◇第五講:デジタル・コミュニケーション論演習(まとめ)</p> <p>(1) 経営戦略とデジタル社会の形成(総括)</p> <p>(2) ロジカル・コミュニケーション演習(最終プレゼンテーションと講評)</p>
<p>準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介シート ・講義の振り返りレポート(第一講～第四講後に提出)、最終レポート(第五講後に提出) <p>作成に必要な時間は振り返りレポートは 30 分～1 時間程度、最終レポートは 1～2 時間程度です。 具体的なテーマ、書き方等は講義の中で説明します ・次回テーマ(例:生成 AI の著作権問題)に関するニュースを 1 つ選んでくること</p>
<p>成績評価の基準と方法 Grading System</p> <p>次の点を総合的に評価する。試験は行わない。</p> <p>(1) レポートの提出状況・内容(情報収集状況と理解度)</p> <p>(2) 授業への出席状況、毎回のグループディスカッション及びグループワークにおける貢献度(積極性・発言内容など)</p> <p>(3) 発表及び質疑応答の内容(プレゼンテーション技術・論理性・独創性など)</p> <p>※それぞれの評価の比率は(1)=40%, (2)=20%, (3)=40%とする。</p>
<p>他学部履修の条件 Other Faculty Requirements</p>
<p>テキスト・教科書 Textbooks</p> <p>特に無し。履修者の習熟度にあわせて講義の中で紹介する。None.</p>
<p>講義指定図書 Reading List</p> <p>特に無し。履修者の習熟度にあわせて講義の中で紹介する。None.</p>
<p>参照ホームページ Websites</p> <p>なし。None.</p>
<p>研究室のホームページ Websites of Laboratory</p> <p>なし。</p>
<p>備考 Additional Information</p> <p>なし。</p>